

間 城 跡

HAZAMA

- 中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書 -

2000.3

建設省

高知県教育委員会

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



間城跡航空写真



間城跡航空写真



間城跡航空写真



江の村航空写真

巻頭白黒



江の村航空写真（昭和39年撮影）

序

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターでは、中村市と宿毛市間を結ぶ高規格道路建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査を平成4年度から建設省四国地方建設局の委託を受け実施しております。高規格道路が通る中筋平野は中筋川により形成された中村市の中でも有数の平野であります。高規格道路が通る中筋平野は中筋川により形成された中村市の中でも有数の平野であります。県下でも有数の遺跡が所在する地域でもあり、中筋川に沿うように中世の山城が点在しています。

本書は、平成9年度に発掘調査された間城跡の調査成果をまとめたものです。現在までに発掘された城跡と比べ、小規模な城跡ではありますが、曲輪間に堀切、段状遺構を設ける等優れた防御施設をもった城跡であります。この報告書が埋蔵文化財の保護、保全、今後の考古学、城跡研究の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査の実施、報告書作成にあたりましては、建設省四国地方建設局中村工事事務所の埋蔵文化財に対しての深い御理解と御協力を賜りましたことに心から謝意を表するとともに、発掘調査、報告書作成に関し、関係者各位に多大な御指導と御教授を頂いたことに厚く御礼申し上げます。

平成12年3月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 河崎正幸

例言

- 1 本書は、高規格中村宿毛道路建設に伴う間城跡の発掘調査報告書である。
- 2 間城跡は中村市江の村間に所在する。
- 3 調査は建設省四国地方建設局・高知県の委託を受け、本調査は平成9年5月から10月まで実施した。本発掘調査面積は5,500m²である。
- 4 発掘調査は（財）高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。調査体制は以下の通りである。

（1）調査担当

松田 直則（高知県文化財団埋蔵文化財センター主任調査員）
堅田 至（同上 主任調査員）
筒井 三菜（同上 調査員）

（2）総務担当

吉岡 利一（同上 主幹）
山崎 詠子（同上 臨時職員）

- 5 本報告書の作成・執筆・編集は筒井が行った。
- 6 検出遺構に関しては柱穴（P）で標示している。出土遺物の実測番号は、写真図版中の番号と一致している。
- 7 現地調査及び報告書を作成するにあたっては、松田直則氏、中井 均氏（滋賀県米原町教育委員会）をはじめ諸氏の御教授を頂いた。記して感謝する次第である。
- 8 遺構、遺物の測量及び写真撮影は各調査員が行い、調査区全体の航空測量は（株）三和航測に委託した。
- 9 発掘調査及び遺物整理、報告書作成については下記の方々に御協力頂いた。

発掘調査

浜田 昌一、野並 いおり、岡本 寅美、岡本 覚、秋森 広松、田辺 勝茂、岡本 弘美、
沖 和子、布 陽子、松本 菊美、中山 昭子、長崎 竹美、岡本 芳子、平地 五月、畦元
順子、成子 喜代子、松井 澄子、北川 久子、武政 松子、川村 勉

遺物整理、報告書作成

岡本 智子、岡村 朋美、野町 和人、橋田 美紀、宮地 佐枝、益井 和子、飯田 縁、
黒岩 佳子、澤本 友子

- 10 調査にあたっては、建設省四国地方建設局中村工事事務所の御協力を頂いた。また間地区長をはじめ地元住民の方々に遺跡に対する深いご理解とご援助をいただき厚く感謝の意を表したい。
- 11 出土遺物、その他図面類の関係資料は高知県文化財団埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第 章 調査に至る経過.....	1
調査日誌抄.....	2
第 章 地理的・歴史的環境.....	5
1.地理的環境.....	5
2.歴史的環境.....	5
3.幡多における城跡.....	9
第 章 調査の概要.....	17
1.城跡の概要.....	17
曲輪1	
曲輪2	
曲輪3	
2.方法.....	20
3.基本層序.....	22
第 章 調査の成果.....	31
1.検出遺構.....	31
柱穴	
堀切	
段状遺構	
2.出土遺物.....	36
曲輪1	
曲輪2	
曲輪3	
第 章 まとめ.....	41
付編 中筋川流域における小村の景観復元.....	45

図版目次

Fig.1	高知県及び中村市位置図.....	1
Fig.2	中村市及び高知県の各市町村.....	5
Fig.3	周辺の遺跡分布図.....	8
Fig.4	幡多地方の城跡分布図.....	13
Fig.5	調査対象地位置図.....	17
Fig.6	調査対範囲図.....	18
Fig.7	間城跡概要図.....	19
Fig.8	グリット設定図.....	21
Fig.9	調査区全体図及び断面図.....	23
Fig.10	セクション図 1.....	25
Fig.11	セクション図 2.....	27
Fig.12	セクション図 3.....	29
Fig.13	曲輪 1・柱穴平面図.....	31
Fig.14	柱穴平面図及び断面図.....	32
Fig.15	堀切平面及び断面セクション図.....	34
Fig.16	段状遺構平面図.....	35
Fig.17	曲輪 2・3平面図.....	37
Fig.18	曲輪 1 出土遺物実測図.....	38
Fig.19	曲輪 2・3表採遺物実測図.....	39
Fig.20	城跡位置関係図.....	41
Fig.21	中筋川流域の中世村落位置図.....	46
Fig.22	間村小字復元図.....	47
Fig.23	検地実施日復元図1 (ハサマノ村).....	48
Fig.24	長宗我部地検帳地目内訳図1 (ハサマノ村).....	49
Fig.25	江ノ村地目復元図.....	51
Fig.26	森沢村小字復元図.....	57
Fig.27	検地実施日復元図2 (森沢村).....	59
Fig.28	長宗我部地検帳地目内訳図2 (森沢村).....	60
Fig.29	中世江ノ村・森沢村復元図.....	63

表目次

Tab.1	幡多の城跡一覧表1
Tab.2	幡多の城跡一覧表2
Tab.3	遺物観察表
Tab.4	江ノ村地目・水田割合表
Tab.5	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 1
Tab.6	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 2
Tab.7	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 3
Tab.8	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 4
Tab.9	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 5
Tab.10	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 6
Tab.11	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 7
Tab.12	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 8
Tab.13	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 9
Tab.14	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 10
Tab.15	長宗我部地検帳ホノギ一覧表 11
Tab.16	江ノ村地目別合計表

写真図版

巻頭 1	間城跡航空写真（カラー）
巻頭 2	間城跡航空写真（カラー）
巻頭 3	間城跡航空写真（カラー）
巻頭 4	江の村航空写真（カラー）
巻頭 5	江の村航空写真（昭和39年撮影）
PL.1	間城跡発掘前遠景（伐採前）、間城跡発掘前遠景（伐採後）
PL.2	間城跡雑木伐採状況、間城跡伐採後状況
PL.3	曲輪 1 からの前景、堀切掘削前と作業状況（西より）
PL.4	曲輪 1 東西ベルト南壁セクション（南より）、同上
PL.5	曲輪 1 掘削状況、曲輪 1 北斜面セクション（段状遺構）
PL.6	曲輪 1 平坦部南壁セクション（南より）、曲輪 1 西斜面南壁セクション（南より）

- PL.7 曲輪1 東斜面北壁セクション(北より) 同上
- PL.8 曲輪1 東斜面南壁セクション(南より) 曲輪1 北斜面と堀切
- PL.9 曲輪1 北西斜面部トレンチ・セクション、同上
- PL.10 曲輪1 堀切セクション、堀切掘削前景と作業風景
- PL.11 曲輪1 柱穴半截・完堀状況
- PL.12 曲輪1 完堀状況(上空北より) 堀切完堀状況(上空より)
- PL.13 堀切遺構完堀状況(上空西より) 堀切遺構完堀状況(上空東より)
- PL.14 曲輪2 掘削前ベルト設定状況(南より) 同上(北より)
- PL.15 曲輪2・3 平坦部(南より) 同上(曲輪1より)
- PL.16 曲輪2・3 西斜面部掘削状況、曲輪2 西斜面部トレンチ
- PL.17 曲輪2 南斜面セクション、曲輪3 平坦部南壁セクション(西より)
- PL.18 曲輪3 平坦部南壁セクション(南より) 曲輪3 平坦部西壁セクション(西より)
- PL.19 曲輪3 平坦部掘削状況、曲輪3 東斜面南壁セクション
- PL.20 完堀状況遠景(北より) 同上
- PL.21 完堀状況(西より) 同上(東より)
- PL.22 出土遺物1
- PL.23 出土遺物2
- PL.24 出土遺物3
- PL.25 出土遺物4
- PL.26 出土遺物5
- PL.27 森沢城跡と中筋川遠景、森沢城跡遠景

第 章 調査に至る経過

高知県西部に位置する幡多地域は「最後の清流」といわれる四万十川で有名な地である。その幡多地域の経済・政治的中心地が中村市である。中村市は四万十川の下流域にあたり、市内を南北方向に流れる後川と東西方向を流れる中筋川が分岐している。四万十川流域には旧石器時代から近世に至るまで数多くの遺跡が散在しているが、支流である中筋川にも各時代の遺跡が川の地形に沿うように存在している。

高知県においては現在高知空港拡張に伴う田村遺跡群の発掘調査、高知自動車道建設に伴う発掘等近年まれにみる大規模な発掘調査が行われている。中村市においては中村市と宿毛市を結ぶ主要道路となる高規格道路建設が急がれている。この道路建設に伴い道路工事区域内では事前の発掘調査が平成4年度から行われてきている。平成4年度には中村市江の村地区において中世城郭であるハナノシロ城跡・江ノ古城跡の発掘調査と弥生から古墳時代の良好な遺物・遺構を検出した西ノ谷遺跡の調査がおこなわれた。翌年には森沢地区に所在する船戸遺跡の調査が行われ、縄文時代から中世に至るまでの良好な遺構・遺物を検出している。平成6年度からは高知県でも最大規模を誇る遺跡である具同中山遺跡群の調査が三ヶ年に亘り行われ、古墳時代の河川祭祀に伴う遺構・遺物等の貴重な資料を提示している。

江の村の間地区には事前の遺跡分布調査により山城である間城跡の存在が指摘されていた。中村宿毛間の道路計画路線内には本城跡が位置しており、建設省四国地方建設局中村工事事務所と高知県教育委員会の協議の結果、間城跡の記録保存を目的とする発掘調査が行われる運びとなった。平成9年4月1日付けで委託契約を締結し、調査は高知県教育委員会が受託し、財団法人高知県埋蔵文化財センターが実施した。発掘調査面積は約5,500m²を対象として平成9年5月6日から10月14日まで行われた。

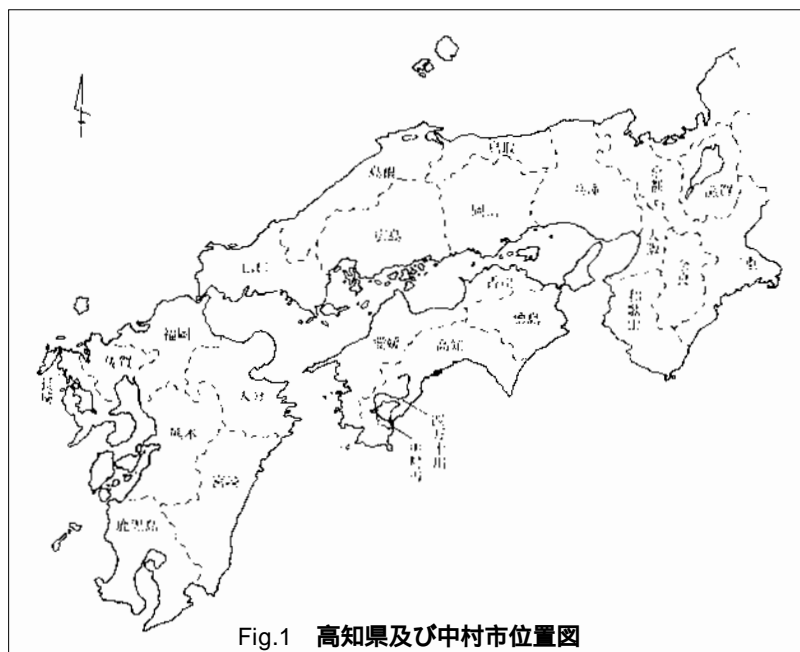


Fig.1 高知県及び中村市位置図

調査日誌抄

1997年4月21日

調査区の測量基準点の設置のため、測量会社との打ち合わせを行う。

4月22日.5月2日

間城跡の調査区範囲の確認を行う。

5月6日

本日より調査区内の雑木、雑草等の撤去作業を行う。

5月7日

昨日と同じく調査区内における雑木類の撤去作業を引き続き行う。午前には作業プレハブの搬入、設置作業を行う。午後には調査区内の測量基準点の設置を(株)ワタリコンサルタントが行う。

5月8日

調査区内での雑木を利用した土止め用の杭を作成する。

5月12.13日

引き続き調査区内の雑木、雑草類の撤去作業を行う。

5月14日

降雨のため、作業は中止する。書類等の整理を行う。

5月15日

調査区と区外との間に土止め用のシートを設置する。調査区内の清掃の後に調査前景の写真撮影を行う。その後、調査杭の設置を行う。

5月16日

降雨のため、作業中止。室内にて整理作業を行う。

5月19～23日

基準点を利用して調査杭を設定し、セクションベルトの設定を行う。曲輪2の平坦面から掘削を行うと同時に、 $S=1/200$ の地図を利用して城跡の縄張り図を作成する。また城跡の平板測量(地形測量)を $S=1/100$ で行う。

5月26日

引き続き表土掘削と平板測量を行う。

5月27日

M-10～13の西壁のセクションを $S=1/20$ で測量を行う。M-10～12の南北ベルトにおける土層堆積状況の写真撮影を行う。

5月28～30日

M-10～14の表土掘削を行う。M-13西壁セクションの写真撮影を行う。29日はM-13で古銭が出土する。

6月2日

M-10～13の表土掘削を行う。曲輪2の西壁セクションベルトの測量を行う。

6月3日

M-13～16、L-23、24の表土掘削を行う。M-13ラインの南壁セクションの測量を行う。

6月4日

曲輪2M-13.15、L-13の南壁セクションの写真撮影を行う。

6月5日

曲輪1にセクションベルトの設定を行い、表土掘削を始める。曲輪2と3の北西斜面部に約1m幅のトレンチを設定し、掘削を行う。堀切周辺の地形測量を平板で行う。

6月6日

曲輪1の表土掘削。曲輪2.3の北西斜面トレンチの



掘削。J - 26.28.29、N - 29.30、Q - 32の調査杭の設定を行う。

6月9日

曲輪1の表土掘削、北西斜面の平板測量を行う。曲輪1の西斜面にトレンチを設定をし、土層堆積の確認を行う。

6月10～12日

引き続き曲輪1の表土掘削と西斜面部トレンチの掘削を行う。曲輪3斜面トレンチの写真撮影を行う。

6月13日

曲輪3の平坦部にセクションベルトを設定し、表土の掘削を行う。平坦面については表土を除去するとすぐ岩盤にあたるため、土層堆積は非常に薄い。M - 14～17セクションの写真撮影を行う。

6月16.17日

曲輪1の掘削を行う。曲輪3西斜面部、堀切部分の掘り下げを行う。

6月18.20日

曲輪1の掘削。曲輪2の北斜面部については表土層のみ重機で掘削する。堀切の表土掘削を行う。

6月19日

降雨の為、作業を中止する。

6月23～27日

曲輪2北斜面部、曲輪1北斜面部（堀切）の掘削を続けて行う。曲輪1の西斜面部のセクション測量を行う。25日はN - 29の東壁写真撮影を行う。26日はO - 29北壁セクションの写真撮影と測量を行う。

6月30日.7月1～3日

曲輪1、堀切の調査を進める。曲輪1西斜面部は土層堆積の写真撮影、セクション測量後、表土のみを重機で掘削する。2.3日と滋賀県米原町の中井氏が来跡。ご意見、ご指導をいただく。

7月4日

堀切土層堆積状況の写真撮影、セクション測量をS = 1 / 20で行う。

7月7～9日

曲輪1の北斜面から堀切に向かいトレンチを設定

し掘削を行う。9日午後から降雨のため作業を中止する。

7月10.11日

降雨のため作業を中止する。

7月14～16日

曲輪1平坦面と斜面部を中心に調査を行う。O - 18、L - 28、M - 25ライン、北斜面トレンチセクションの写真撮影と測量を行う。

7月17日

雨の為作業を中止する。

7月22.23.28～31日

曲輪1北斜面部と曲輪2東斜面部、曲輪3西斜面部の調査を行う。曲輪2東斜面部では段状の平坦面は検出されなかった。28日より大方町、大月町、西土佐村の発掘調査担当者が実地研修を行う。

8月4～7.11日

曲輪2南斜面、曲輪2平坦面、曲輪3西斜面部の調査を行う。堀切は掘り下げを行う。6日は雨のため作業を中止する。

8月18～22日

曲輪2.3の調査を中心に行う。N - 14は写真撮影を行う。曲輪2の西斜面の上部は人力、下部は重機で掘削を行う。

8月25～29日

曲輪2.3西斜面部の調査を進める。L.M.Nの15ライン（東西ライン）セクションの写真撮影とM - 15南



壁セクションの測量を行う。

9月1.2日

曲輪2西斜面部の調査を続けて行う。排土はシューターで下に流していたため、溜まった土はダンプで買収地内に運ぶ。

9月3.4日

曲輪1の東斜面部調査に移る。斜面部はグリットごとにセクションベルトを設定し、掘り進める。

9月9～12日

曲輪1東斜面部の調査を続けて行う。0 - 29ラインは写真撮影後セクション図作成を行う。0 - 31も同様に写真撮影、測量を行う。上部は人力で掘削するが、下部は堆積が厚いため、表土のみ重機で掘削する。

9月16日

台風の為に作業を中止する。

9月17日

昨日の台風の為、城跡に通じる道路が水没し、作業不可能となる。午後からは0 - 29～31のセクションの写真撮影を行う。

9月18.19.22～26日

曲輪1.2.3の東斜面部と堀切部分の調査を行う。M - 24南壁セクションの写真撮影を行う。東斜面M - 23.0 - 23ライン南壁セクションの撮影を行い、S = 1 / 20で測量を行う。24日は堀切部分を清掃の後写真撮影を行う。東斜面部の排土はダンプで西側の買収地に運ぶ。

9月29日～10月3日

曲輪1.2.3の調査を行う。曲輪2.3は東斜面部の掘り下げを行う。曲輪1はセクションベルトの除去作業を行う。

10月6日

曲輪1.2はセクションベルトの除去作業を行う。曲輪1は平坦面での柱穴の検出を中心に行う。検出しP1.P2は写真撮影と平面、断面の測量をS = 1 / 10、平板測量をS = 1 / 100で行う。

10月8.9日

引き続き曲輪1.2の柱穴検出、掘削を行う。曲輪3のセクションベルトの除去も続けて行う。

10月13日

曲輪1.2.3の清掃作業を行う。(株)三和航測と城跡の航空測量についての打ち合わせ、測量点の設置を行う。

10月14日

城跡の航空測量と航空写真撮影を行う。終了後、発掘現場の後片付けと使用した農道の整地を行い作業を終了した。



第 章 地理的・歴史的環境

1.地理的環境

高知県は東西に長い扇を広げたような地形をしており、南側には黒潮荒い大平洋、北側に高く険しい四国山脈に囲まれている。また県内はよく東部、中部、西部に分けられ、それぞれ独自の風土を形成してきている。県土の約80%は山林、20%弱が耕地とほとんどが山林に占められており、耕地の大部分は大平洋側に集中している。中村市は高知県西部に位置し、東に大方町、西に宿毛市を接し、西

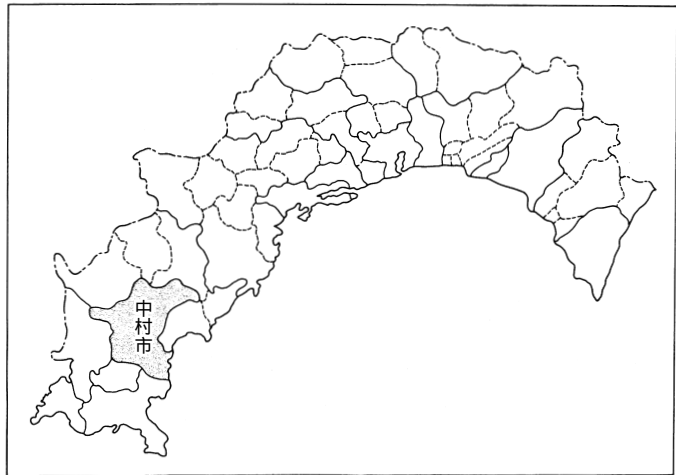


Fig.2 中村市及び高知県の各市町村

部域における経済の中心地である。面積は387.86km²と県内で最も広い面積をもつ市である。面積の80%を山林が占め、耕作地は8%弱と非常に低い土地である。中村市はまた「最後の清流」として全国的にも有名な四万十川下流域にひらけた地でもある。四万十川は総延長約192kmを測る大河である。市の北部を流域とする後川と東西を流域とする中筋川を支流にもち、間城跡はこの中筋川を10kmほど遡った右岸の標高約26mを測る丘陵上に立地している。

中筋川は宿毛市、中村市、幡多郡三原村を流れて四万十川下流右岸に合流する総流路延長36.4kmの河川である。河川の両岸には具同、森沢、楠島、国見、江の村の集落が開けており、中村においても有数の田園地帯を形成している。しかし、川の上流と下流とでは高低差がほとんどないことや中流から下流域にかけての数箇所では大きく蛇行しており、流れは平坦で非常に遅い。通常は穏やかな流れを呈している河川であるが、降雨や台風の時期になると日ごろの様相を異にしてしまう。現在の河川堤防が設置される以前は四万十川からの逆流現象のために河川は氾濫し、洪水による水害が頻繁に起こっていたようで、農作物への被害も大きく、集落の人々が生活する上で深刻な問題となっていたようである。間城跡の立地する江の村の間地区は現在は圃場整備された田園が広がるが、他と比べて地形が低くなっており、台風や降雨の時期には水がたまりやすい状況にある。

2.歴史的環境

中村市は旧国名でいう土佐国の西部、幡多郡に位置する。幡多郡一帯は「波多国」ともいわれ、近世以降に現在の幡多という名称に統一されたようである。現在は高知県の幡多地域として知られている地であるが、現在の中央部を土佐国、幡多郡を波多国というようにそれぞれ違う独自の文化圏を築いていたと考えられ、その幡多地域は県内でも遺跡の多い地域として知られている。中世においては一条氏、長宗我部氏、続く近世では山内氏によって統治されたきた歴史背景があり、いまなお一条氏時代に築かれたと考えられる中世都市の町並を色濃く残している場所でもある。ここでは中世の幡多庄についてその歴史的様相に少し触れてみたい。

中世の中村

中世における中村市は幡多庄に属している。幡多庄は正確な成立時期は不明であるが、平安時代には荘園として成立していたようで、鎌倉時代の初めには九条家の荘園となっている。『九条家文書』では九条道家の代には第三子の実経が一条家を創設するにあたり幡多庄を初めとする多くの所領を譲渡しており、建長2年（1250年）にはこの地は一条家の所領となっている。『金剛福寺文書』には中村に「船所職」がおかれたことが記載されており、幡多庄を中心とする荘園の年貢が中村に一度集められ、後川・四万十川を下り下田から京都へと運ばれたと考えられている。幡多庄は鎌倉時代を通じて一条家の荘園として発展していったのだが、一条教房の代（南北朝期）になると状況は一変してくる。1467年に勃発した応仁の乱前後は幡多の地も全国同様に土豪の台頭により荘園内の治安は悪化の一途を辿り、荘園の解体などが各地で進み、維持管理は難しくなっていたようである。これを契機に翌年の応仁2年（1468年）9月には教房は自ら都の戦火を逃がれ、領地の回復を目的に当地に下向し、現在の中村市街地に居館をかまえたと考えられている。また現在は「小京都中村」と言われるように、京都を模倣した碁盤目状の都市を形成する等の偉業を成し遂げている。その後荘園の回復につとめ、教房 - 房家 - 房冬 - 兼定と約100年に亘って幡多庄は一条氏に統治され、一条氏自身も公家（荘園領主）から戦国大名へと変貌していく。

一条氏と長宗我部氏

土佐国では南北朝期を経て室町時代には守護代である細川氏が田村庄（現在の南国市田村）に居館（田村城館）構え、頼益 - 満益 - 持益 - 勝益の4代に亘る統治が続けられたが、足利幕府権力の衰退に伴い細川氏の権力も没落に向かう。このような守護勢力の衰退は荘園制の崩壊を押し進めることとなり、この期に乗じて土佐国でも他国と同じく在地の土豪勢力の台頭がめざましくなる。国自体が群雄割拠の時代をむかえることとなる。そのころ、安芸郷（安芸市）を領土とした安芸氏、山田郷（土佐山田町）の山田氏、長岡郷（南国市）の長宗我部氏、本山の本山氏、吾川郷（春野町）の吉良氏、土佐郷（土佐市）の大平氏・津野氏により、勢力分化している。一方一条氏は『長元物語』に「土佐国七郡、大名七人、御所一人ト申ハ一条殿・・・・」と記載されているように「御所一人」として一目おかれる立場にあったと思われる。七守護のなかで突出していたのは長宗我部氏である。長宗我部氏は岡豊城を居城とした武将であるが、19代兼序の世（1504年）には本山氏・山田氏・吉良氏・大平氏の攻撃を受け一度落城してしまう。しかし落城に際し、嫡子（後の国親）は一条氏を頼り、当時教房の跡を継いだ房家の手元で擁護されることとなる。元服を終えた国親は一条氏の仲介により、岡豊城への帰城と領土回復を果たした。これ以後長宗我部氏の台頭は目覚ましいものとなり、七守護の領地へと進出していく。子の元親の代になると、長宗我部氏の台頭はめざましく徐々に幡多地域を脅かすようになる。そのころ幡多地域は兼定により統治されていた。長宗我部氏は他の土豪勢力を倒し、土佐国のほぼ半分以上を支配下に治めている。幡多でも長宗我部氏の勢力を驚異としていたが、この時期兼定と家臣の間に争いが起こり、兼定は幡多の地から家臣達に追放されてしまうが、家臣間においても内乱がおこり、この期に乗じて長宗我部氏は幡多庄を手中に治めることとなる。しかし、幡多の地を追われた兼定は義父である豊後国の大友氏を

頼り、その援軍のもと天龜3年（1575年）には長宗我部氏との渡川の合戦に臨むが、軍は敗北し、兼定は伊予国に逃れ、事実上長宗我部氏が幡多庄を統一することとなる。このとき兼定は栗本・扇城、長宗我部軍は中村城に陣を張ったといわれている。この中村城跡と栗本城跡はともに昭和58年に発掘調査されており、扇城は平成3年に同じく調査が行われている。幡多庄を約100年間に亘って統治した一条氏であるが、兼定の子内政は長宗我部氏により、大津城（現在の大津）を与えられるのみとなるが、後には謀反に荷担したとして追放されているようである。ここに土佐一条氏の300年間に亘る歴史は終止符が打たれることとなる。内政の子正親は長宗我部氏の家臣である久礼田氏に養育されるが、長宗我部氏の滅亡後は記述には姿をみせなくなる。

長宗我部氏の幡多進出

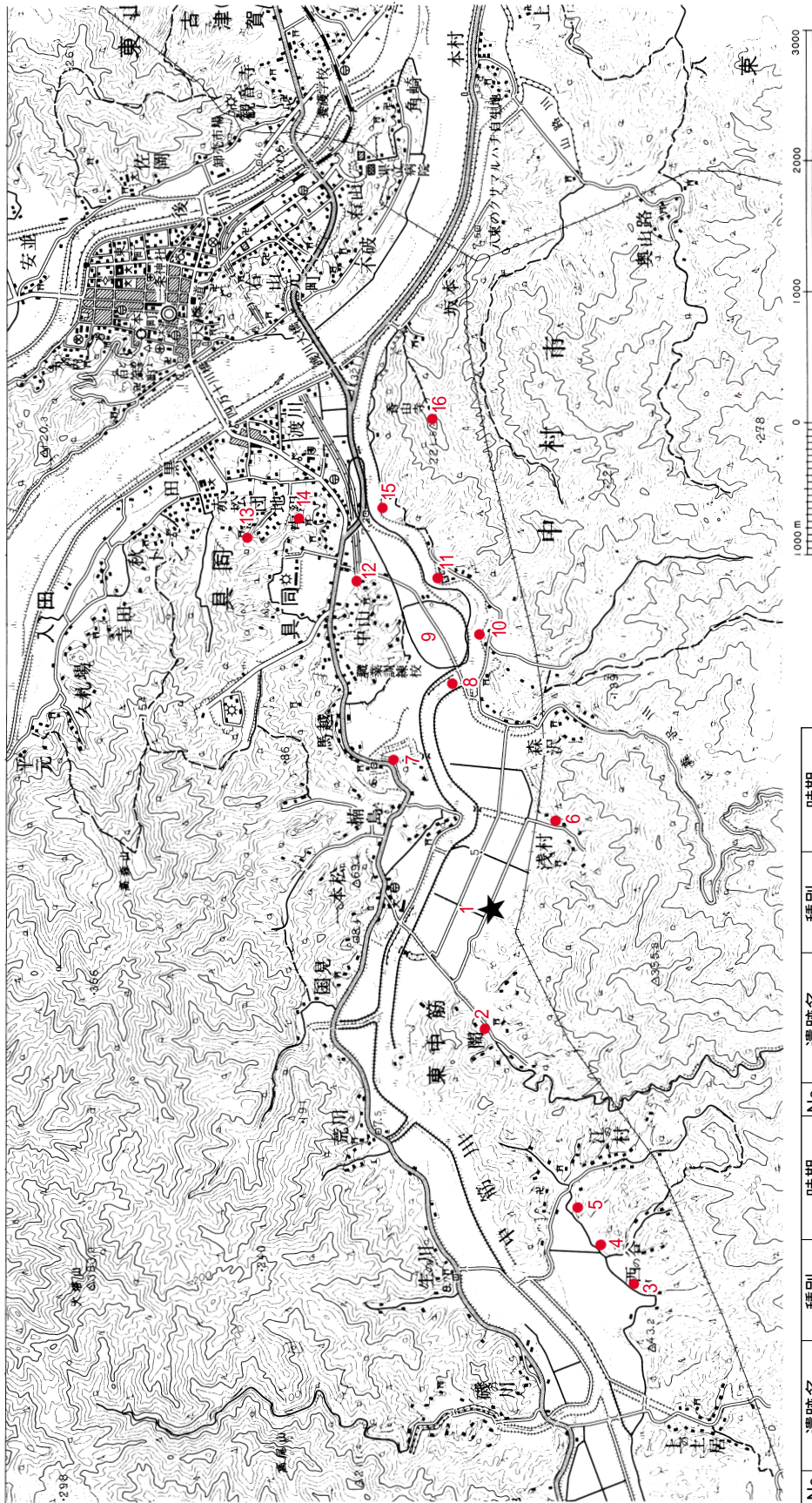
幡多の一条氏を破った長宗我部氏は天正3年(1575年)には土佐国内を平定する。幡多の地には中村城内（現中村市街地）に弟の吉良親貞を中村城監として配し、一条氏滅亡後の幡多を統治させている。その後、四国制覇を目指す長宗我部氏は阿波国・讃岐国・伊予国へと順次進出していき、10年後の天正13年（1585年）には一応の制覇をしたものの、四国討伐を目指し侵攻してきた豊臣軍に破れその傘下に下ることとなり、土佐国一国のみを所領するのみとなる。その後豊臣傘下のもと九州出兵などに出向くこととなる。

しかし、慶応5年（1600年）の関ヶ原の戦いで西軍（豊臣方）についた長宗我部氏であったが、東軍（徳川方）の勝利により土佐国の所領を奪われてしまう。代わって翌年には近江掛川の藩主であった山内氏が初代土佐藩主として入国し、高知城を拠点として土佐国を統治することとなる。幡多の地には同年の11月に弟の康豊が二万石を領して中村城監として配置され土佐中村支藩が誕生する。1615年の一国一城令により中村城は廃城となる。その後は中村支藩に代わり、幡多郡奉行が設置され幡多を統治することとなった。

中村市における中世遺跡

中世においては中村市では間城跡を含め数々の城跡が調査されているが、城跡については後述するとして、その他に調査された遺跡について述べていきたい。

中世においても先述したとおり、中筋川流域には遺跡が多く存在し、発掘調査された遺跡数も多い。四万十川と中筋川の結節点より約7.2km上流の右岸には古墳時代の祭祀跡として著名な具同中山遺跡群がある。発掘調査では古墳時代ばかりでなく、平安時代から集落が形成されており、鎌倉時代の掘立柱建物跡や貿易陶磁器、瓦器などが多く検出されていることから、この時期に盛行期をむかえていると考えられている。室町時代になると集落は小規模化しており、代わって周辺には墓地が形成されるようになる。遺跡の中筋川を隔てて対岸にはアゾノ遺跡が立地している。アゾノ遺跡は地震の噴砂跡を初めて検出した遺跡であるが、13世紀後葉から14世紀前葉にかけて集落が盛行しているが、地震のためか15世紀後半には集落自体は衰退している。アゾノ遺跡から上流約500mの地点の小さな入江状をした場所に船戸遺跡が存在しており、古墳から鎌倉時代にかけての流路跡のほか掘立柱建物跡、柱穴群を確認している。遺物では貿易陶磁器、瓦器のほかに石製の碇が出土し



No.	遺跡名	種別	時期	No.	遺跡名	種別	時期
1	間城跡	城跡	中世	9	具同中山遺跡群	祭祀・集落跡	縄文~中世
2	間遺跡	散布地	中世	10	風指遺跡	集落跡	弥生・平安・中世
3	西ノ谷遺跡	集落跡	弥生~古墳	11	アノノ遺跡	集落跡	中世
4	八ナノシロ城跡	城跡	中世	12	近沢城跡	城跡	中世
5	江ノ古城跡	城跡	中世	13	扇城跡	城跡	中世
6	浅村遺跡	散布地	中世	14	栗本城跡	城跡	中世
7	楠島城跡	城跡	中世	15	具重遺跡	祭祀遺跡	古墳
8	船戸遺跡	集落跡	縄文・古墳~中世	16	香山寺跡	社寺跡	中世

Fig.3 周辺の遺跡分布図

ており、遺跡の立地や船戸という地名からも中筋川を往来する川舟の停泊地（河津）として機能していたのではないかと考えられている。

3. 幡多における城跡

中村は中世は一条氏、長宗我部氏により統治された地である。戦国時代にあたるこの時期は全国各地で城作りが行われている。県内においても同様に多くの城跡の築城が行われており、間城跡を含め74城跡が中村だけで確認されている。近年県内においても大規模な発掘調査がおこなわれ、城跡の調査事例も多くなっている。ここでは中村および周辺地域で発掘された城跡の概要について大まかではあるが述べていきたい。

1. ハナノシロ城跡

中村市江の村に所在し、四万十川と中筋川の結節点から上流に約13km遡った右岸の標高35m前後を測る丘陵上に立地する山城である。築城年代や城主等については不詳であるが、天正17年に行われた長宗我部氏による江ノ村の検地では城の記載はなく、この段階ですでに廃城となっていると思われる。城跡の同尾根上の東方向には江ノ古城跡、西方向には西ノ谷城跡、久木ノ城跡が存在している。城跡は主に5箇所曲輪から構成されており、発掘調査では詰を中心とする4箇所曲輪から掘立柱建物跡をはじめ柵列、虎口状遺構、堀切状遺構、土坑などが検出されている。曲輪2の東斜面部では人工的に段を造り敵の斜面部からの侵入を防ぐ難壇状遺構が形成されており、小規模な城跡ながらも防御面では優れた配置がなされていたことが確認されている。青磁・白磁などの出土遺物からは15世紀後半代を中心に機能していたと考えられ、隣接する江ノ古城跡の支城として機能していた可能性が高い城跡である。また周辺の遺跡の立地環境、長宗我部段階の小字、城跡の規模や縄張りからは、前方を流れる中筋川での河川交通を見張る性格を兼ね備えた城跡であったとも考えられている。

2. 江ノ古城跡

ハナノシロ城跡と同じく中村市江の村に所在する。中筋川右岸の標高58mを測る丘陵状に立地しており、ハナノシロ城跡から東へ約150m地点に所在する。城跡は東西約210m、南北370mを測る規模をもち、『土佐州郡志』によると江野撰津守の居城であったと記載された城跡である。長宗我部地検帳の江ノ村検地での記載にはエノジョウの記載がみられ、「ツメノタン」・「二ノ塀」・「東二ノ塀」・「三ノ塀」の名称が残っている。しかし、共に荒地として記載されており、検地の段階ですでに廃城となっているようである。発掘調査はハナノシロ城跡と共に行われたが、調査対象地が2箇所平坦地形と西南斜面のみに限られており、城跡全体の様相を知り得ることはできなかった。出土遺物からみると、ハナノシロ城跡と同時期に機能しており、城跡の立地環境、規模、縄張り、他の城跡との位置関係からは江ノ村集落の本城としてこの時期存在していたと考えられる。

3. チシ古城跡

中村市実崎地区の標高38.5mの丘陵端部に立地する。四万十川下流、中筋川との合流地点付近の右岸に位置し、城跡の北方向には中村市街地、東側には四万十川を臨んでいる。北西方向約1.5kmに山路城跡、南西方向には岡崎ノ城跡、深木城跡、サコノ城跡など周辺には山城が点在している。築城年代や城主については不詳である。長宗我部地検帳ではチシ古城は下畠になっており検地段階では廃城となっていた可能性が強い。また地検帳には一条氏家臣である山路氏分から長宗我部氏の家臣である光富次良兵衛分へと記載されており、チシ古城周辺は直轄地であったと考えることができる。現況では、詰、土塁状地形などが確認されていたが、後世による攪乱が著しいため、詰部分での遺構確認には至っていない。出土遺物の土師質土器、青磁からは15世紀から16世紀前半の時期が想定されており、山路城跡との位置関係からは長宗我部氏以前には山路城跡の出城的存在であったのではないかと考えられている。

4. 扇城跡

四万十川と中筋川の合流点から上流に約7km遡った中筋川左岸の標高55mを測る丘陵上に立地する城跡である。同尾根の南方向に栗本城跡、西方向にはナリカド新城が連なるように立地している。地検帳では「扇城」の記載がみられるが、ナリカド新城と共に「古城」として記載されており、この段階ではすでに廃城となっている。発掘調査では5箇所の曲輪と6条の堀切が検出され、各曲輪では掘立柱建物跡、柵列、段状遺構などが形成されている。その他、通路状遺構、柵列、土坑、溝跡等が検出されており、規模の大きい城跡である。出土遺物も土師質土器、貿易陶磁器をはじめ15世紀から16世紀前半代の遺物が出土しており、この時期を中心に機能していたと考えられる。また火を受けた礎石及び染付類が出土していることから、16世紀後半段階にも城跡が再度使用されていた可能性が大きく、一条兼定と長宗我部氏が対戦した段階に（渡川の合戦）栗本城跡同様一条氏方の城として再利用されていたのではないかと考えられている。

5. 栗本城跡

中村市中央部の具同に所在する。東には四万十川、南にはその支流である中筋川を臨む標高58mの丘陵上に立地した城跡である。同尾根上の北側には扇城跡、ナリカド新城が連なる様に築城されており、一条氏配下である栗本氏の居城であったと考えられている。築城年代などは不詳であるが、長宗我部地検帳にはクリモノ城の記載がみられる。「城荒」と記されており、この時期にはすでに廃城となっていると思われる。栗本城跡は天正2年（1574年）一条氏と長宗我部氏の合戦（渡川の合戦）の際に一条氏が陣を張った城として伝えられている城跡で、発掘調査では詰、西部郭、北部郭部分の調査が行われ、溝状遺構や土坑、柱穴群を検出している。出土遺物は土師質土器、青磁、白磁などが出土しており、15世紀から16世紀前半代を中心とする時期と16世紀後半代を中心とする2時期が考えられており、扇城跡と同じく一条氏が渡川合戦の際に城跡を再利用していたと考えられている。

6. 中村城跡

中村市街地から北西方向に500m、標高120m前後を測る通称古城山の山上に存在する城跡である。栗本城跡とは四万十川を挟む対岸に位置しており、渡川の合戦の際に長宗我部氏の拠点となった城跡である。城跡の南西側には四万十川、北東側には後川が流れており、この両河川を臨む位置に構築されている。現在はほとんどが公園化されており、周辺は桜の名所となっている。長宗我部地検帳には「今城」「御城」「為松城」「中ノ森」「東城」の記載がなされており、複数の城跡からなりたつ城跡である。一条家の四家老の一人である為松氏の城が最初に築かれたと考えられており、長宗我部氏時代には中村城監である吉良親貞、山内氏時代になると山内康豊が中村藩主として入城しているが、元和元年の一国一城令により城跡は廃城となっている。発掘調査は詰、二ノ堀、今城の三ヶ所を実施され、詰では基壇状遺構、礎石建物跡、今城では掘立柱建物跡などの良好な遺構が検出されている。土師質土器、青磁・白磁をはじめとする出土遺物からは16世紀中頃に機能していたと思われ一部16世紀後半代に及ぶ。また出土瓦の形態からは天正10年頃には瓦葺の礎石建物が建設されていたと考えられ、長宗我部氏入城時に大幅な城跡の改築がなされた可能性が強いと考えられている。

7. 塩塚城跡

中村市の北西部、四万十川中流域の川登地区に所在する。標高51m前後を測る丘陵状に立地する城跡である。「里の城」と「タキモト城跡」から構成されており、今回の調査は「里の城」の部分にあたる。築城年代は不詳であるが、城主については敷地氏の名が伝わっている。長宗我部地検帳には城跡は「下山畠荒地」と記載されており、この段階では廃城となっていると考えられる。発掘調査は調査区内にトレンチを設定し行われ、柱穴、集石墓等を検出している。土師質土器、青磁などの出土遺物からは15世紀後半から16世紀前半代を中心に機能していたと考えられている。

8. 曾我城跡

中村市の東側に隣接した大方町浮鞭に所在し、町を南北に流れる湊川の下流右岸にせりだした丘陵の先端部に立地している。山頂からは南側に大平洋を臨める城跡である。築城者等については不詳で、地検帳にも城跡に関する記載は少ない。標高45m前後を測る詰を中心に東側（河川側）には尾根上に数箇所の平坦面を形成している。西側には詰を囲むように平坦面が形成され、向かいの段状の平坦面の間には堀切が掘削されている。発掘調査はこの平坦面と堀切、段状部の調査が行われ、段状遺構、堀切等の遺構を検出している。出土遺物からは15世紀後半から16世紀前半の時期が考えられ、一条氏配下の城であったと考えられている。また城跡の河川沿いへの立地等からは砦としての役割よりは当時、物資流通の中心であった河川を見張る機能をもっていた城跡であったと考えられている。

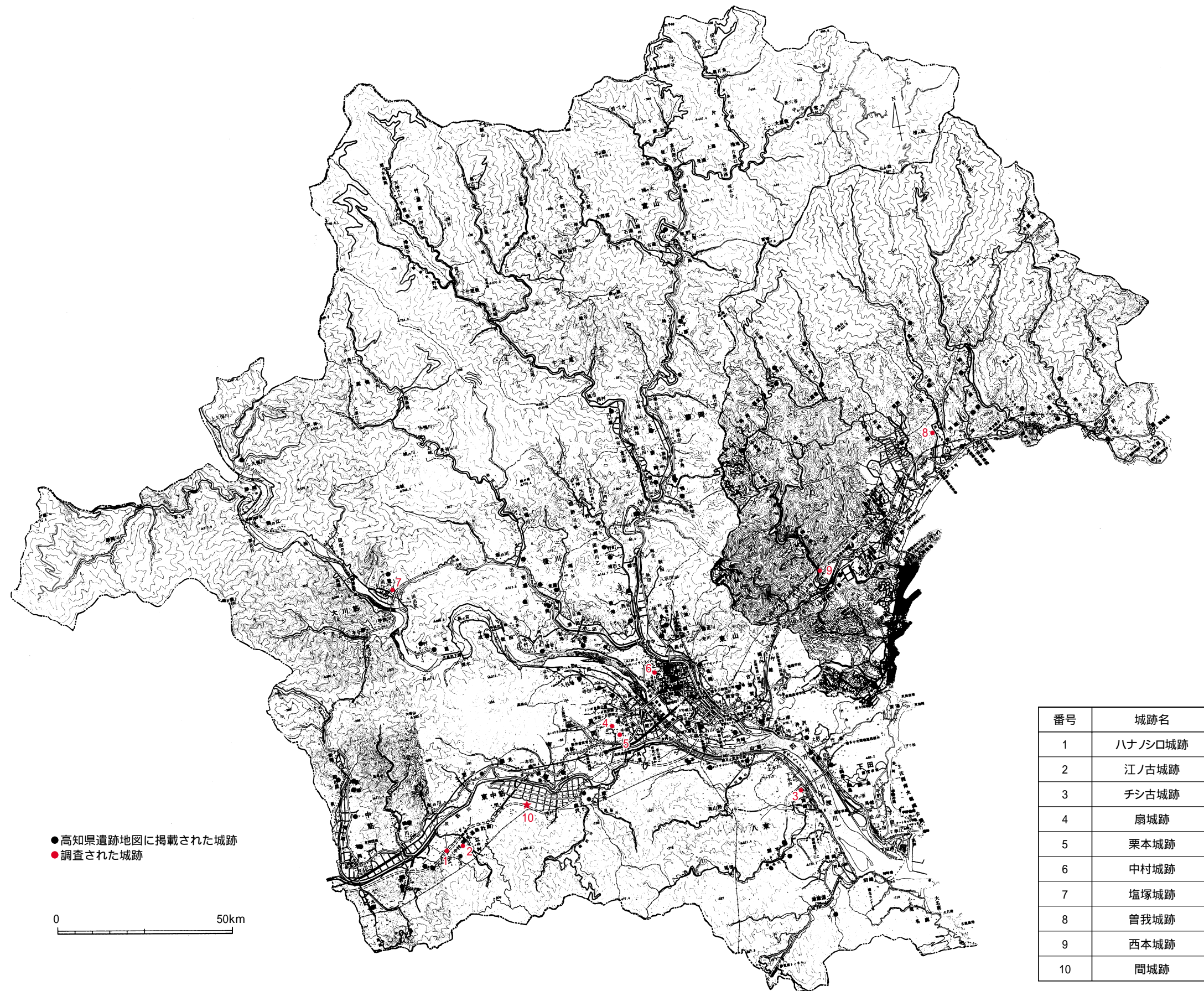
9. 西本城跡

同じ東側に隣接する大方町田ノ口字古城の標高50mを測る尾根上に立地した山城である。城跡の

南側には上田ノ口の集落が散在し、西側から南側にかけては城跡を取り囲むように蛸瀬川が流れている。発掘調査は城跡の詰の一部とその下段に位置する平坦面の調査が行われ、連続堀切、畝状竖堀等の遺構を検出しており、防御面では優れた機能を持った城跡である。天正年間の地検帳では城跡に関しては「古城」の記載が見られるのみで、検地段階ではすでに廃城となっていたと考えられる。明治年間の地籍図でも城跡の位置は古城と記載されている。出土遺物からは15世紀後半から16世紀中頃までに構築され、使用されたと推定されており、地検帳とも一致する。このことから長宗我部氏以前、ほぼ一条氏配下に於ける城跡であると推定されている。今後、一条氏の城郭の築城技術や地域支配のあり方等を読み取れる貴重な城跡であると考えられている。

参考文献・資料

- 松田直則・曾我貴行他 「江ノ古城跡・ハナノシロ城跡」『中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1993
- 山本哲也 『塩塚城跡』 中村市教育委員会 1987
- 松田直則 『中村城跡』 中村市教育委員会 1985
- 森田尚宏・吉成承三 『扇城跡』 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992
- 木村剛郎他 『栗本城跡』 中村市教育委員会 1985
- 吉成承三 『チシ古城跡』 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992
- 松田直則・堅田至 『西本城跡』 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999
- 山崎正明・武吉眞裕 『曾我城跡』大方町教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1998
- 前田光雄・廣田佳久・松田直則 「具同中山遺跡群」『後川・中筋川発掘調査報告書』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992
- 出原恵三・松田直則 「風指遺跡・アゾノ遺跡」『後川・中筋川発掘調査報告書』高知県教育委員会 1989
- 出原恵三・廣田佳久・松田直則 「古津賀遺跡・具同中山遺跡」『後川・中筋川発掘調査報告書』高知県教育委員会 1988
- 松田知彦・松田直則他 『一条氏関連遺跡』 中村市教育委員会 1997
- 『中村市史』 中村市
- 出原恵三・松田直則・曾我貴行・坂本憲昭 「船戸遺跡」『中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996
- 『南国市史 上』南国市
- 『長宗我部氏地検帳 幡多群中』高知県立図書館 1963



番号	城跡名
1	ハナノシロ城跡
2	江ノ古城跡
3	チシ古城跡
4	扇城跡
5	栗本城跡
6	中村城跡
7	塩塚城跡
8	曾我城跡
9	西本城跡
10	間城跡

Fig.4 幡多地方の城跡分布図

城跡名	所在地	現況	時代	備考
竹葉城跡	中村市横瀬字オオノハナ	山林	中世	
安宗城跡	" 字高尾山2553～2559	"	"	
中脇城跡	" 字高尾山2579～2582	"	"	
奈良城跡	" 字ナラ山	"	"	
有岡城跡	中村市有岡字古城山	"	"	
九樹城跡	中村市九樹字古城山	"	"	
上の土居城跡	中村市上ノ土居字松谷山	"	"	試掘H1・一部消滅
長城跡	" 字中城	"	"	
久木ノ城跡	" 字村鏡山	"	"	
西ノ谷城跡	中村市江ノ村字ヲカヤシキ他	"	"	
江ノ村西ノ城跡	中村市江ノ村字西城	"	"	詳細不明
ハナノシロ城跡	" 字ハナノシロ	"	"	H4発掘
江ノ古城跡	" 字エノジョウ	"	"	
磯の川城跡	中村市磯ノ川字猿田山・高畑山	"	"	
国見西ノ城跡	中村市国見字谷ヤシキ他	"	"	消滅
上長谷城跡	三原村上長谷字フロヤノ山	"	"	
狼内城跡	" 字竹子谷山	"	"	
ホキ山城跡	中村市津蔵淵字ホキ山	"	"	
深木城跡	" 深木字ワダノ峠	"	"	
サコノ城跡	" 深木字サコノダン	"	"	
岡崎ノ城跡	" 深木字長野山	"	"	S62発掘
チシ古城跡	中村市実崎字城山	"	"	H3発掘
山路城跡	" 山路字カウカ峯山	"	"	
サラガミネ城跡	" 坂本字皿ヶ峠	"	"	
皇子山城跡	" 坂本字皇子山	"	"	消滅
森沢北ノ城跡	" 森沢字西トヲケ谷	"	"	
森沢城跡	" 森沢字ジョヂウ山	"	"	
間城跡	" 江ノ村トウマンノウ子	"	"	
国見城跡	" 字天神谷・天神	"	"	
大才田城跡	" 字影平山	"	"	
小才田城跡	" 楠島字東山	"	"	
楠島城跡	" 字大峯	"	"	
楠島西城跡	" 楠島1381他	畑・山林	"	
相ノ沢城跡	" 具同字奥城谷	工業団地	"	消滅
近沢城跡	" 字内沢南谷	山林	"	
栗本城跡	" 具同字栗本城	"	"	一部消滅
扇城跡	" 字扇城	"	"	消滅・H3発掘
長崎城跡	中村市入田字天王山	"	"	
秋トシ城跡	" 字秋トシ	"	"	
本井城跡	" 字城山	"	"	
葛城城跡	中村市角崎字葛城・後田	"	"	
不破城跡	中村市不破字坂折山	中村幼稚園	"	消滅
潰ノ谷城跡	中村市右山字ツエノタニ山	中村工事事務所	"	"

Tab.1 幡多の城跡一覧表 1

城跡名	所在地	現況	時代	備考
羽生古城跡	中村市大橋通り字土生山	墓地	中世	消滅
中村(為松)城跡	" 字古城山・為松山	為松公園	"	市史跡・一部消滅
佐岡城跡	" 佐岡字佐岡城	畑・山林	"	
観音寺城跡	" 古津賀字松谷ノ畝	山林	"	
宮田城跡	" 字宮田城跡	"	"	
井沢城跡	" 井沢字岡ノ八ナ	"	"	
竹島城跡	" 竹島字天神山	山林・神社	"	
鍋島城跡	" 鍋島字城山	山林	"	
岡野ノ城跡	" 大用字城ノ下	"	"	
久保川城跡	" 久保川字城ノ尾	"	"	
塩塚城跡	" 川登字コエト山	山林・道路	"	一部消滅・S61発掘
タキモト城跡	" 字横ジリ山	山林	"	
手洗川城跡	" 先洗川字中山	"	"	
垂瀬々城跡	" 三里字レイダイジ山	"	"	
本願寺山城跡	" 字本願寺山	"	"	
今成城跡	" 佐田字奥中傍爾山	"	"	
佐田城跡	" 佐田字古城山	"	"	
小松城跡	" 若藤字南小松	"	"	
若藤城跡	" 字若ケ谷	"	"	
猪石城跡	" 利岡字古城	"	"	
甘枝城跡	" 字西城	"	"	
俊岡城跡	" 字東上谷	"	"	
川原八チカ森古城跡	" 岩田字八ノ森	"	"	
川原城跡	" 字川原山	"	"	
染岡城跡	" 字染岡	保養センター	"	消滅
安並城跡	" 字城の森・尾崎	山林	"	
式地城跡	" 敷地字古城	"	"	
田ノ川城跡	" 田ノ川乙字城丸	"	"	
四良丸城跡	" 字クニヤマ	"	"	
和田野城跡	" 甲字古ヤシキ	"	"	
藤城跡	" 藤字井場山	"	"	
内川城跡	" 藤岡乙字イデノ山	"	"	
和田城跡	" 字和田城	"	"	
下ノ城跡	" 字下城	"	"	
西村城跡	" 字上ミ城	畑・山林	"	
松浦城跡	" 字松浦城	山林	"	
伊才原城跡	" 伊才原字大本山	"	"	

Tab.2 幡多の城跡一覧表 2

第 章 調査の概要

1.城跡の概要

今回発掘調査された間城跡は四万十川の支流中筋川との合流点より約13km上流の右岸に開けた集落である江の村に所在している。江の村の中でも城跡は東端の集落である間地区の標高約26m前後を測る丘陵上に立地している。城跡の立地する同尾根の西方向には間の集落が存在しており、集落とは非常に近い位置に立地している。また江の村の本集落よりは中村市森沢の浅村地区と近接した場所に存在しており、また直線距離にすると森沢集落にも非常に近い。

城跡は高知県の遺跡分布調査により発見された山城で地区の名称から間城跡の名称がつけられている。『長宗我部地検帳』では天正17年に江ノ村^{はぎすま}間の検地が行われているが、現在の城跡の場所については城跡に関する記載は見あたらない。城跡の位置する尾根の先端部は後世の削平の受けており当時の状況は残していないが、三箇所の平坦面と尾根の中間地点には堀切が1条確認された。その三箇所の平坦面を標高の高い順番に曲輪1、曲輪2、曲輪3と名称を付け調査をおこなった。それぞれの曲輪について若干ではあるが概要を述べていきたい。

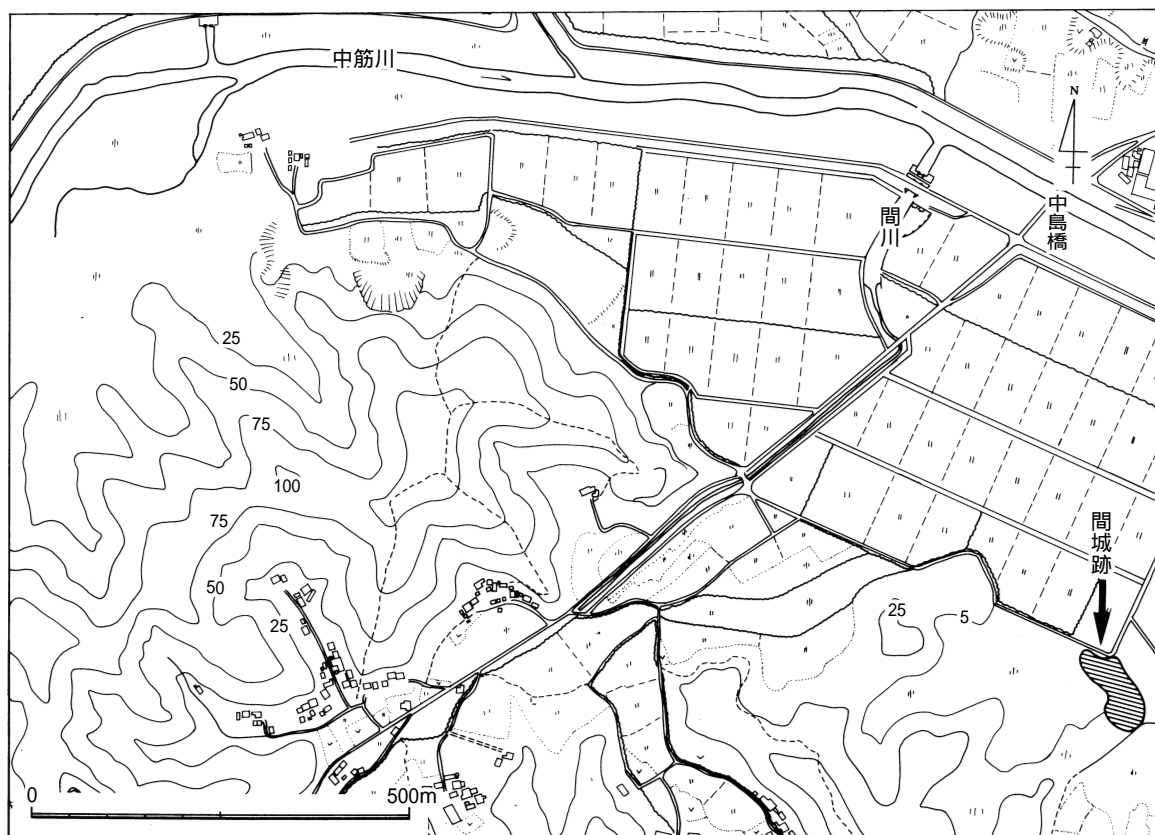


Fig.5 調査対象位置図

曲輪1

調査区南部に位置し、南北方向に約25m、東西方向に約7.5mを測る方形状を呈した平坦部を曲輪1とした。標高は約26mを測り、調査区では最も高い場所に立置している。それより南部は標高約46mをはかる同尾根が迫っている。平坦面の北側から東側の斜面部にかけては、この平坦面を取り囲むようにして幅約1.5mを測る狭い帯状の平坦面が続いている。またその下段にも、同様な狭い帯状の平坦面が2段に亘り続いている。これらの段状を呈した平坦面が終わると、その傾斜に続くように堀切が形成されている。平坦面の西側は一部後世の掘削により崩壊しているが、30°を測る急傾斜を呈している。東側は西側と同じように急斜面を呈しており、北側と同様な段状を呈す平坦部は形成されていない。

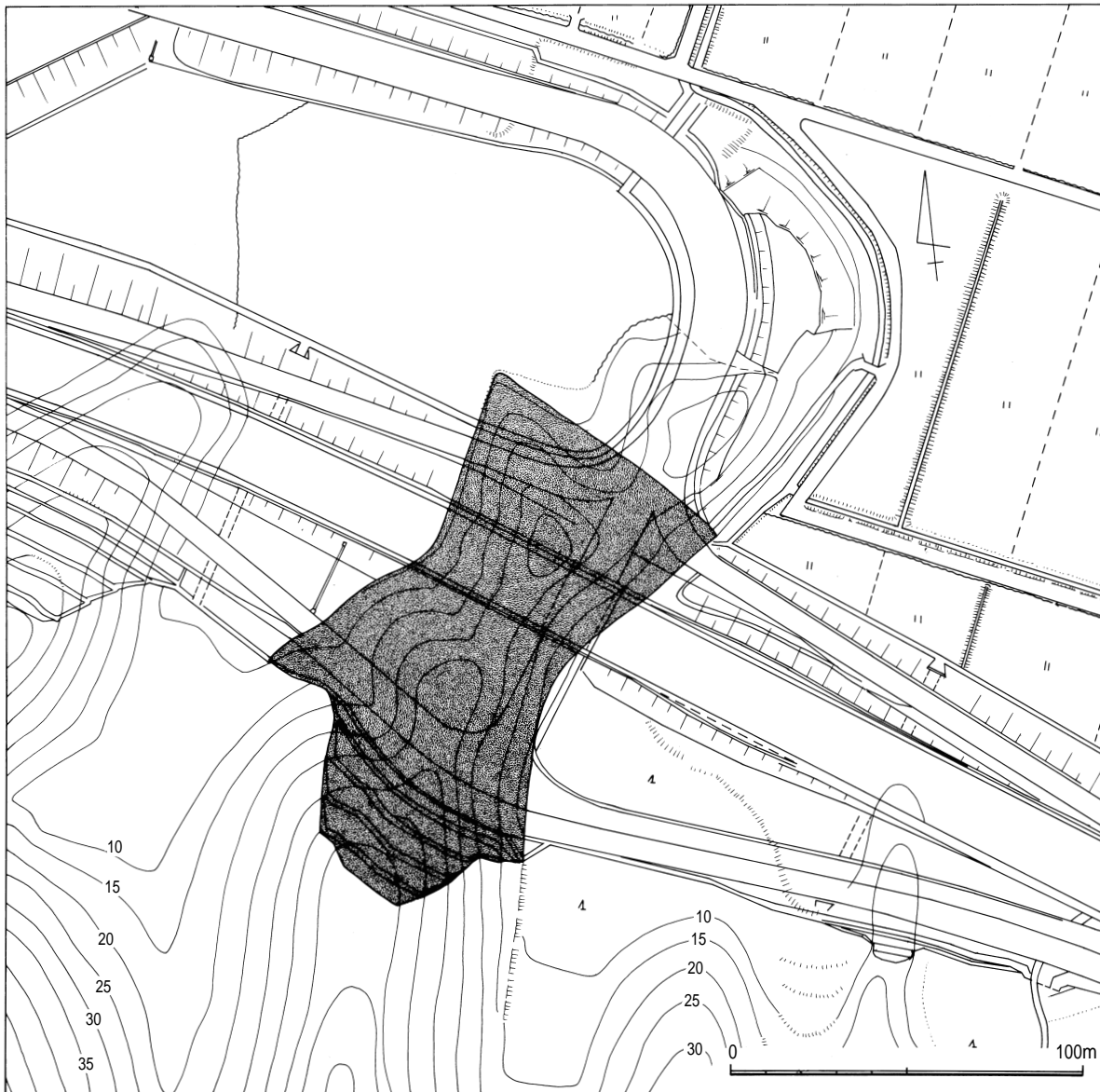


Fig.6 調査対象範囲図

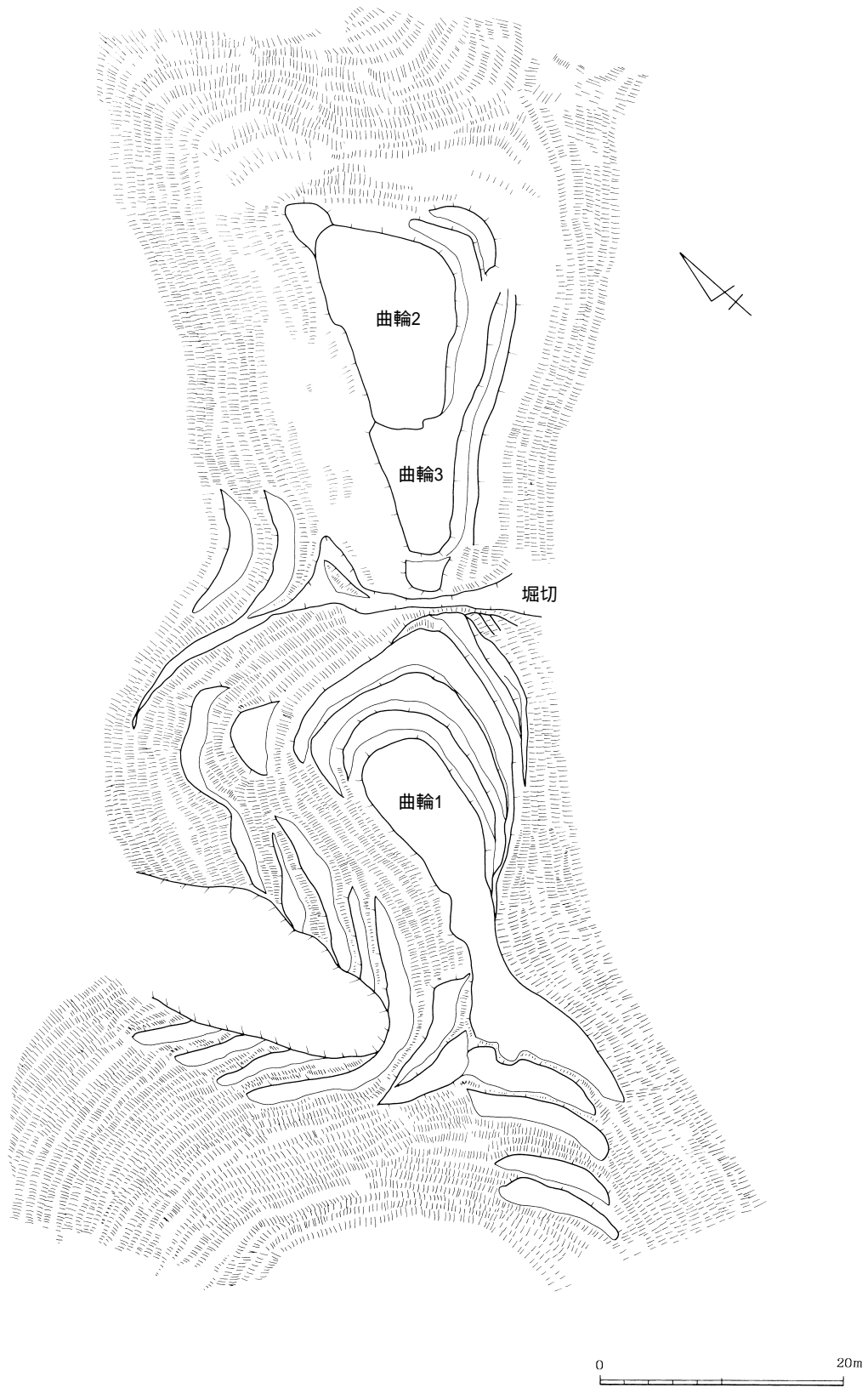


Fig.7 間城跡概要図

曲輪2

調査区北部に位置する。南北方向約15m、東西方向約10mを測り、北から南側にかけてしりすばみの形状の平坦部を呈する曲輪である。標高は約24mを測り、曲輪1に次いで高く、平坦面も広い。曲輪1との比高差は2.3m、南側に連なる曲輪3との比高差は約2mを測る。曲輪の北側は曲輪1のような段状の平坦面は形成されておらず、約50°を測る傾斜を呈している。各曲輪の中でも最も急傾斜となっている。西側については曲輪1と同じく約45°を測る急傾斜が続いている。東側については後世において進入路として使用されたと思われる幅約2mを測る帯状の平坦部が曲輪3に向かって続いている。斜面部においては一部後世に削平を受けているため詳細は分からないが、北、西側と同じく急斜面を呈していたと考えられる。

曲輪3

曲輪2の南側に隣接した平坦部で、南北方向約10m、東西方向約5mを測る。平坦部の形状は曲輪1に向かってだんだん狭くなっているが、ほとんど方形状を呈している。標高は約21mを測り、曲輪の中では最も低い。曲輪2との比高差は約1m、曲輪1との比高差は約5mを測る。曲輪の南側は堀切が形成されており、曲輪1との間を遮断している。西側は他の曲輪と同様に、斜面部を呈しており、約40°の傾斜が続いている。東側においては曲輪2と同じく後世の削平を受けており、途中からは確認できないが、西側と同様に急傾斜を呈していたと考えられる。

2.方法

城跡の調査に入る前には調査区内における雑木の伐採と雑草の草刈を行った。城跡の東斜面については一部調査区外であったために掘削した際の土砂が落ちる可能性があった。そのため斜面部には土砂の落下を防ぐための防御用のネットを設置した。

掘削前には城跡全体の地形測量を平板を使用し1/100の縮尺で図面化、また1/200縮尺の地図を利用して城跡の縄張り調査を行った。結果、調査区内の尾根上には三箇所平坦面と尾根と尾根を断するように堀切遺構を確認した。平坦面の中で最も標高が高い南側を曲輪1、次に北側部分を曲輪2、南北に挟まれた中央の平坦面を曲輪3の名称を付け調査を開始した。また調査に先立ち、曲輪1と曲輪2、そして曲輪1の南側の同尾根上の3箇所に4級の水準点を設置した。

調査はこの公共座標を利用し、調査区の地形に沿った形で4×4mのグリットを設定した。グリットは東西ラインをアルファベットA.B.C・・・、南北ラインをアラビア数字1.2.3・・・を使用し、A-1、A-2という名称をつけた。平坦部についてはグリットを中心として約50cm幅の土層観察用のベルトを設け、土層の観察を行いながら人力による掘削を行っていった。また、掘削前にはグリットにあわせて約1m幅のトレンチを設定し、人力による掘削を行い、遺構の有無、層位の確認を行った。斜面については平坦部と同様に50cm幅の土層観察ベルトを設け、平坦面に近い上部では人力による掘削を行った。土層堆積が厚いと考えられた裾部については表土層の掘削には重機を用いて行い、その後地山直上までは人力による掘削を行った。掘削に際して排出した土砂については、斜面部に簡易のシューターを設置して調査区内の土置き場に流した。出土した土器は出土状況写真の撮影の後、

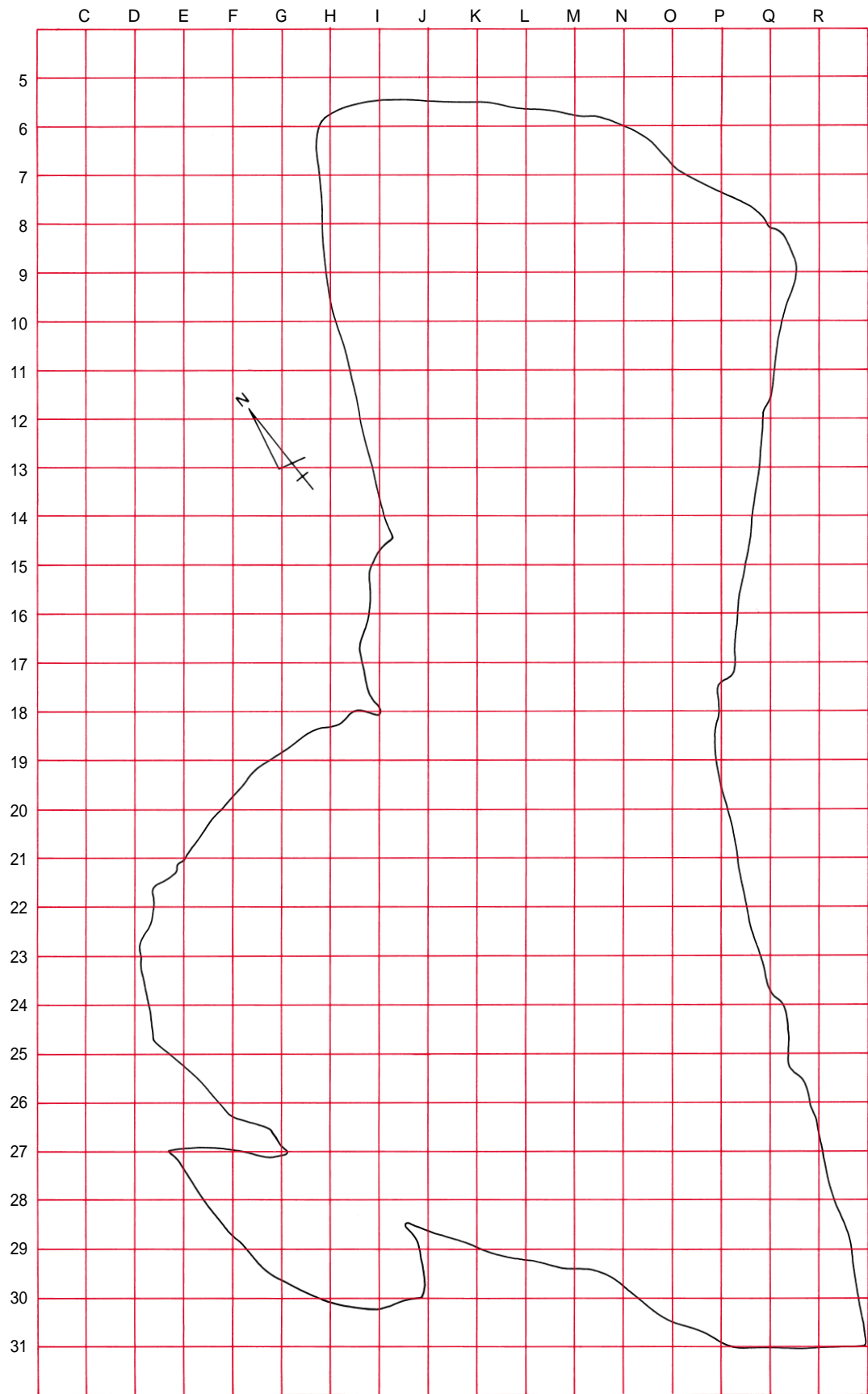


Fig.8 グリッド設定図

S=1/500

平板を使用して取り上げを行い、検出遺構については1/20縮尺で平面測量と断面測量を行った。曲輪1、2、3と堀切の表土・地山直上までの掘削の終了後、城跡全体の写真撮影、調査区の測量は航空測量を実施し、堀切遺構は1/50、平坦部については1/100、1/200縮尺での平面図を作成した。

3.基本層序

調査区各曲輪の平坦面における土層堆積は県内で発掘された城跡と同様に非常に浅い。曲輪1の平坦部(A~A')においては、層の黄褐色土層(表土層)を除去すると、すぐ地山である岩盤を検出する。西斜面部においては表土層の下、層：暗褐色礫層(小礫を多く含む)、層：暗褐色土層、層：明黄褐色土層(粘質あり)が堆積している。斜面途中までは堆積が厚いが裾部の斜面下方では堆積は薄くなっている。東斜面のH~H'、K~K'では後世の掘削のため、途中までの堆積状況しか確認できなかったが、西斜面と同様な堆積をしている。

曲輪2では、平坦部においては曲輪1と同様に堆積は非常に浅く、層の黄褐色土層(表土層)を除去すると岩盤が検出される。平坦面ではL~L'、G~G'のように、平坦面から斜面部に行くに従い堆積が深くなっている。曲輪2から曲輪3にかけての南斜面部については南側では表土層下に層：黄橙色礫層(5~10cm大の礫を多く含む)が厚く堆積しており、その下層には厚さ10~15cmにおよぶ旧表土と考えられる層：暗褐色土層の堆積がみられる。その下はほぼ岩盤となっている。南部に関しては後世に再度埋め固められ、現在の平坦面を形成していたと考えられる。曲輪3の平坦面についても同様に、表土層を除去すると岩盤が検出されるため、堆積は非常に薄い。斜面部に関しては西斜面部(Q~Q')においては層：黄褐色土層、層：黄橙色土層(小礫含む)、層：暗褐色土層、層：黄橙色土層(粘性あり)が堆積しており、斜面下方(裾部)になるほど厚い土層堆積となっている。東斜面部については曲輪1、2と同じく後世の削平のために途中より残存していないが、西斜面部と同様な堆積状況にあったと考えられる。

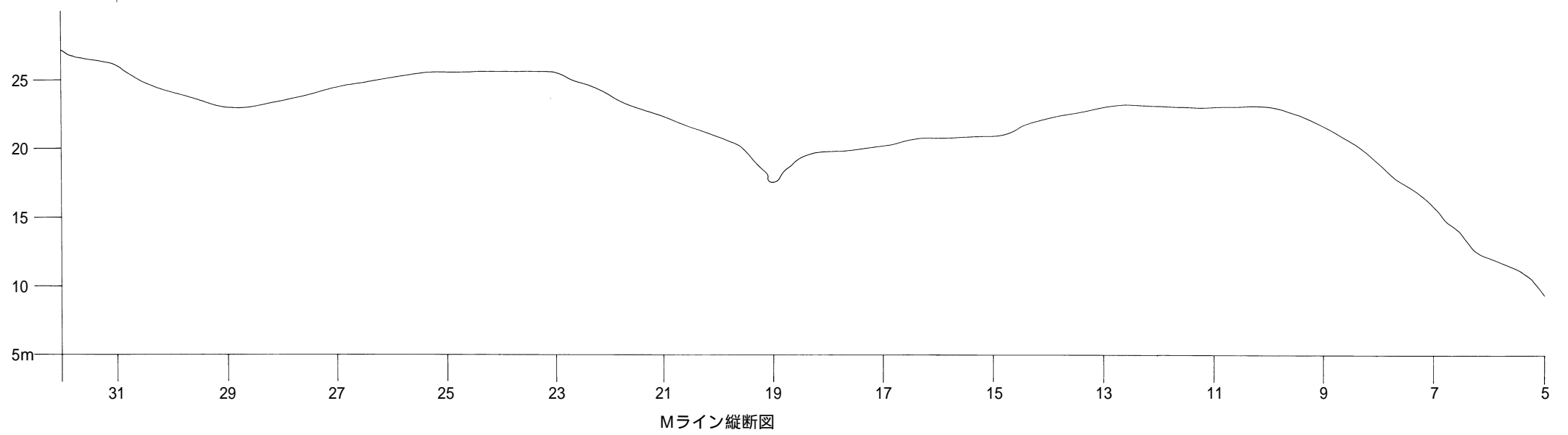
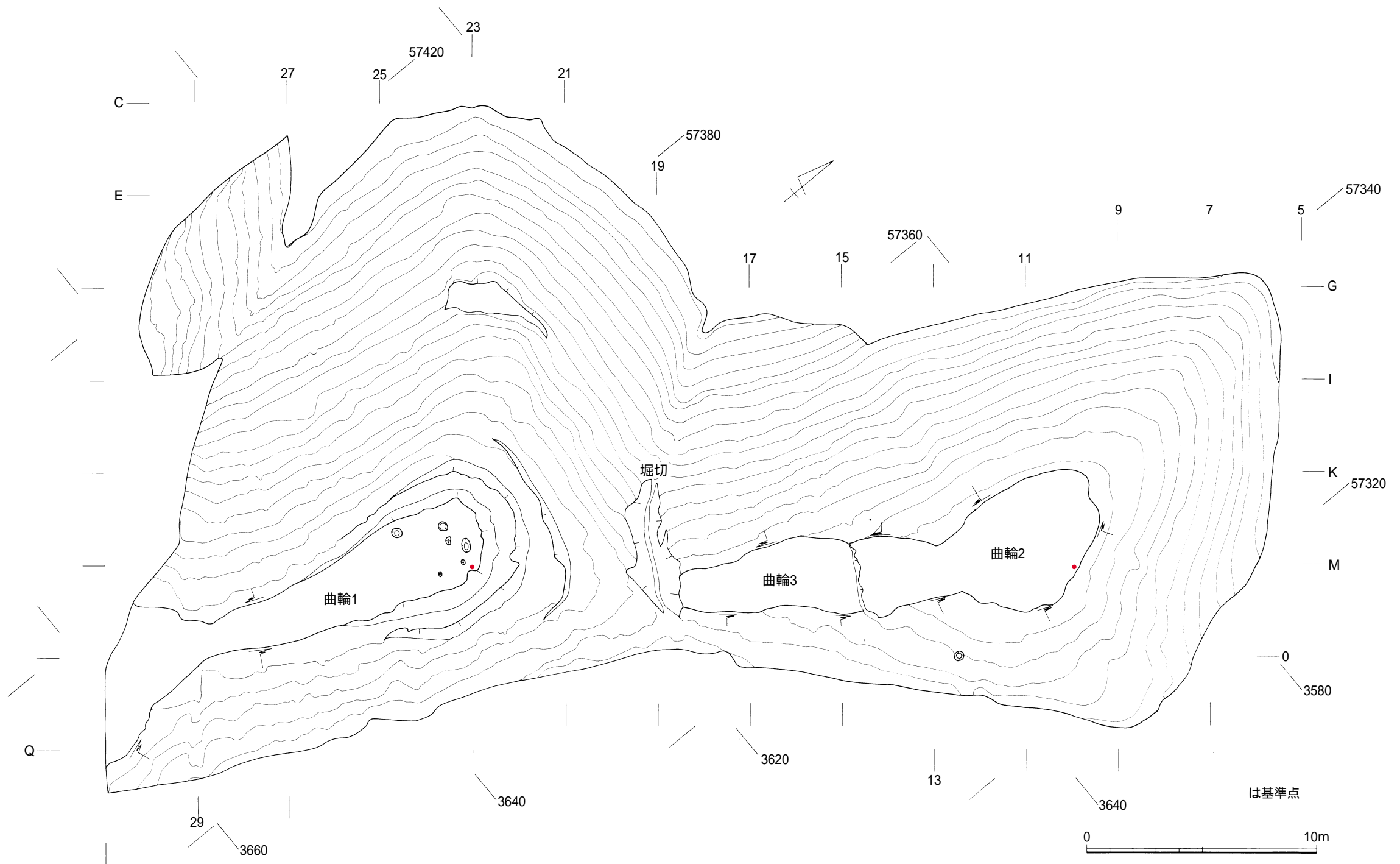
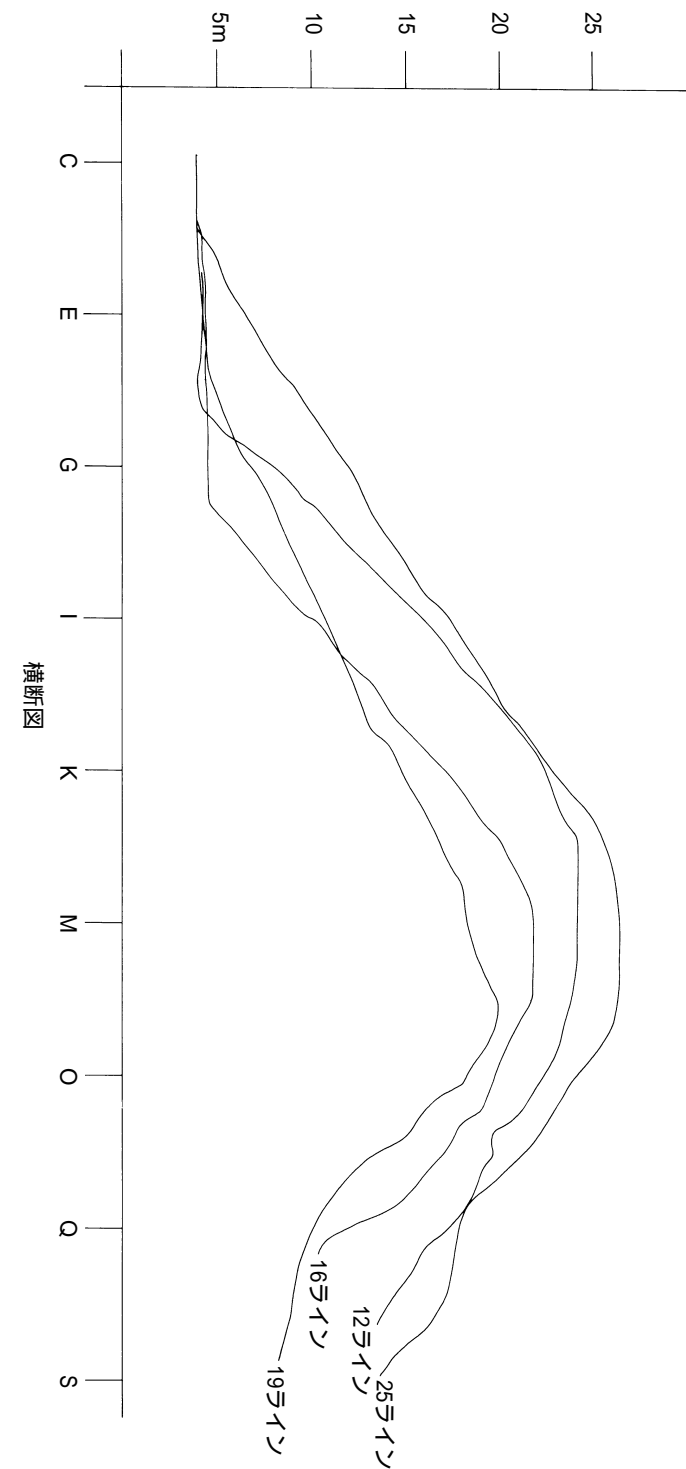


Fig.9 調査区全体図及び断面図

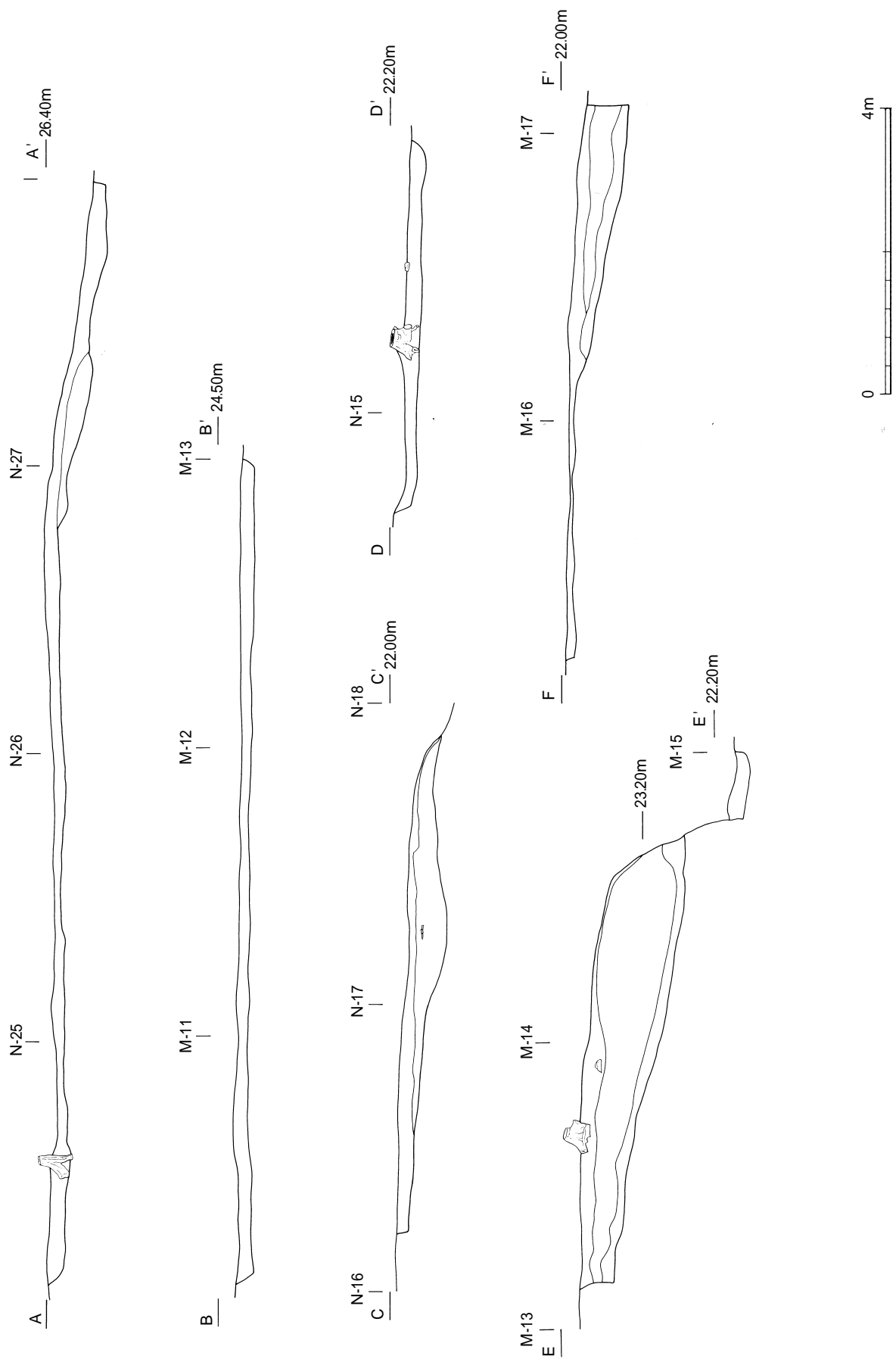


Fig.10 セクション図 1

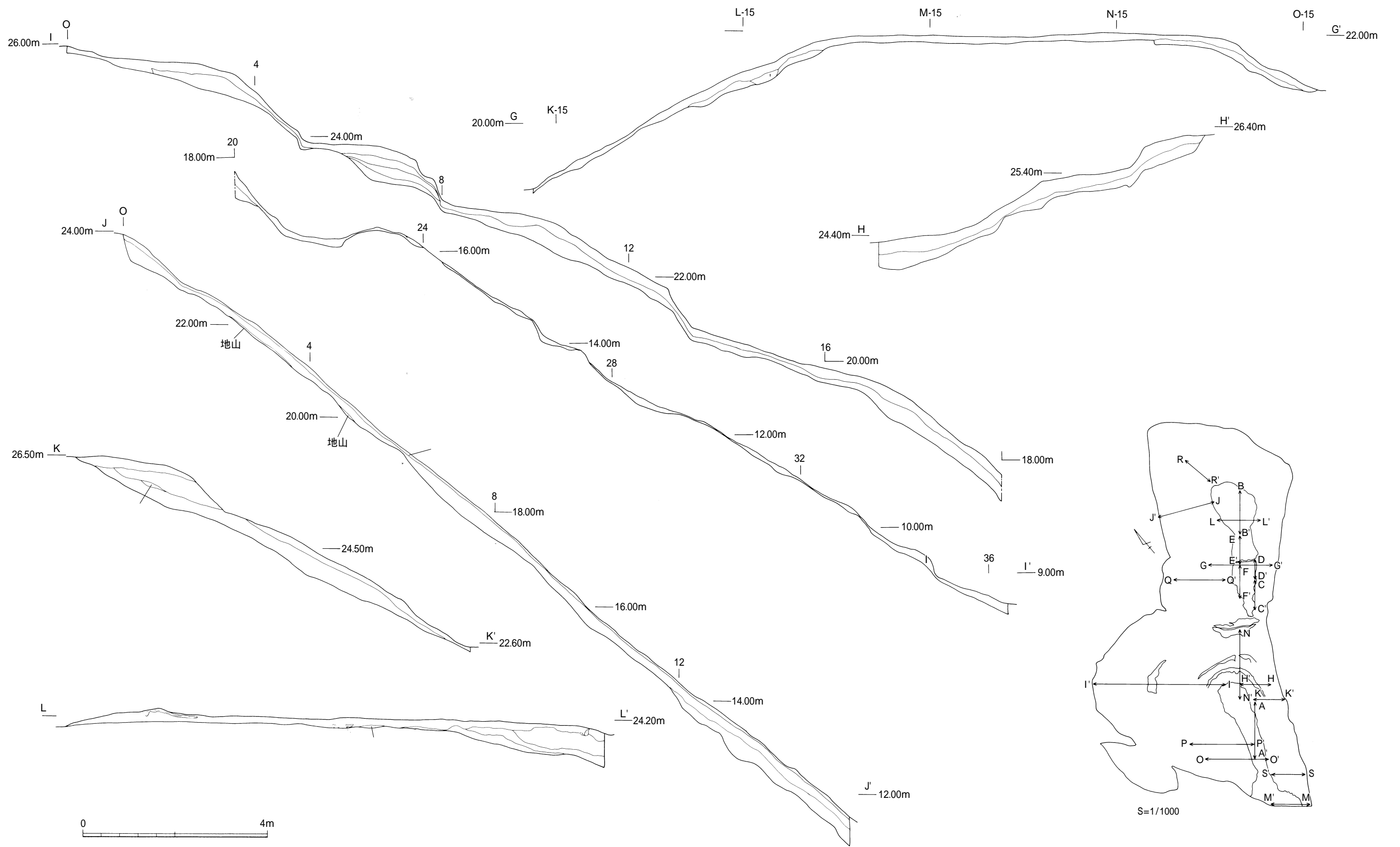


Fig.11 セクション図2

第 章 調査の成果

今回の城跡の調査では曲輪1において柱穴を数基、堀切1条、段状遺構を検出した。しかし出土遺物に関しては、各曲輪からの出土量は極端に少なく、城跡の機能したと考えられる時期の遺物と考えられるものは出土していない。

1. 検出遺構

(1) 曲輪1

P1

曲輪1の北西部、L-23杭から2.6m地点に位置する。表土層を除去した段階で検出した。規模は長径76cm、短径72cmの円形状を呈しており、深さは約16cmを測りやや浅い。長軸方向はN-42°Eを示す。底面は約64cmを測り、ほぼ平坦であり、側面はゆるやかに立ち上がる。埋土は単層の黄褐色土層である。

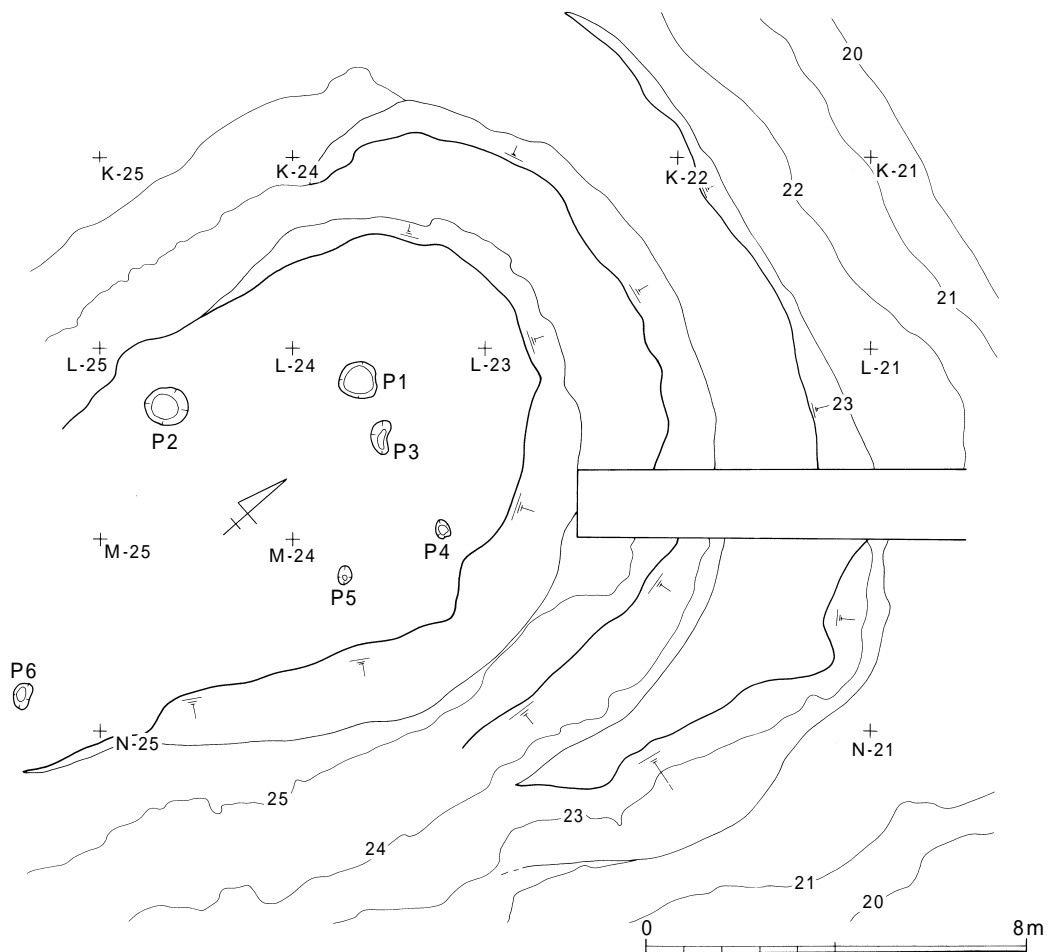


Fig.13 曲輪1・柱穴平面図

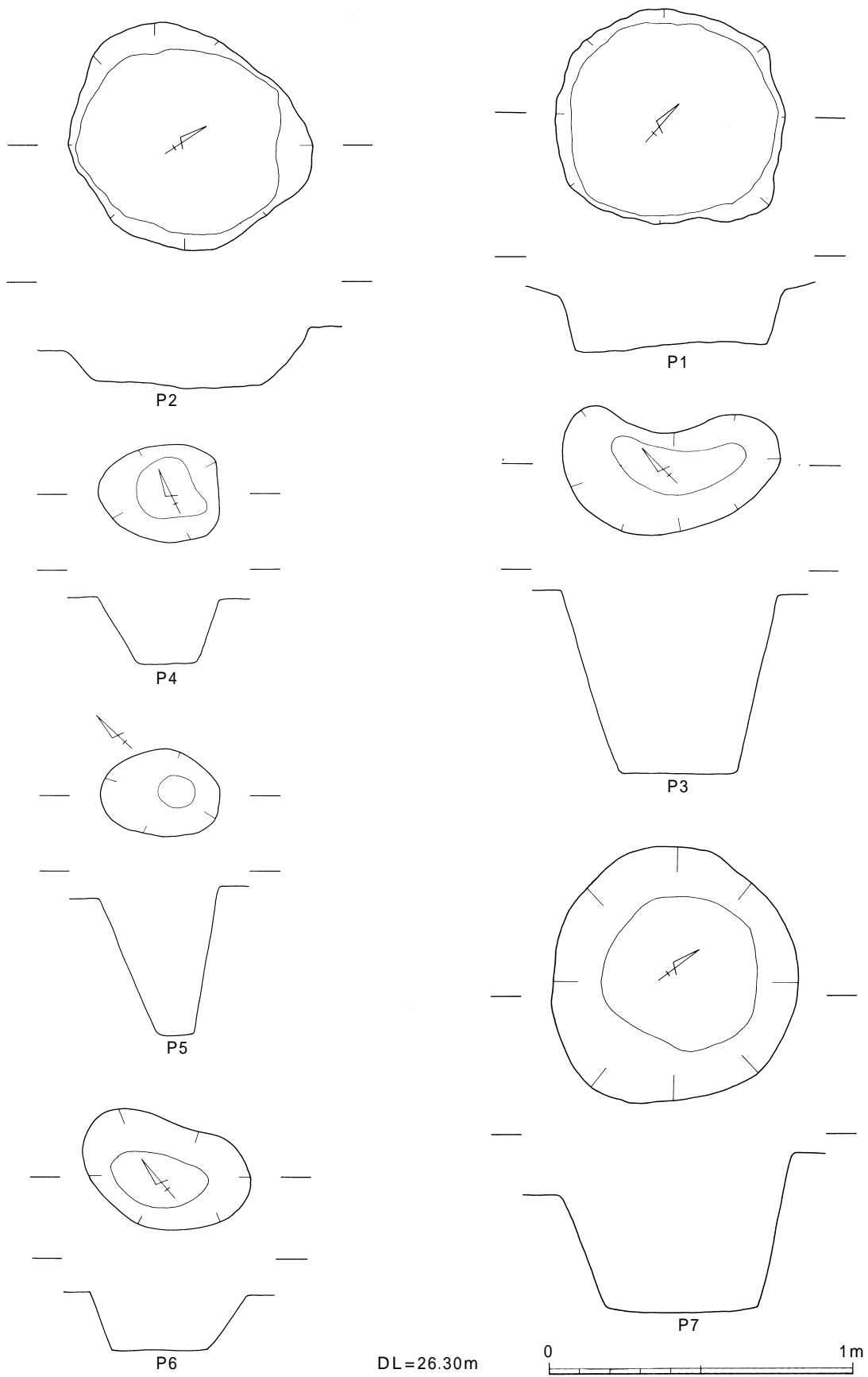


Fig.14 柱穴平面及び断面図

P2

P1の約3.7m南西側に位置する。表土層を除去した段階で検出し、規模は長径82cm、短径74cmを測る楕円形状を呈しており、深さは約16cmと浅い。長軸方向はN-31°Eを示す。底面は約60cmを測り、ほぼ平坦に近い。埋土は単層の黄褐色土層である。

P3

P1の約1.2m東側に位置する。同じく表土層を除去した段階で検出した。規模は長径70cm、短径30cmを測りほぼ楕円形状を呈しており、深さは約60cmを測る。長軸方向はN-38°Wを示し、底面は約15cmを測る。埋土は単層の黄褐色土層である。

P4

P3の東側約2.3m地点に位置する。表土層を除去した段階で検出し、岩盤を掘り込んで形成している。規模は長径42cm、短径40cmを測り、ほぼ円形状を呈しており、深さは約40cmを測る。長軸方向はN-57°Wを示す。底面は約10cmを測り、西側壁は垂直、東側壁は斜位に立ち上がっている。埋土は単層の黄褐色土層である。

P5

P4の南側約2.3m地点に位置する。同じく表土層を除去した段階で検出し、岩盤を掘り込んで形成されている。規模は直径26cm前後を測るほぼ円形状を呈しており、深さは約48cmを測る。軸方向はN-42°Wを示す。底面は約15cmを測り、北側、南側の両側面ともほぼ垂直に立ち上がる。埋土は単層の黄褐色土層である。

P6

P5の南西部に約7.2m地点、M-25に位置する。同じく表土層を除去した段階で検出した。岩盤を掘り込んで形成しており、柱穴の規模は長径が53cm、短径が約36cmを測る楕円形状を呈している。深さは約20cmを測り、軸方向はN-42°Wを示す。底面は約30cmを測り、側壁は斜めに立ち上がる。埋土は単層の黄褐色土層である。

堀切

曲輪1の北部と曲輪2の南部に位置するL-18・19、M-18・19において検出した。城跡の調査の前段階から堀切部分については地表面で確認されていた。規模は曲輪1の北斜面部と曲輪3の南斜面部を南北方向に幅約5m、東西方向に長さ1.5mに亘って岩盤を掘削しており、曲輪3からは曲輪1につながる尾根を遮断するように掘り込まれている。堀切の南側側面は曲輪1の北部段状地形から緩やかに掘り込まれ、底面での標高は約19mを測り、段状遺構からの比高差は約3mを測る。北側側面は曲輪3からはほぼ直線的に掘り込まれており、平坦面からの比高差は約2.5mを測る。範囲は上部が最大で4.65m、中間位置で約2.55m、底部に至ると1.15mを測り、だんだん狭くなっており、断面はほぼV字の形状を呈している。埋土の堆積は非常に薄く、側面の一部には岩盤がそのまま露出していた。底部のみに黄褐色土層が堆積している。

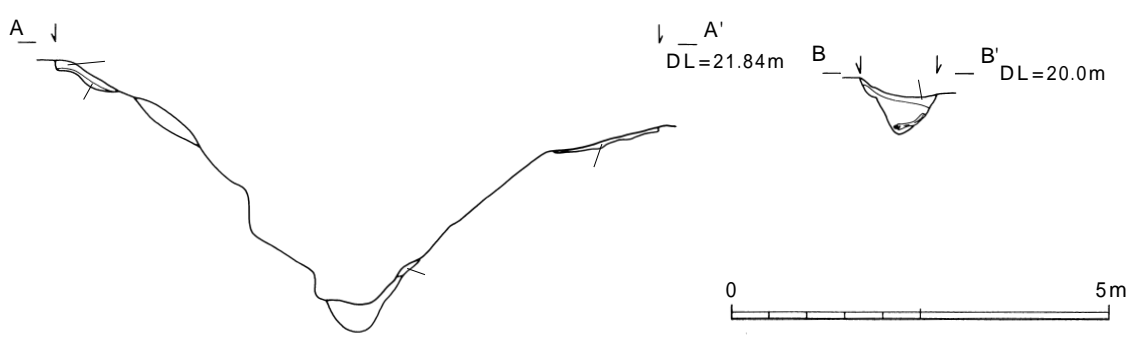
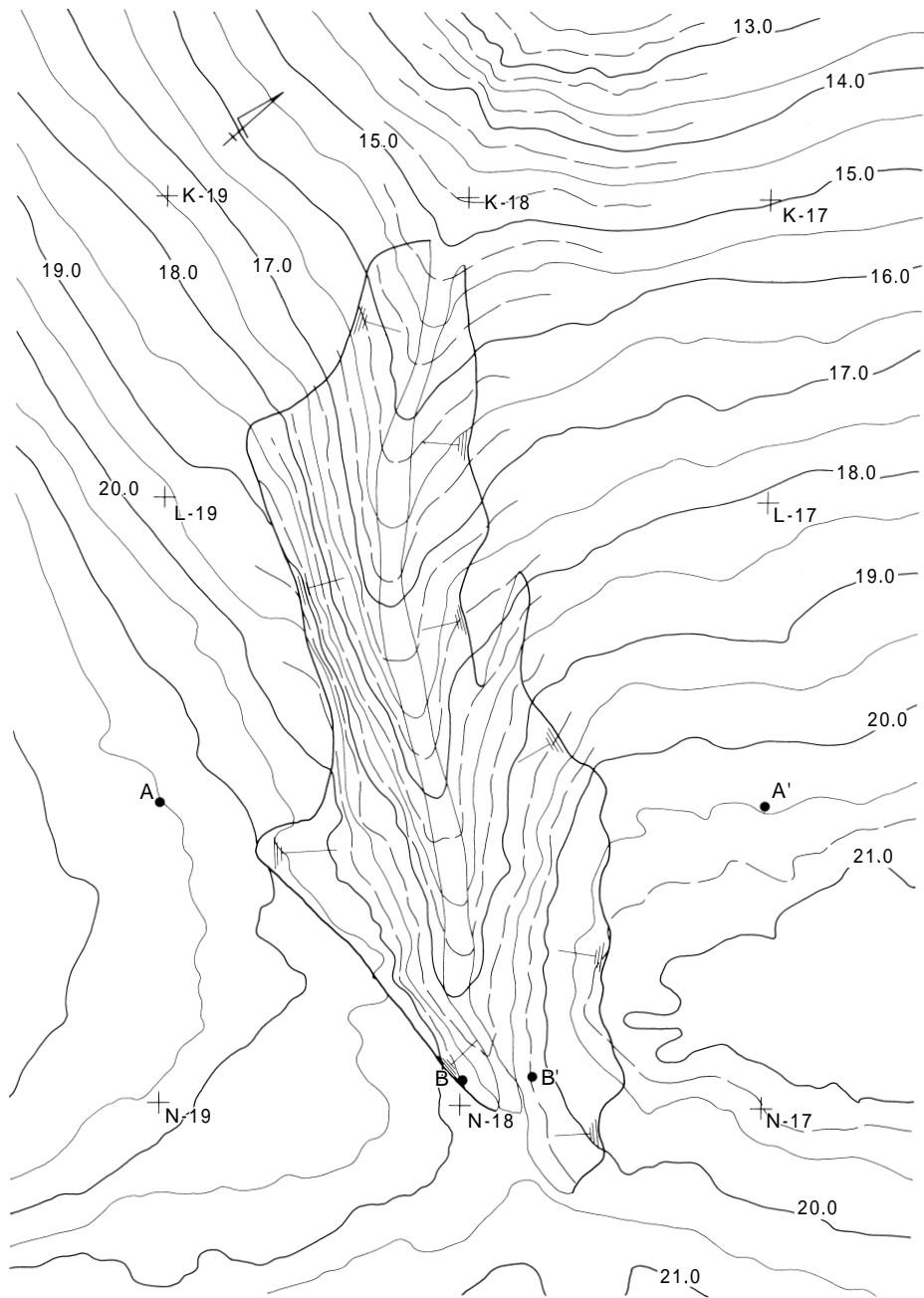


Fig.15 堀切平面及び断面セクション図

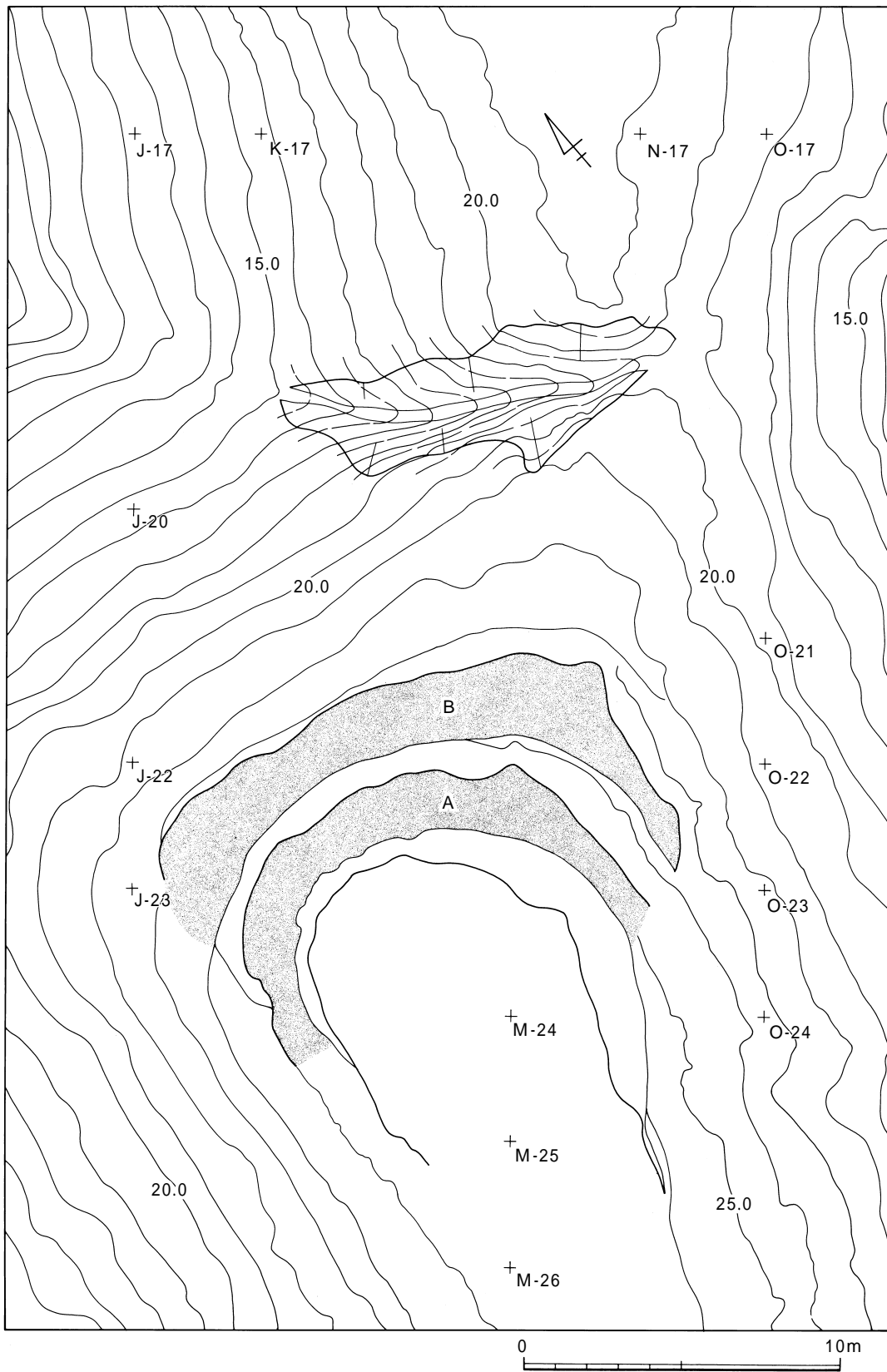


Fig.16 段状遺構平面図

段状遺構

曲輪1の北部から東斜面のK - 21 ~ 23、L - 21・22、M - 21・22に位置する。調査前段階の地表面観察では帯状の平坦面が北東斜面部にみられた。北東斜面部に曲輪を囲む様に帯状を呈した平坦面が数段形成されている。この帯状の平坦面を仮にA、Bとして説明を加えていく。Aは北部から東部斜面に亘る標高25m地点に形成されており、平坦面の規模は長さ約15m、幅は中央部で1.7~2m、東側部分では幅約1m、西側部分でも1m前後と両側が狭くなっている。曲輪1の平坦部からの傾斜角は25で比高差は約2mを測る。Bは標高23.5m地点に形成されており、平坦面の規模は長さ約20m、幅は中央部で2.5m、東側部分で50cm、西側部分は途中で斜面部と同じ形状をなしている。Aからの傾斜角は20で曲輪1の平坦面からの比高差は4mを測る。Bより下部は明確な平坦面は形成されていないが、緩い段状を形成しながら堀切の南斜面掘り込み部分につながっている。

(2) 曲輪2

P7

曲輪2の東斜面部N - 13に位置する。表土層を除去した段階で検出した。規模は長径84cm、短径80cmを測るほぼ円形状を呈しており、深さは約50cmを測る。長軸方向はN-42°Eを示す。底面はほぼ平坦面を呈し、両側壁は緩やかに立ち上がる。埋土は単層の黄褐色土層である。

2. 出土遺物

曲輪1、2、3から出土した総遺物点数は56点であるが、遺構からの出土はなかった。出土遺物は土師質土器の細片、近世陶磁器が数点みられる他は、近世以降の陶磁器が出土しているのみである。城跡の機能していたと考えられる時期の遺物は出土しておらず、廃絶後に使用されたと考えられる遺物が多くを占める。出土点数は曲輪1がその大半を占める。出土遺物に関しては各曲輪毎に述べていきたい。

曲輪1 (1~16)

1~3、5は碗の口縁部片である。1は全体に薄い作りであり、内面には雷文帯、外面には界線が薄い青灰色に染付けられ、全体には透明釉が施されている。2は体部は上方に直線的に伸び、端部は丸くおさめるタイプである。外面には赤褐色と明緑褐色で文様を染め付けており、内面には一条の界線が施されている。3は体部は斜め上方に伸び、端部は丸い。外面には櫛目文様、内面には二重の界線がみられ、全体には透明釉が施されている。5は体部が斜め上方に直線的に伸びるタイプで外面には6条の界線と唐草と思われる文様、内面にもコバルト色の文様がみられる。全体には透明度の高い釉が施されている。4と6は小坏の口縁部である。4は端部が外側に端反りしており、内外面共に、透明釉が施されている。内面にはコバルト色の染め付けがなされているが、焼成が良好でないために溶け込んでいない。7は口縁部から底部まで残存する小坏である。全体に器壁は薄く白色を呈しており、高台畳付部分は露胎である。体部は上方に直線的に伸び口縁部に至り、端部はやや外反している。全体に透明度が高い釉が施されている。8は底部のみの皿(盤)である。底部外面は削り出しによる高台で畳付部分は斜位に作りだしている。畳付と高台内側は釉をかきとって

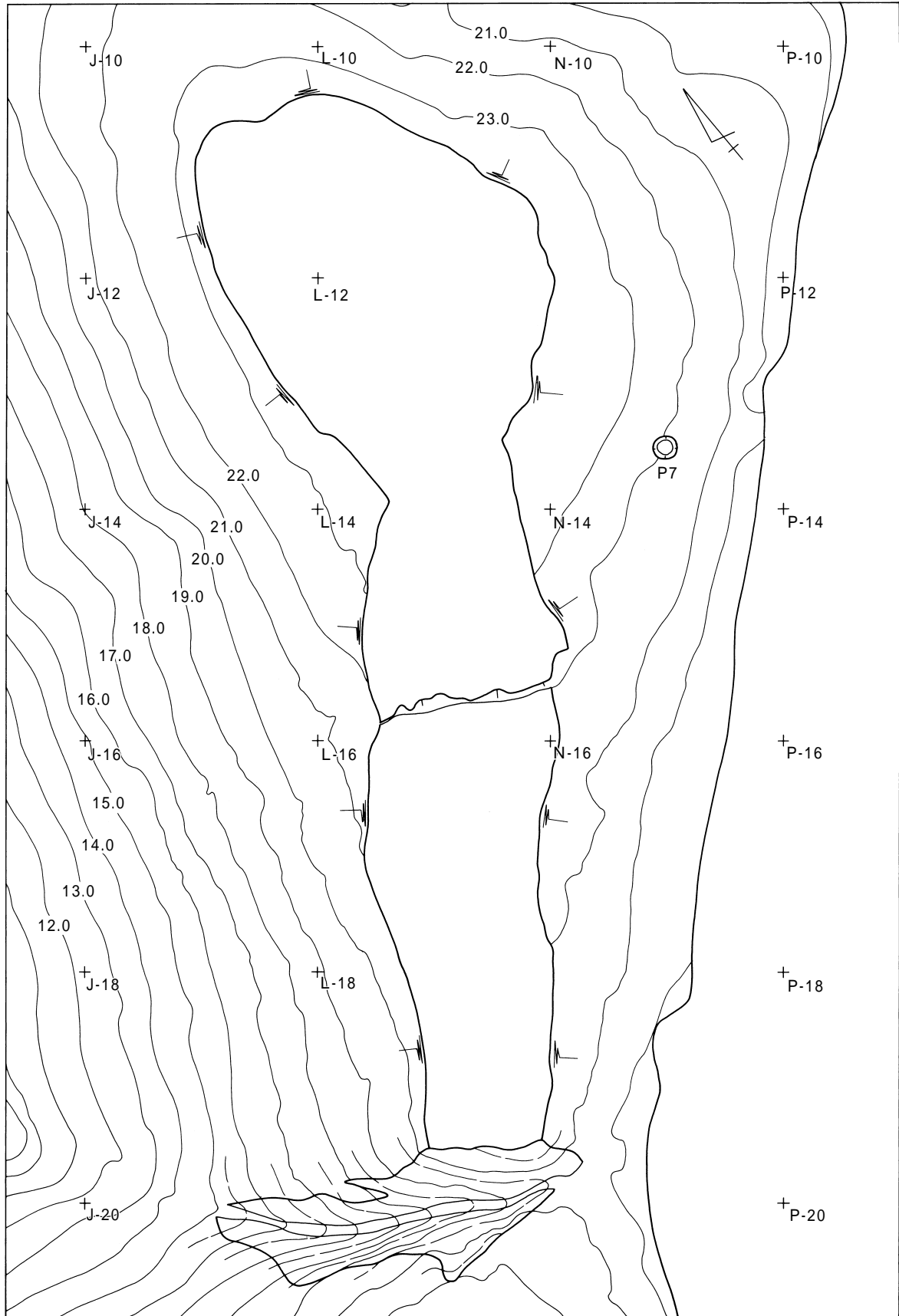


Fig.17 曲輪2・3平面図

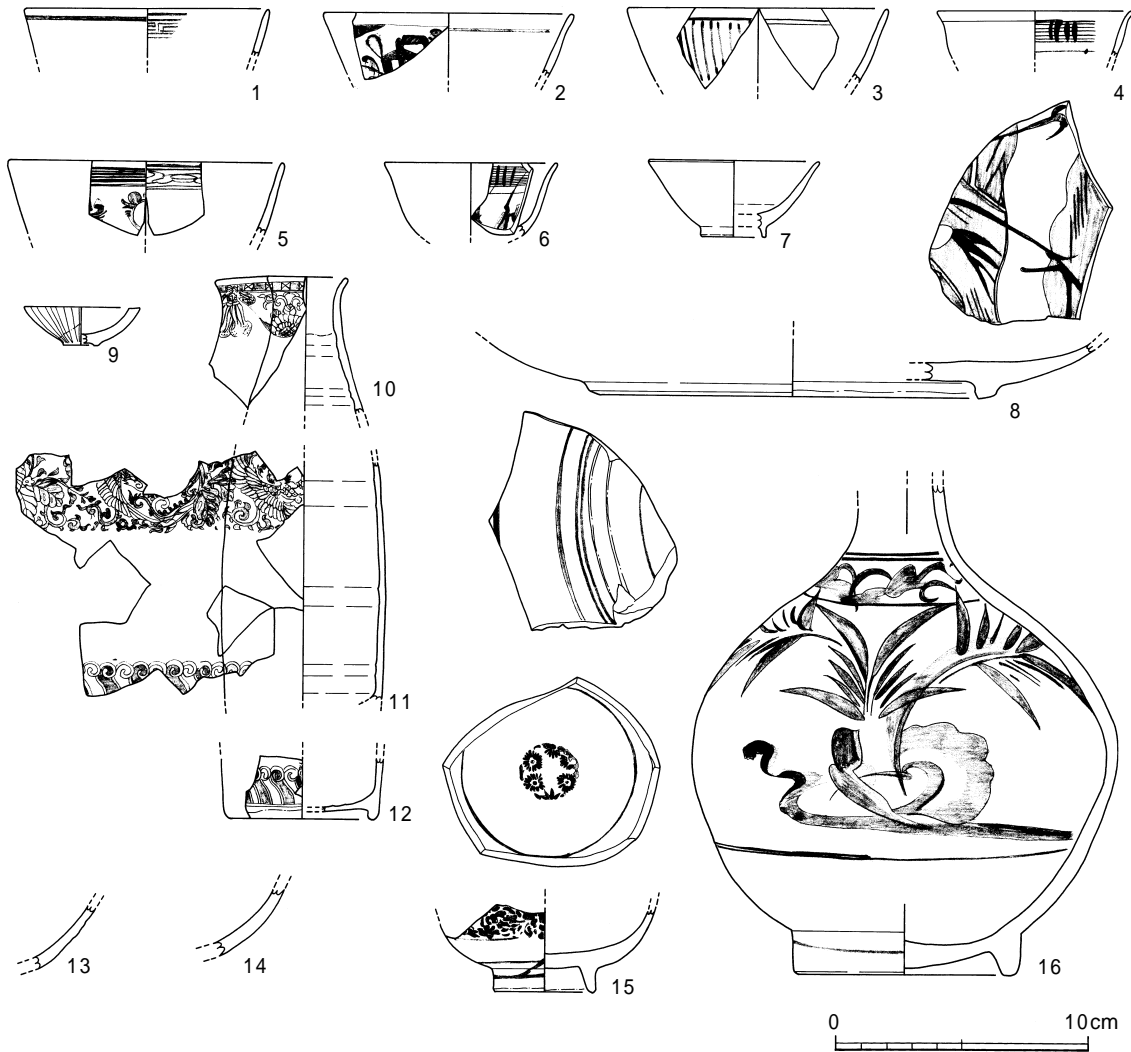


Fig.18 曲輪1 出土遺物実測図

るが、他は全面施釉されている。内面には草花と思われる文様、外面には何条かの界線がみられる。9は紅猪口である。底部は削り出し高台で体部は内弯しながら上方に伸び、口縁部に至る。端部は平坦面をなしており、外面には櫛描文様、内面と外面の一部には白濁色の釉が施されている。

10～12は同一個体とおもわれる徳利である。10は口縁部から体部の一部である。全体に器壁は薄い作りをしており、頸部で外反気味に斜め上方に伸び、口縁端部は外反している。外面と口縁部内面の一部には乳白色の釉が施され、体部は露胎で轆轤目が顕著である。外面には菊・草花の文様が型紙刷りされている。11は同じく体部であるが、外面上方には唐草と鳳凰、同じく下半には波紋がみられる。外面には乳白色の釉が施されている。12は底部である。底部は高台部分を削り出しており、畳付と高台外面は釉をかきとっている。口縁・体部と同じく外面には乳白色の釉が施されている。10～12は共に粗い貫入が入る。

13は陶器の体部である。13は外面には轆轤痕が残り、内外面ともに黒褐色の釉が施釉されている。地元産陶器と思われる。14は灰釉陶器の体部片である。内外面共に透明釉が施釉されており、細かい貫入が入っている。形態からは碗になるとと思われる。15は底部から体部にかけて残存している碗

である。高台の断面は方形状を呈しており体部は内弯している。内面見込み部分には界線が巡り、その見込み中央部分と体部外面には型紙刷りで菊笹の文様が施されている。内外面ともに施釉されているが、高台畳付部分は露胎である。16は肥前系磁器と考えられる瓶である。底部から体部、頸部まで残存しており、底部は断面方形状の高台から内弯しながら体部中位まで伸びて中位から内側に屈曲するように頸部に至る。体部で最大径をはかる。高台畳付の側面は斜位方向に削り、底部外面には轆轤目痕が残る。頸部には二重の界線、体部下半と高台外面には一重の界線、体部外面には笹文様が染め付けられている。外面には透明釉が施釉されているが、畳付部分は露胎である。

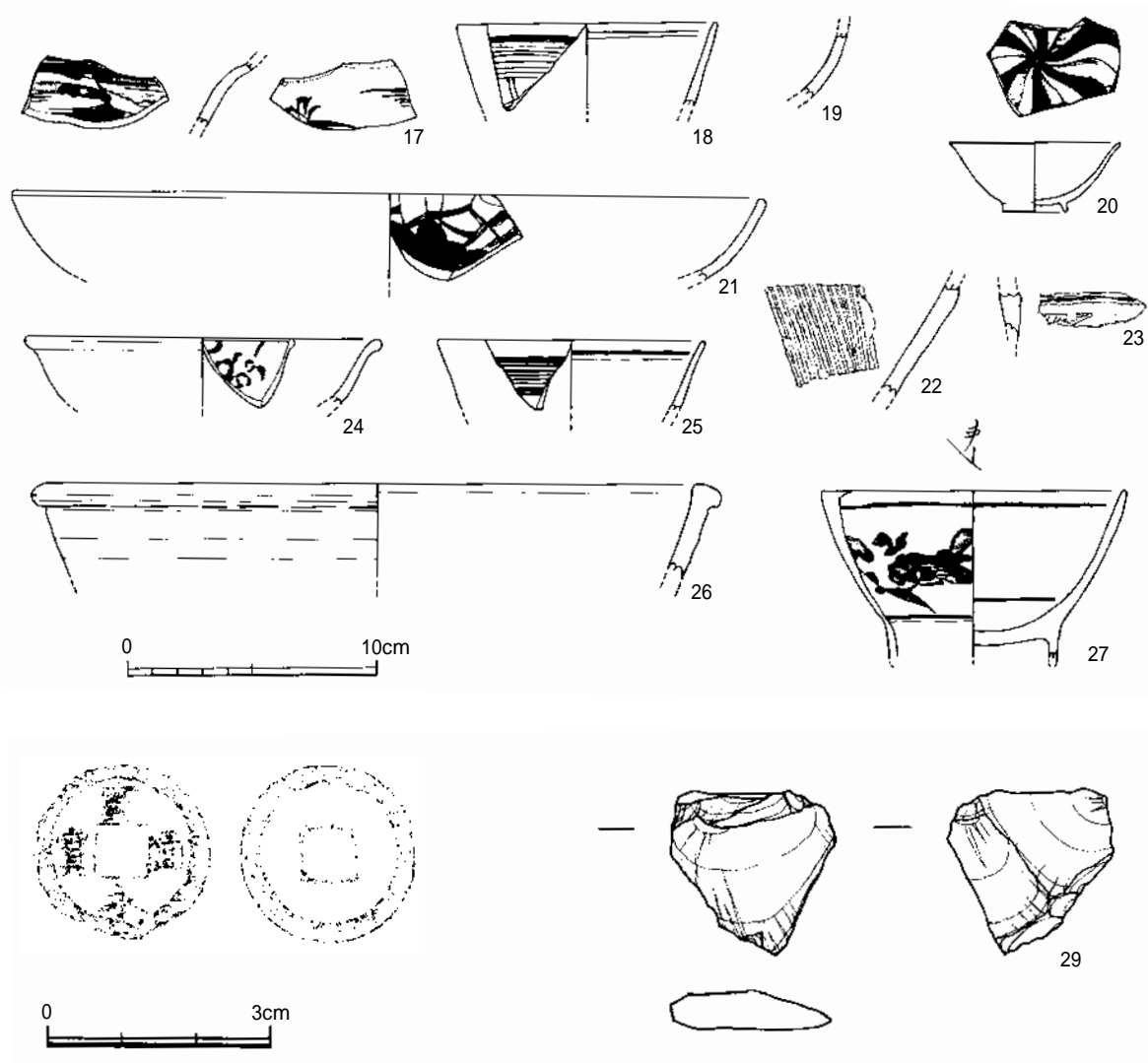


Fig.19 曲輪2・3 表探遺物実測図

曲輪2 (17、18、21～23、28)

17は肥前系磁器の角皿である。口縁部片であるが、内面には山水と思われる文様が染め付けられており、内外面とも透明釉が施釉されている。18は碗の口縁部である。内外面には界線が染め付けられている。21は盤の口縁部片である。体部から底部にかけては欠損している。22は播鉢の体部片である。薄い作りを呈しており、内面には約3mm間隔に条目が入っている。23は瓦質土器片である。外面には草花の文様が型押されている。28は寛永通宝である。曲輪2の南部M - 13グリット第 層の旧表土中から出土した。外径は2.3cm、内径は1.9mmを測る。

曲輪3 (19.20.29)

19は陶器片である。内外面は鉄釉が施されている。20は小坏である。断面方形の高台から斜め上方に体部は伸びて口縁部に至り、端部は外反している。高台畳付を除いて全面施釉されている。29は姫島産黒曜石の剥片である。曲輪3の西斜面部から出土している。

表採遺物 (24～27)

24は口縁部から体部にかけて残存している。口縁部は玉縁状を呈しており、外反している。内面には草花と思われる文様が型紙刷りされている。25は磁器の口縁部片である。体部から口縁部にかけては直線的に伸びるタイプである。外面には9条、内面には2条の界線がみられる。26は鉢と考えられる。口縁部は折縁を形成し端部は平坦面をなしている。端部を除く部分には黒褐色釉が施釉されている。27は肥前系磁器の広東碗である。底部高台の一部が欠損している。器壁が薄作りの高台から体部は斜め上方に直線的に伸びて口縁部に至る。口縁部外面と高台外面には界線がめぐりその間に草花文様が染め付けられている。口縁部内面と見込み部分にも界線がめぐり、見込み部分には「寿」と思われる文字が染め付けられている。

第 章 まとめ

高知県下における城館跡の総数は現在までに714城跡にのぼり、そのうち中村市内では74城跡が確認されている。戦国時代になると城跡（山城）は高知県下に於て、爆発的に築城されるようになり、この幡多地域においても同様なことがなされている。中村市に於ける中世城郭の調査は昭和58年に行われた栗本城跡の発掘調査から始まる。その後の宅地開発、道路建設等により、現在までに7城跡の発掘調査が行われている。

城跡の所在する中村市、幡多郡、愛媛県宇和郡を中心とする四国西南地域に存在する城跡を各城跡の立地や戦国期の勢力分布等から、松田直則氏が大きくAからIまでの9グループに地域分けをおこなっている。その中では、中筋川流域から四万十川も含めた一条氏の勢力範囲内をEグループとして位置づけている。特徴としては、四万十川流域も含めた各河川沿いに城跡が構築されている点が挙げられる。そのなかでも宿毛市分も含めると、中筋川流域が最も城跡が集中していることが指摘されている。今回調査した間城跡は、四万十川と中筋川の合流点より上流に約10km程遡った右岸の標高26m前後を測る丘陵上に構築された城跡であり、松田氏の分類ではEグループの範疇に入る。城跡は三箇所の平坦面と一条の堀切で構成されたのみの山城であり、他の城跡と比較すると非常に小規模な城跡である。

間城跡の立地する中筋川流域では、現在までに栗本城跡、扇城跡、江ノ古城跡、ハナノシロ城跡の発掘調査が行われ大きな成果を得ている。栗本城跡、扇城跡は中筋川の左岸の丘陵上に立地しており、天正17年に行われた『長宗我部地検帳』には「クリモトノ城」、「扇城」の記載が残っている。また同じ江の村地区に存在する江ノ古城跡、ハナノシロ城跡は右岸の丘陵に立地しており、地検帳

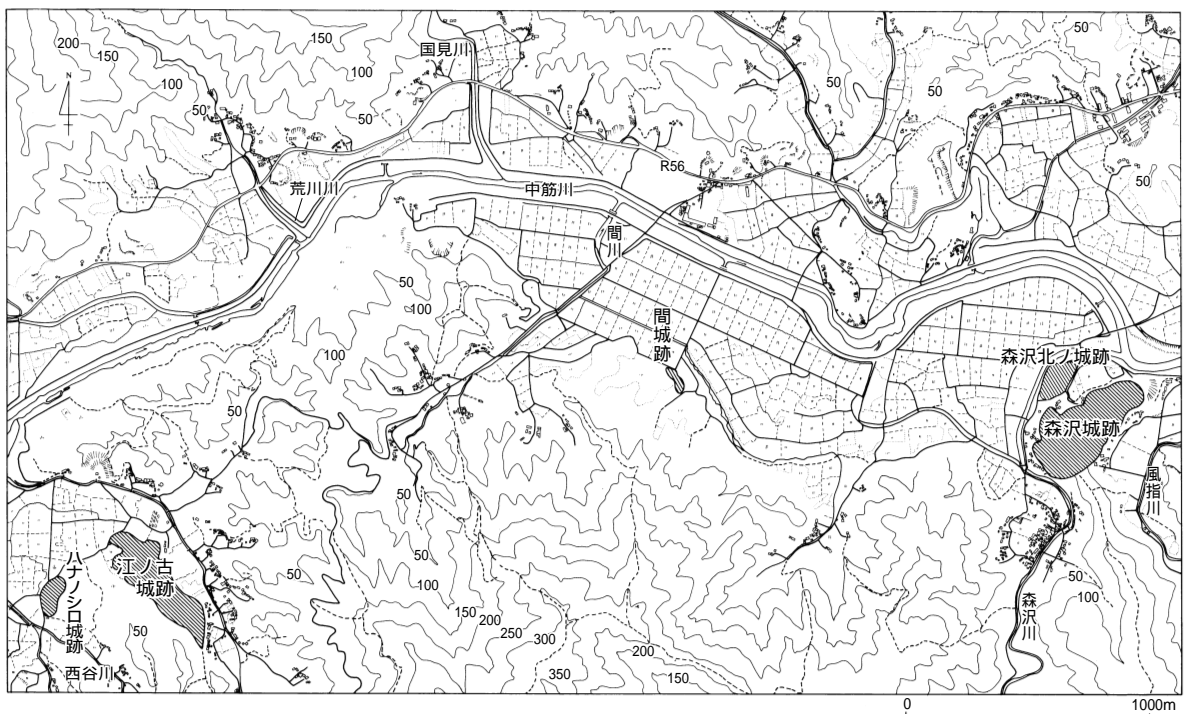


Fig.20 城跡位置関係図

には「エノジョウ」等の城跡に関する記載が残っているが、間城跡に関してはその記載すらみられない。またこれらの城跡に関しては「古城」として記載されており、地検を行った段階ですでに廃城となり使用されていなかったものと考えられる。間城跡に関しては記載しないことや、非常に小規模な城であることから、地検段階では機能していなかったものと考えられる。

遺構・遺物から

同じ江の村に立地し、小規模城郭として位置付けられるハナノシロ城跡の調査では、四箇所の曲輪で構成されている小規模な城郭でありながら、各曲輪には掘立柱建物跡が検出されている。また、東斜面部には雛壇状の遺構、堀切等が設けられ、小規模でありながら非常に優れた防御がなされた城跡であったことが確認された。また同尾根上に立地する江ノ古城跡の支城としての役割を担う城跡と位置付けられており、中筋川との立地関係からは河川監視の機能を兼ね備えた城跡であると考えられている。

間城跡は同じ江の村に立地する城跡であるが、ハナノシロと比較するとさらに小規模な城郭であるといえる。間城跡の特徴としては尾根を寸断するように東西方向の堀切が一条形成されている。断面はV字状を呈しており、薬研堀と呼ばれているものである。断面がV字状を呈した堀切は中世の城郭のみにしか検出されておらず、中世城郭を特徴づける遺構と言える。堀切は曲輪1の北斜面部と曲輪3の南側の岩盤を削る込むよう形成されており、曲輪1からの比高差は約4mを測る。曲輪1と曲輪2の尾根を寸断するように堀切が形成され、曲輪1の北斜面には数段に亘る段状の遺構が堀切まで続いており、曲輪1を重要視した防御がなされている。また曲輪の東斜面、西側斜面とも急斜面を呈している。曲輪1の平坦面には数基の柱穴が形成されるが、明確な建物跡には成らず、当時は生活空間をもたないものと考えられるが、この曲輪に防御の重点がおかれている点からなんらかの施設的なものが存在していた可能性も考えられる。

出土遺物の面から考えると小規模と言われるハナノシロ城跡からは青磁、白磁等の貿易陶磁器、備前等の国内産陶器、土師質土器などの当時の遺物が出土しているが間城跡ではこのような遺物は出土しておらず、出土遺物数も極端に少ない。近世陶磁器が主に出土しているが、曲輪2では盛土と考えられる下層から寛永通宝が出土しており、この時期には大幅な城跡の改修、再利用が行なわれたものと考えられる。出土遺物からは中世段階の城跡としての位置付けは難しいが、堀切の形状は全国の調査事例から中世の城郭にのみ見られる堀切の形状であることから、ここでは中世段階の城跡として考えていきたい。全国でもこのような特徴をもった城跡の事例が最近確認されており、これからも増えるものと考えられている。間城跡はいままで発掘された城跡と比較すると、遺構、遺物の面から見ると非常に小規模な城跡であるといえるが、堀切と曲輪1との間の斜面部には段を設け、堀切の範囲とその機能を拡張して曲輪への侵入を困難にするなど、曲輪1を中心とした防御がなされており、城の詰としての役割をもった曲輪と考えられる。

城跡の機能を考えると、城跡のすぐ北側には中筋川の支流である間川、その約500m北側には中筋川を望むことができる。城跡の規模や立地条件から考えるとハナノシロ城跡と同じく河川の監視を担ったとも推定される。また、西方向約2kmには江氏の居城である江ノ古城跡、東方向約1.5kmに

は森沢氏の居城である森沢城跡が立地している。このような立地条件からは江ノ古城跡を本城と考えるならば、その支城としての役割を担っていた可能性が考えられる。

引用・参考文献

『高知県遺跡地図』 高知県教育委員会 1996

木村剛朗他 『栗本城跡』 中村市教育委員会 1985

森田尚宏・吉成承三 『扇城跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992

曾我貴行 「江ノ古城跡」『中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書』 高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1993

松田直則・竹村三菜 「ハナノシロ城跡」『中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1993

山本大 解説 編 『長宗我部地検帳 幡多郡中』高知県立図書館 1963

松田直則・堅田至 『西本城跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999

間城跡に類似した城跡の事例は中井均氏、山上雅弘氏により御教授いただいた。

挿図番号	出土地点	種別	器種	法量 (cm)			成形方法	釉薬・文様	色調	備考
				口径	器高	底径				
1	曲輪1 L-24	磁器	小碗	9.6	-1.9	-	ロク口成形	内面：雷文 外面：界線	灰白色	
2	曲輪1 L-24	磁器	小碗	9.8	-2.4	-		外面：草花文 内面：界線	外面：明緑灰色 内面：暗赤褐色	
3	曲輪1 M-23	磁器	小碗	10.2	-3	-		外面：櫛目 内面：界線	外面：青灰色 内面：白色	
4	曲輪1 L-23	磁器	小杯	7.8	-1.8	-			外面：灰白色 内面：青色	
5	曲輪1 K-22	磁器	碗	10.9	-2.8	-		外面：草花	外面：明緑灰色 内面：灰白色	
6	曲輪1 K-22	磁器	小杯	6.8	2	-			外面：白色	
7	曲輪1 M-24	磁器	小杯	6.7	3	2.4			外・内面：白色	
8	曲輪1 N-21	磁器	皿(盤)	-	-2.3	15		釉薬：白色	内面：明青灰色 灰白色	
9	曲輪1 J-23	磁器	紅猪口	4.6	1.5	1.4			外・内面：白色	
10	曲輪1 L-24	磁器	德利	3	-	-	ロク口成形	外面：草花文	外・内面：灰白色	
11	曲輪1 N-21・22	磁器	德利	-	-	-	ロク口成形	外面：鳳凰・からくさ 波文	外・内面：灰白色	
12	曲輪1 N-21・22	磁器	德利	-	-	5.7	ケズリだし 高台型刷り	外面：波状文	外・内面：灰白色	
13	曲輪1 M-24	陶器	碗	-	-	-	ロク口成形		外・内面：黒褐色	
14	曲輪1 O-27	陶器	碗	-	-	-	ロク口成形		外・内面：黄褐色	
15	曲輪1 L-24	磁器	碗	-	(3.3)	3.8	型紙刷り	見込中央に菊笹文	外・内面：灰白色	
16	曲輪1 M-24・L-23	磁器	瓶	-	19.2	8.8	ロク口成形	外面：笹文	外・内面：青白色 染付：青灰色	肥前系
17	曲輪2	磁器	皿	-	-	-		内面：山水	外・内面：灰白色 染付：青灰色	肥前系
18	曲輪2	磁器	碗	10.4	-3.4	-		外・内面：界線	外・内面：灰白色	
19	曲輪3	陶器		-	-	-			外・内面：黒褐色	
20	曲輪3	磁器	小杯	6.8	2.75	2.4			外面：白色 内面：青白色	
21	曲輪2 L-23	磁器	皿	30	-3.3	-			外・内面：白色	
22	曲輪2	陶器	搦鉢	-	-	-			外・内面：灰赤色	
23	曲輪2	瓦質土器		-	-	-		外面：草花	外面：暗灰色 内面：灰色	
24	表採	磁器	皿	14	(2.6)	-	型紙刷り	内面：草花	外・内面：灰白色	
25	表採	磁器	杯	10.6	(2.75)	-		外・内面：界線	外面：灰色 内面：灰白色	
26	表採	陶器	鉢	25.6	(3.8)	-	ロク口成形		外・内面：灰褐色	
27	表採	磁器	碗	12	(6.7)	-		外面：草花	外・内面：灰白色	肥前系

Tab.3 遺物観察表

() は残存・復元値

中筋川流域における小村の景観復元

1.はじめに

間城跡の所在する江の村間は中村平野^{はざま}の主軸である中筋平野に立地する。中筋平野は中村においても有数の穀倉地帯であり、間城跡の前方にも田園地帯が広がる。この田園地帯は昭和40年代の圃場整備事業により、短冊状に区画されており、以前の景観を垣間見ることはできない。しかしその反面、集落が立地する場所などはほとんど開発されておらず、昔の景観をそのまま残しているといえる。今回の中村宿毛間の高規格道路建設に伴い、この地区に所在する間城跡の発掘調査を行うこととなった。同じ江の村では平成4年度に江ノ古城跡・ハナノシロ城跡の調査が行われている。その際、長宗我部地検帳と明治年間における地籍図の検討を行い、中世における江ノ村の景観復元を松田直則氏が試みられている⁽¹⁾。

江の村は中筋川流域に所在する村であり、この中筋川流域は一条氏の所領が多かった場所でもある。長宗我部地検帳では江の村は、江ノ村、牛谷ノ村、久木ノ村、ハサマノ村の諸村から構成されているが、江ノ村、牛ノ谷村、久木ノ村に関してはこの時検討が行われ、15世紀代に於ける小規模城郭の在り方、性格の追及を試みられているが、ハサマノ村に関しては割愛されていた。今回の間城跡の発掘調査に伴い、城跡の所在する江の村間^{はざま}にスポットをあて、ハサマノ村の景観復元と江ノ村と同様に中筋川流域に所在する近隣の森沢地区の中世における景観復元に少しでも近づけたらと考える。

2.長宗我部地検帳と地籍図

長宗我部地検帳は天正15年（1585年）から慶長3年（1598年）にかけて土佐国を統一した長宗我部元親・盛親親子により行われた土佐国独自の土地高の検地である。検地といえば豊臣秀吉が行った太閤検地が有名であるが、同じ太閤検地のなかにもありながら相違点が多い検地であることから、研究者の間では太閤検地としては考えられていない。横川末吉氏は『長宗我部地検帳の研究』で「長宗我部検地は太閤の命令による太閤検地であるが、元親の主催した指出検地であるとせねばならない。」と述べられている⁽²⁾。

長宗我部氏は土佐国全域を検地しており、当地の幡多庄については天正17年10月から翌18年5月にかけて行われている。長宗我部地検帳での土地高の単位は町、反、代、歩、勺、才に統一されており、一町=10反、一反=50代、一代=6歩、歩=2勺、勺=2才が使用されている。一反を一石、一代が二升、一步が三合、一勺が二合、一才が一合の位置づけとなる⁽³⁾。また地目には屋敷地、田、畠地等が記載されているが、そのなかでもそれぞれ上、中、下、下々のランクに分けて記載されている。また地検帳では土地ごとにホノギ（名称）が付けられ、検地をしている。その名称は土地の小字となり、後世においても残っている場合が多い。今回使用した明治年間の地籍図に書かれている小字を検討すると、地検帳段階の名称が残っている場合が多く、地検帳段階の村の復元が可能であると考えられたため、松田氏が行った方法にそって検討を進めた。

当時の検地人は、南国市田村においては長宗我部氏の有力家臣があたっており、何人かの部隊を

編成して土佐全域に亘って数カ所で一斉に検地を行い、検地の責任者は元親の家臣であると考えられている。幡多地域でも同様に、長宗我部氏の有力家臣による検地が行われたと考えることができる。

3.江の村の中の城跡

まず、江ノ村を構成する各村々の城跡についてみていく。ハサマノ村には今回調査した間城跡、江ノ村にはハナノシロ城跡、江ノ古城跡、久木ノ村には西ノ谷城跡、久木ノ城跡が存在している。その内、江ノ古城跡に関して地検帳には以下のように記載されている。

江ノ古城ツメノタン

一所式十五代	下々久荒	散田分
二ノ堀		
一所式十代	城山荒	同分
東二ノ堀		
一所代	同荒	同分
三ノ堀		
一所六代四分	同荒	同分

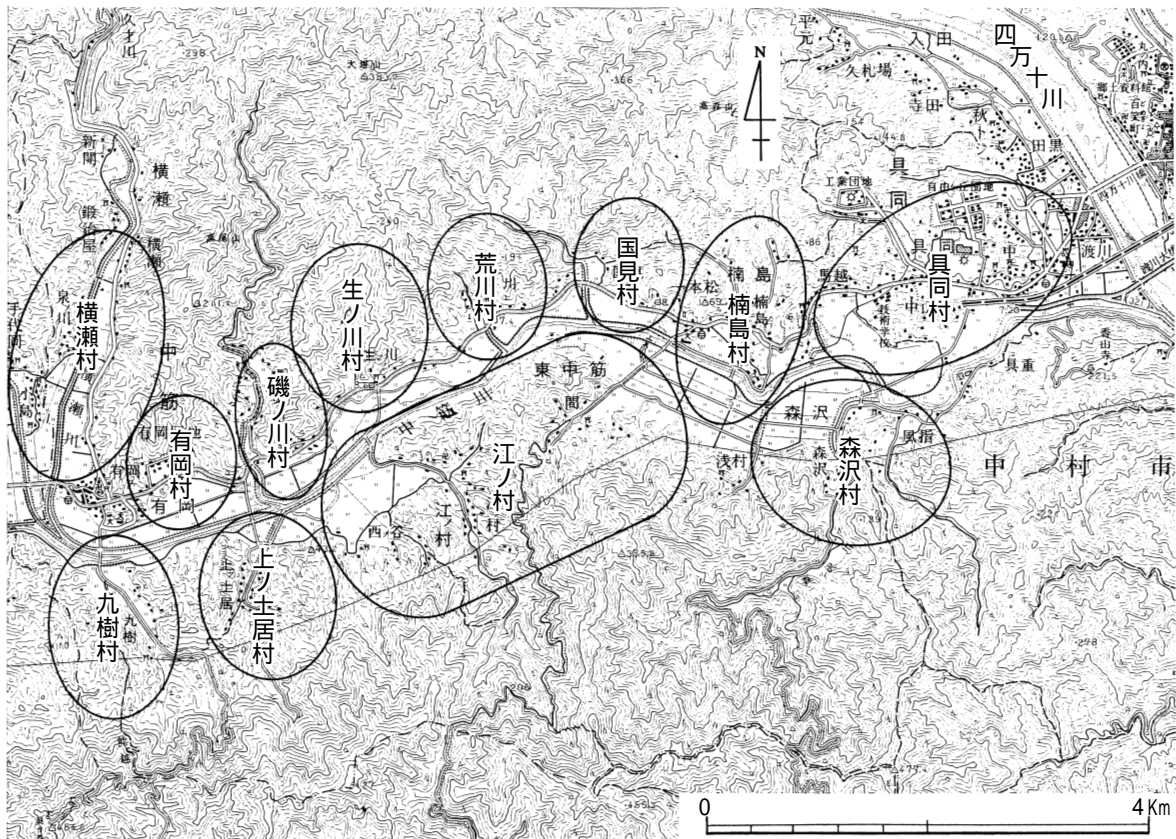


Fig.21 中筋川流域の中世村落位置図

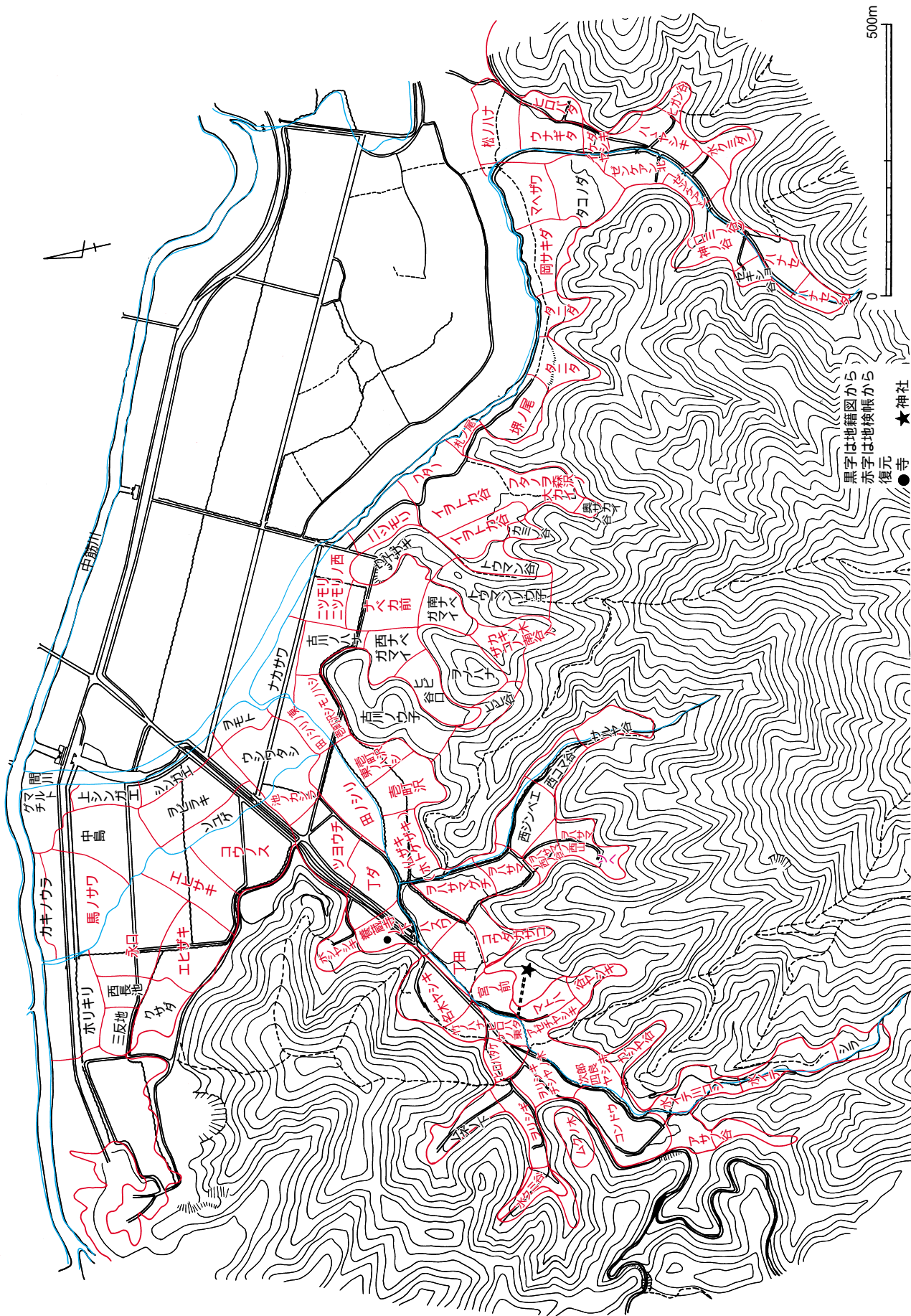


Fig.22 間村小字復元図

ハナノシロ城跡に関しては古城、久木ノ城跡、間城跡に関しては記載すら見あたらない。発掘調査では、ハナノシロ城跡で貿易陶磁器の青磁、白磁、備前焼、土師器羽釜などの出土遺物から、概ね15世紀後半から16世紀前半代に機能していたと考えられている⁽⁴⁾。また江ノ古城跡においてもほぼ同時期と考えられている。松田氏は「中世江ノ村復元」のなかで、各城跡の規模・立地面からも江ノ村と久木ノ村の中心的集落を防御する目的で構築された城が江ノ古城跡と西ノ谷城跡で、ハナノシロ城跡と久木ノ城跡は本城に伴う別の役割を果たした城として機能したと考えられている。また各城跡周辺の地目、面積から各集落の生産高を推定し、集落の本城となる江ノ古城跡、西ノ谷城跡の縄張りからみた城跡の規模の差から「城郭の規模・構造は生産力も含めた村そのものが持ち合っている総合的な力に規定されているものかもしれない」と述べられている⁽⁵⁾。また、中筋川流域の河津と考えられるフナトと城跡の関係からは戦国時代という時代背景の中、交通手段である河川を見張ることは重要な意味を当時もっていたであろうと述べられており、ハナノシロ城跡、久木ノ城跡がフナトを監視する性格を持っていたのだろうと考えられている。

この段階では江ノ村、牛ノ谷村、久木ノ村に関して予察されており、ハサマノ村については割愛されていた。ここではハサマノ村を地目別にまとめ、城跡の規模が集落の生産高に比例するかどうか考えていきたい。また各集落とも比較検討していきたい。

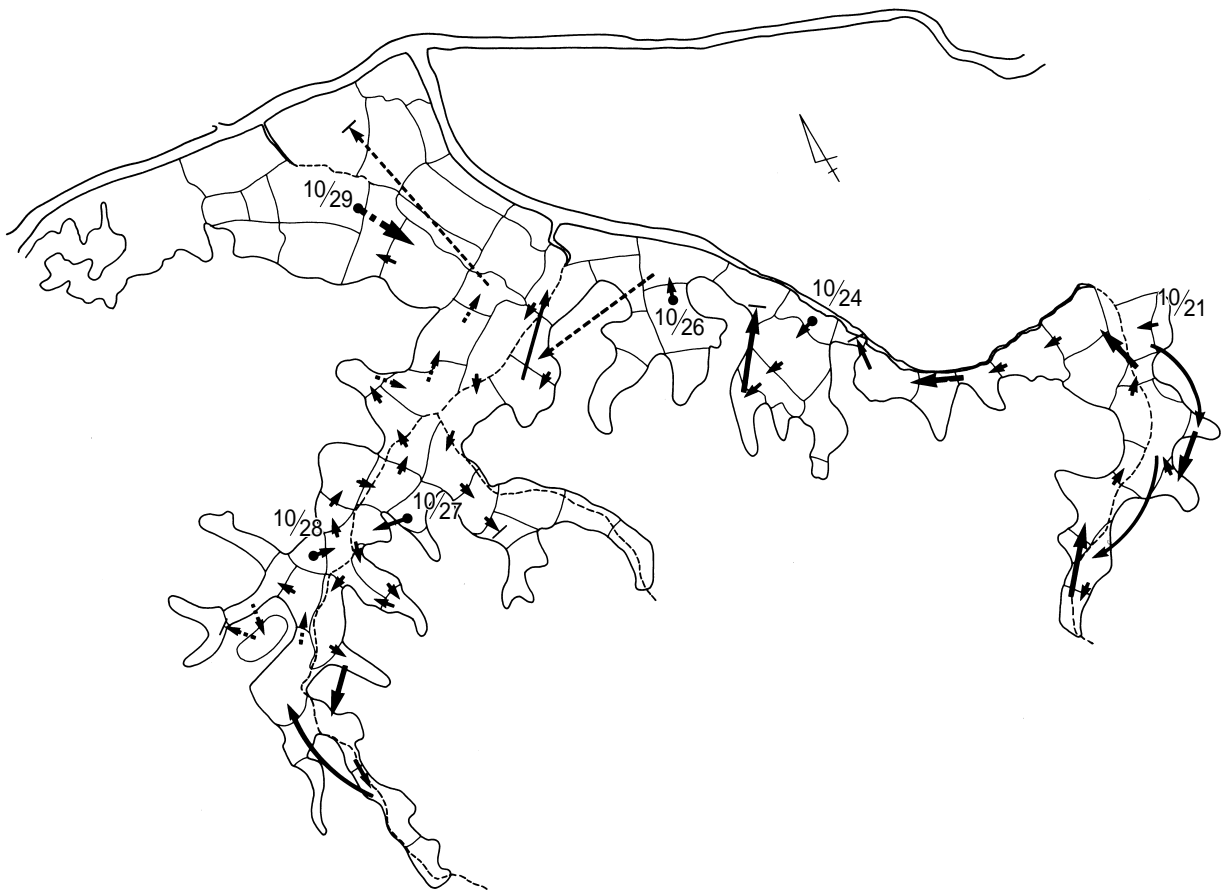


Fig.23 検地実施日復元図1 (ハサマノ村)

江ノ村の検地

当時の江ノ村（江之村）は山田郷内に属しており、ハサマノ村、江ノ村、牛ノ谷村、久木ノ村の小規模な村々から構成されている。村の面積は江ノ村が最も広く、次いでハサマノ村、久木ノ村、牛ノ谷村の順になる。当地における検地は天正17年10月14日から11月18日にかけて行われており、ハサマノ村に関しては10月24日から29日にかけての記載が残されている。ここではそれぞれの日にちごとの検地を簡単ではあるが、辿っていきたい。

10月24日

隣接する森沢村の浅村から江ノ村の検地に移った日である。江ノ村の東端にあたるハサマノ村の検地が最初に行われている。まずその境にあたるイヨトカ谷の検地から始められ二ツモリまで行われている。イヨトカ谷は地籍図での「イヲトケ谷」を指していると考えられる。このイヨトカ谷を通り、その西側に面する二ツモリなどの検地を行いこの日は作業を終了している。イヨトカ谷などは地目（等級）ではほとんどが荒地と記載されており、所領は小松谷寺領と記載されている。江ノ村に所在する長法寺の名称であると考えられる。

10月26日

25日は検地は行わず、翌日の26日からは西側にあたる二ツモリの検地から始まりヲハサマノ西山

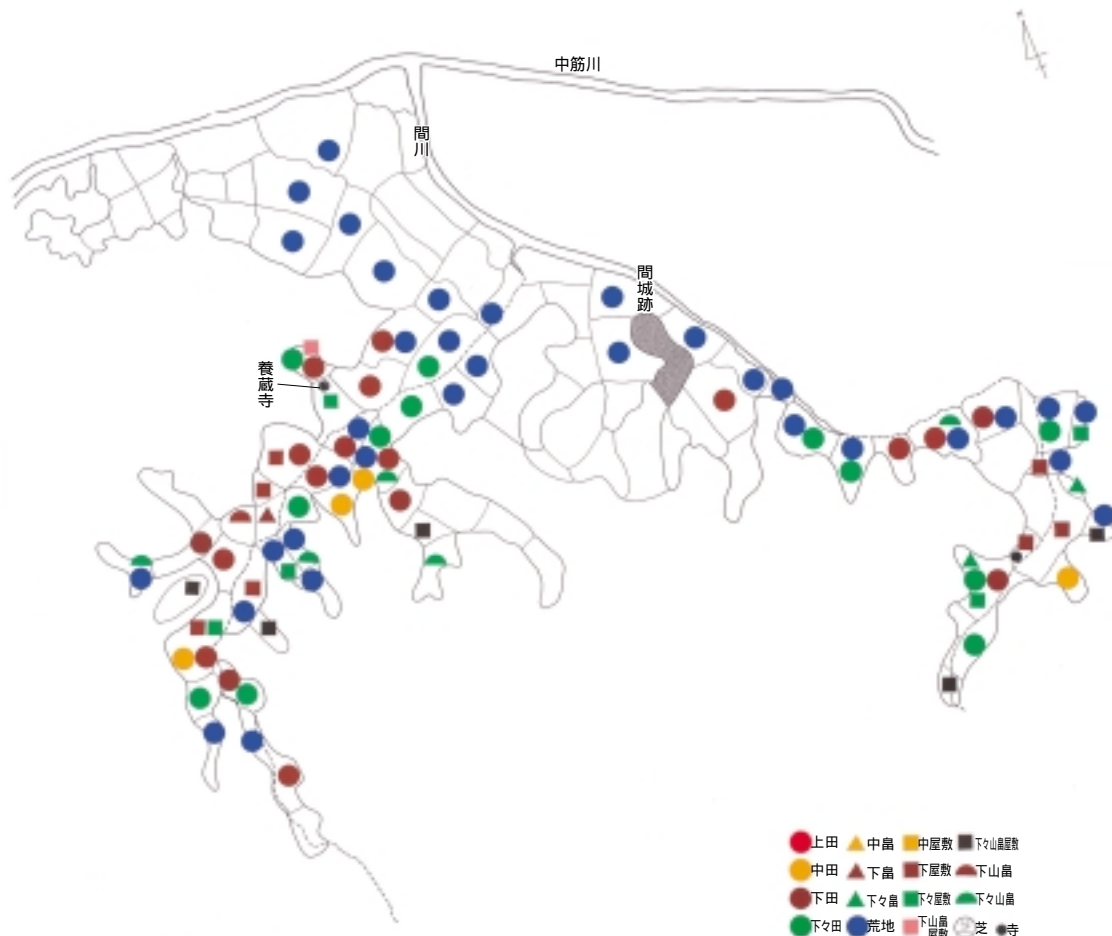


Fig.24 長宗我部地検帳地目内訳図1（ハサマノ村）

まで行われている。立地からは、ニツモリの南側に位置する山から派生した尾根が今回発掘調査された間城跡に相当する。地籍図ではトウマンノウ子の名称であるが、地検帳には該当する名称がみられない。また周辺でも城跡（シロ）を意とする名称は記載されていない。次にカキノ木ザコ、ウチコシ、壱町沢と城跡の周辺が検地されているが、ほとんどが「下々久荒」と記載されている。また城跡の西側の谷間でも「定沢荒」と記載されており、この長宗我部氏による検地段階では城跡の周辺は荒地、または沢のような水の多く湧き出ている湿地と化していることが推測できる。現在も周辺は標高3.1m前後と非常に低い低湿地となっており、現在とほとんど変化が見られないと考えられる。また沢に囲まれている点など城跡の周りは自然の要害となっていたのではないかと考えられる。

田ノシリまではほぼ地目は「荒地」であるが、仏ザキに移ると「水田」として使用されている。地籍図ではホトケ谷に比定できる。検地は次にハサマノ村の集落に向かって検地を進めている。

10月27日

コウタガサコからニシダニまで行われている。宮ノ前は「宮ノハナ」、次良四良ヤシキは「ジロシロ」と考えられ、現在の集落中心部へと検地を進めている。ハサマノ村には間川から派生した小さな川が集落を南北方向に流れている。（明治年間地籍図、昭和39年の航空写真）まず検地はこの集落を流れる川の東側（岸）に添って行われているようである。このように川の東側に添って集落の奥まで検地を行い、「水イテ川コシ」の際に川を飛び越して今度は川の西側あたるコントウに移り、次に一番奥に位置するアサノ谷の検地を行うと今度は北方向に向かって順番に検地を進めている。

集落に入る手前（北側）では下位の等級である「下々田」の記載が多かったが、集落の中心部へと検地を進めるに従い、同じ水田でも「下田」、「中田」の上位の等級の記載がみられるようになる。川の西側（岸）においてもコントウからチシャノキにおいて「中田」の記載があり、良質の水田があったと考えられる。

10月28日

ヒロハタケから馬ノサワまで行われている。ヤウゾウシは「養蔵寺」、養蔵寺ノ下は「テラノハナ」、池ノカシラは「丸池」、馬ノサワは「ムマノサワ」に該当すると思われる。ヤウゾウジは地目では「下々ヤシキ」とだけあり、御堂などの記載はない。検地はだんだんと北上して竹ノハナ、名木ヤシキなどの屋敷地を通り次にテラノハナ、下丁田を移動し、ほぼ集落の中心部は終了している。次には集落の北西部にあたるコウノス、丸池に進んでいるが、この区域は最初に検地を行った南西部と同じく「下々久荒」となっており、水田としてはほとんど使用されていなかったと考えられる。

10月29日

間村に関しては永 からエヒサキまで検地を行っている。これからの記載は江ノ村分に入る。永は「ナガイチ」、エヒサキは「エヒサキ」に比定できる。集落の北西部にあたるが、ほとんどが

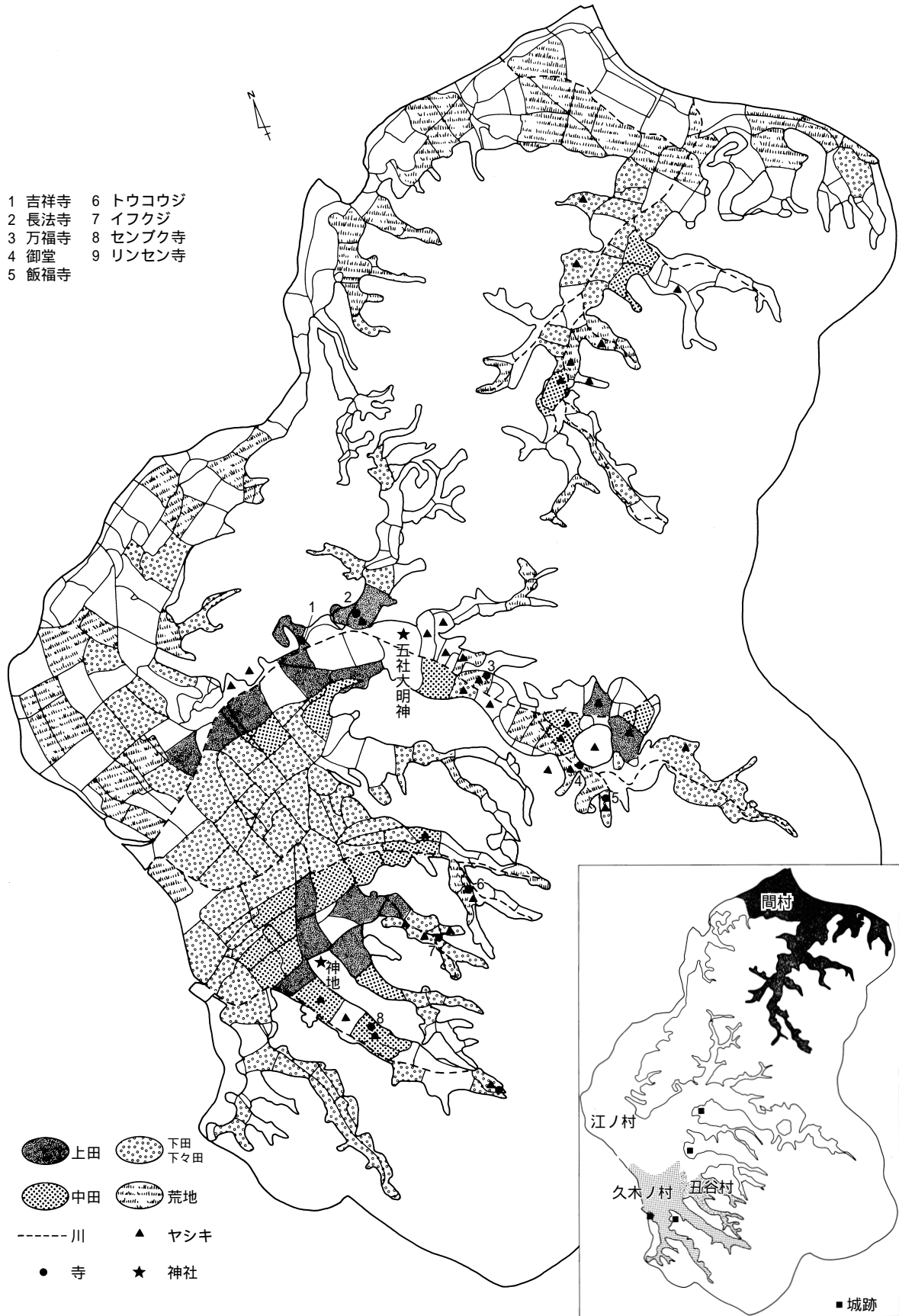


Fig.25 江ノ村地目復元図

「下々久荒」と記載されており、水田には適しない土地であったと考えられる。

このようにハサマノ村に関する地検帳の記載事項を見てきた。明治年間の江の村の地籍図と昭和39年にこの地域を撮影した国土地理院の航空写真を比較すると、この段階まで地形自体は開発をされていないために田の区画などがそのまま残っている。また地籍図の小字に長宗我部地検帳のホノギ名がよく残っていることがわかる。

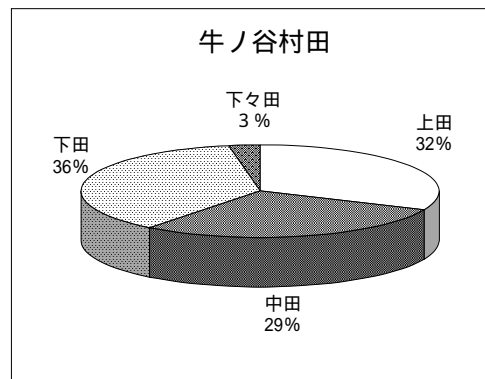
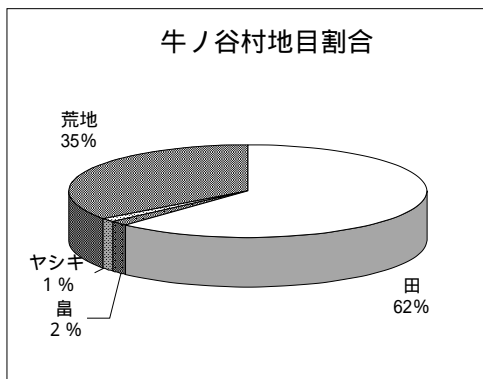
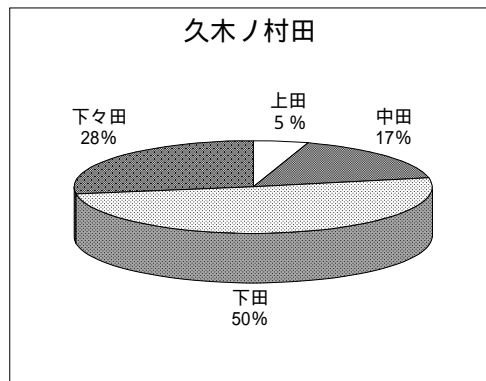
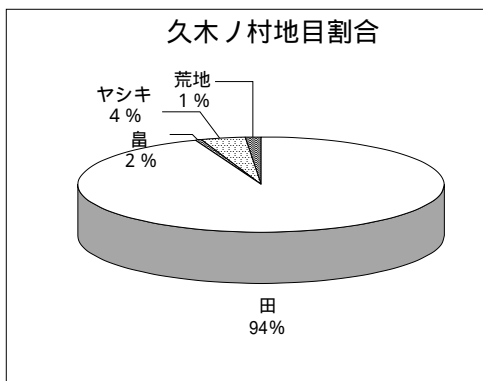
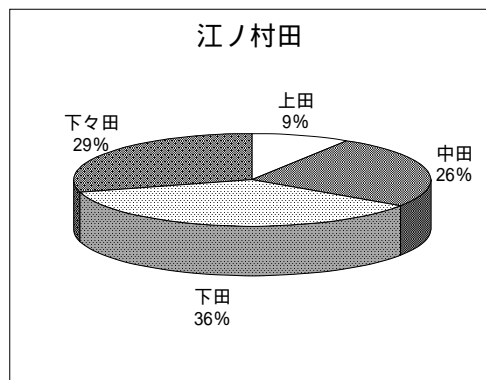
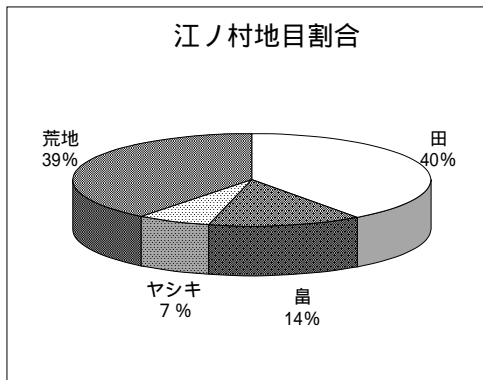
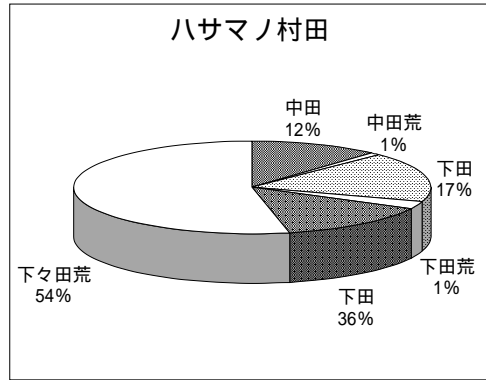
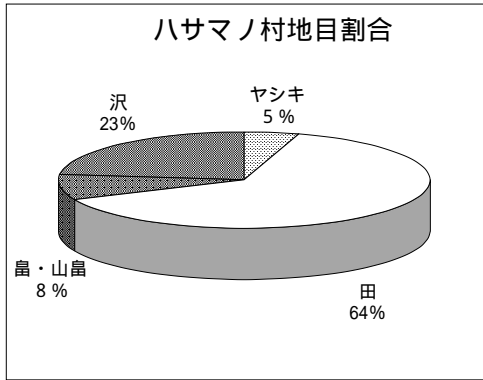
中筋川の支流である間川が森沢から間地区へと流れているが、この間川から派生した小川が間の集落を南北方向に流れている。この川を中心として検地が展開されているようである。また現在は圃場整備が進められ森沢から間の周辺は整備された穀倉地帯となっているが、中筋川の堤防が出来る前は川の氾濫による水害に悩まされた土地でもある。現地形でも標高は3.1m前後を測る等大変土地が低い。このような状況からも中筋川に近接する集落の北西部は水田に適さない「荒地」、「定沢地」と化していたと考えられる。

各村の様相

江ノ村は4箇所(88反40代)の村から構成されている。まずヤシキ地について検討していきたい。村全体では38箇所(88反40代)の記載がみられる。その内江ノ村では、その本城である江ノ古城跡の東側谷地形で20箇所、ハナノシロ城跡の南側谷地形において3箇所の記載がみられる。久木ノ村では本城のある西ノ谷城跡の東側谷地形で7箇所、久木ノ城跡では0箇所と計7箇所の記載がみられる。どの集落も本城の東谷地形にヤシキが存在している。ヤシキの地目をみていくと、江ノ古城跡側には「中ヤシキ」が4箇所、「下ヤシキ」が9箇所、「下々ヤシキ」が7箇所となる。ハナノシロ城跡側では「下ヤシキ」「下々ヤシキ」「下々山畠ヤシキ」が存在している。西ノ谷城跡側では、「中ヤシキ」が3箇所、「下々ヤシキ」が2箇所、「下々山畠ヤシキ」の2箇所となる。両村とも城跡周辺の谷地形に存在しているが、ヤシキの等級からみると、集落の本城周辺には上級のヤシキ地が立地している。

次にハサマノ村をみていくと、間城跡の両谷地形は沢・荒れ地が多くを占め、ヤシキの記載はない。本集落の谷地形においては、

同じノ西ノ谷	一所壹反	出四十壹代	下々山畠ヤシキ
谷ヤシキ	一所三十代		下々山畠久荒
アゼチヤシキ	一所四十五代三分		下々山畠ヤシキ久荒
同じヤシキ	一所四十代	出拾代三分	下々ヤシキ
次良四良ヤシキ	一所三十代	出拾五代貳分	下ヤシキ
同床共		内七代 荒	
		一反三十八代貳分作	
カチヤ谷	一所拾代	出拾七代三分	下々山畠ヤシキ
コンドウ	一所六代四分		下々ヤシキ
コンドウ	一所拾代	出廿壹代三分	下ヤシキ
名木ヤシキ	一所壹反	出廿五代三分	下屋敷



Tab.4 江ノ村地目・水田割合表

上下共

ホシヤシキ

一所壹反

出壹反四分

下山畠ヤシキ

以上10箇所の記載が見られる。江ノ村全体のヤシキ総数、面積では江ノ村が最も多く、ハサマノ村については2番目となる。しかし、屋敷の地目では「下ヤシキ」、「下々ヤシキ」がほとんどであり、江ノ村、久木ノ村のように中ヤシキはない。また屋敷地のまわりには地目でも「中田」の水田が隣接している。立地面からみると、集落のほぼ中央で開けた場所に立地しており、現集落内の家々が建ち並んでいる場所とほぼ同様であるといえる。

地検帳には江ノ村全体で9箇所の寺と2箇所の神社の記載がみられる。その内江ノ村には吉祥寺、長法寺、万福寺、飯福寺、トウコウジの名称がみられる。吉祥寺、長法寺に関しては小松谷寺殿領となっている。小松谷寺殿とは和歌の師匠で一条氏、長宗我部氏を通じて優遇されており⁽⁶⁾、長法寺には小松谷氏の墓が現存する。万福寺は江ノ村に所領をもっており、周辺には中ヤシキが集中している。谷奥には飯福寺が存在しており、周辺には下・下々ヤシキが集中している。牛ノ谷村にはイフクジとその堂の記載が見られるが、この頃には退転していたと考えられる。久木ノ村にはリンセン寺中の記載があり、ヤシキもその周囲に多い。ハサマノ村ではヤウゾウジ(養蔵寺)があるが、地目では下々ヤシキと記載されているのみで寺領もなくこの頃にはすでに退転していたと思われる。江の村においては長宗我部段階では長法寺、万福寺、飯福寺が残っていたのではないかと考えられるが、それ以前の寺の名称がホノギとして残っており、一条氏時代の村の様子を垣間見ることができる。

次に村の生活を支える水田について考えていきたい。村全体では約772反6代4分の水田が記載されている。各村の割合としては江ノ村が全体の半分を占め、ついでハサマノ村が27%と村の1/4を占める。牛ノ谷村に関しては村が小規模なこともあり、7%と非常に少ない。各村の等級をみていくと、江ノ村では375反25代1分の水田が記載されており、その中でも下田が約1/3を占めて最も多く、ついで下々田、中田が占める。上田については全体の約1割ほどを占める。水田の立地であるが、下田の大部分は集落の西側に多く、江ノ古・ハナノシロ城跡の北西部に立地している。下々田は本集落から少しはなれた北西部にみられる。また、下々田の場所は旧中筋川の右岸にあたり、川の氾濫源にあたるためか荒地地が大部分を占めている。上・中田については江ノ古城跡の北側と、ヤシキ地が存在する東側谷部に立地している。

久木ノ村では148反23代2分の水田が記載されている。等級別にみていくと、下田が50%ともっとも多く、ついで下々田が28%と全体の1/4を占めている。ついで中田、上田の順番になる。水田の立地であるが、下田は村の北部から南部にかけて位置している。下々田は西ノ谷城跡と久木ノ城跡の間の谷地形に多い。上・中田に関しては、ヤシキと同じく西ノ谷城跡の東側谷地形に立地している。

ハサマノ村では196反2分の記載がみられる。等級では中田から下々田までであるが、中田荒、下田荒、下々田荒の記載もみられ、荒地と化している場合も考えられる。全体では下々田荒が54%と全体の1/2を占める。ついで下田が17%、下々田が12%、中田が12%となる。水田から「荒」を除くと、割合では江ノ村、久木ノ村と同様に下田が最大を占めることとなる。またハサマノ村では他村

と異なり、上田の記載がみられない。中・下田は、ハサマノ村集落でもヤシキが存在する地点周辺に立地している。集落に入る手前（北側）では下位の等級である「下々田」の記載が多かったが、集落の中心部へと検地を進めるに従い、同じ水田でも中田等の上位等級の記載がみられるようになる。

牛ノ谷村は田について52反7代5分の記載がみられる。村全体では最も少ない。しかし、等級別では下田が36%を占め最も多いが、ついで上田が32%、中田が29%と大差がない。他村の水田面積と比較すると、上田・中田が占める割合が非常に高いといえる。また給地の欄に高尾寺領の記載が数カ所みられる。高尾寺は中村市横瀬に所在した寺で明治初年に神仏分離により廃仏となっているが、江ノ村の他6村にその所領をもっている⁽⁷⁾。一条氏、長宗我部氏、山内氏時代にかけて存在し、優遇された寺である。「中世江ノ村の復元」の江ノ村、久木ノ村の様相をみていくと、江ノ村においては江ノ古城跡を本城とするハナノシロ城跡、久木ノ村では西ノ谷城跡を本城とする久木ノ城跡と各村に本城と支城が存在する。ヤシキ地はほとんどが本城跡に近接した谷地形に立地しており、そこには中筋川から派生する小河川が流れている。水田についても上田、中田の上級の水田が立地している。ハサマノ村では集落から少しはなれた丘陵上に立地している。江ノ村全体における城跡と小村落の状況からは集落の近辺にハサマノ村の本城となる城跡が存在している可能性も考えられるのではないかと。次に同じ中筋川域に所在する村ではどのような状況にあるかみていきたい。

森沢における城跡

中村市森沢は江の村の東側に隣接する集落である。長宗我部地検帳では同じ山田郷内に属している。共に中筋川右岸に開けた場所に立地しており、中筋川により形成された中筋平野に位置している。面積では江ノ村を半分にしたような村である。地検帳には森沢に所在する城跡についての次のような記載がなされている。

詰ノタン	森沢村
一所三十代 荒	城山
南二ノヘイ	同
一所四代 荒	同
ソイドノ々タン	同
一所式代三分 荒	同
カメイノダン	同
一所三代 荒	同
カメイノダンノ下	森沢村
一所八代 荒	城山
ウラダノヂウ	同
一所拾三代 二分 荒	同
同しノ下ノダン	同

一所六代四分	荒	同
大イノスケダン		同
一所三代三分	荒	同
弾正ノダン		同
一所六代四分	荒	同
弾正ノダン		森沢村
一所八代三分	荒	城山

中村市森沢には森沢城跡、森沢北ノ城跡の2城跡が現在までに確認されている。森沢北ノ城跡は森沢城跡の同尾根上の北側に隣接するように存在するが、後世の宅地、畑地の開墾の為、大部分が削平を受けている。城跡の北方向尾根裾には中筋川が流れており、北ノ城跡の尾根裾には、現在森沢川が流れている。明治年間の地籍図には、イヨトカ谷村と森沢村の間の山の尾根上に「城山」という記載がされており、立地等からもこの城山がここにかかれた地検帳段階の森沢城跡であると考えられる。城主は森沢氏と考えられている。縄張り調査ではほぼ江ノ古城跡と同規模の城跡であったと考えられる。森沢北ノ城跡に関しては森沢城跡よりは小規模な城跡である。

森沢村の検地

森沢は左古ノ村、^{あそうの}筋野村、コカサシ村、トウノ谷村、森沢村、朝村の6ヶ村から形成されている。城跡の東西は谷地形となっており、東側から^{あそうの}筋野村、カサシノ村、西側には城跡側から森沢村、朝村、北側にはトウノ谷村が存在している。森沢村も江の村と同様に明治年間の地籍図と昭和39年の航空写真をもとに村の復元を行ってみたところ、同様に古い小字を残した箇所が多いことがわかった。また踏査では城跡が2城跡確認されており、江の村と同じ様に城跡と集落の関係をつかむ上では貴重な資料になるといえる。ここでは城跡の所在する森沢村の様相について考えていきたい。

森沢村の検地は天正17年10月8日から10月21日まで実施されており、初めに左古ノ村の検地から始められている。

10月8日

具重大サカイ、サコノ谷から検地が始められている。この区域に関しては地籍図自体に名称が記載されておらず、確認は困難である。つぎに^{あそうの}筋野村に進んでいる。この村の所領のほとんどは足摺領と記載されており、足摺の金剛福寺を指している。金剛福寺は平安時代に弘法大師によって開山されており、以来、一条氏、長宗我部氏、山内氏を通して所領を安堵⁽⁸⁾されている。森沢村の東隣村(坂本村)の標高221mの山頂には金剛福寺の末寺である香山寺(高山寺)が存在しており、坂本村のほとんどは足摺領となっている。

昭和63年にはアソノ遺跡の調査が行われている。地検帳の川フチに比定できる場所であり、近くに船戸ヤシキの記載が見られる。調査では13世紀後半から14世紀前半の掘立柱建物跡が検出されており、遺物では11世紀から15世紀のものが出土している。遺跡では噴砂跡が検出され、その地震

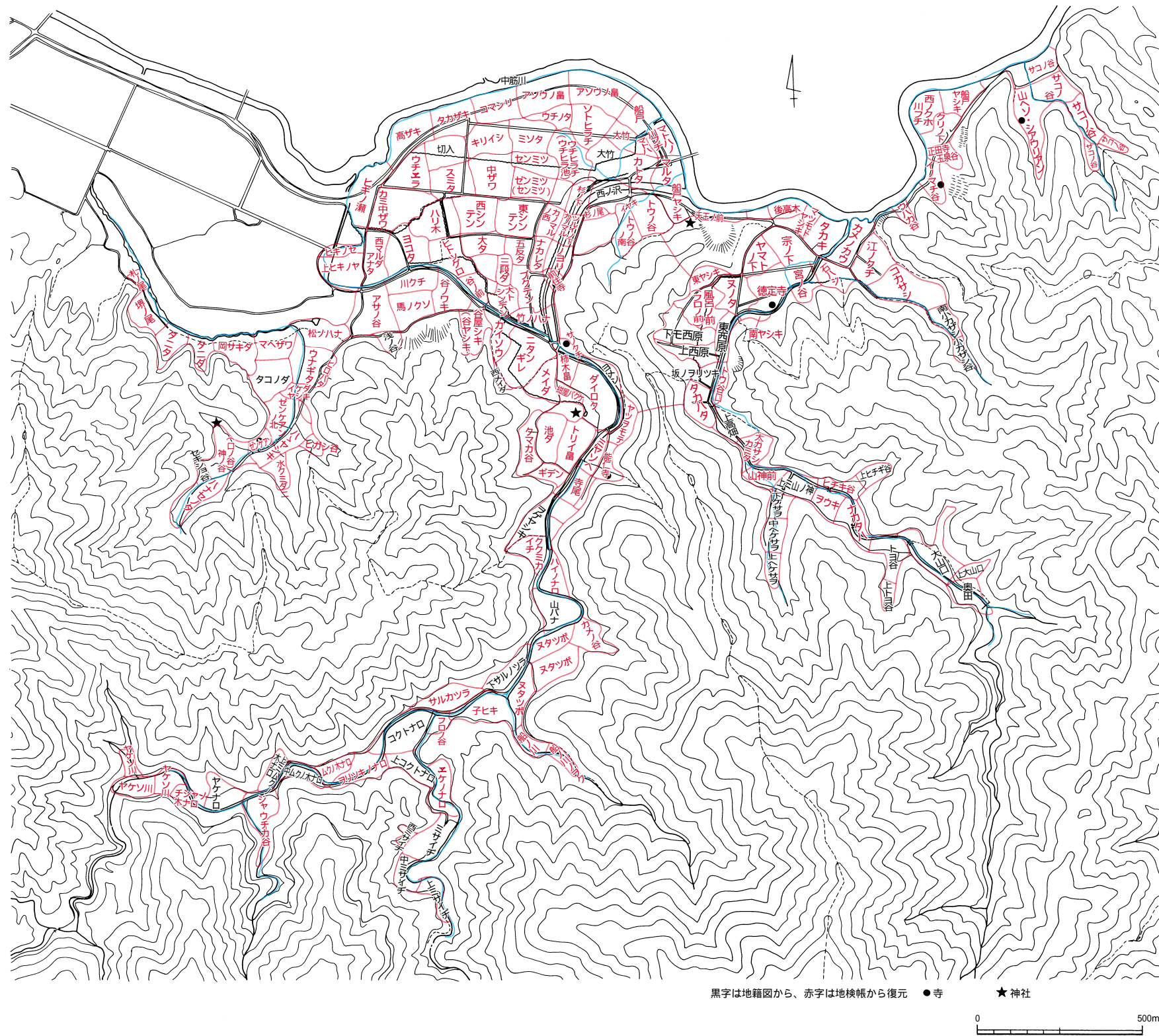


Fig.26 森沢村小字復元図

(1498年)以降の遺構は検出されず、集落が姿を消している。⁽⁹⁾ 地検帳段階での地目では山際にヤシキ地が記載されており、地震以後、そちらの方に移動していると考えられる。



Fig.27 検地実施日復元図2 (森沢村)

10月9日

コカサシ村の江ノクチから検地を始めている。コカサシにもハサマノ村と同じく中筋川から派生する川が集落を湾曲しながらもほぼ南北方向に流れ込んでおり、ここでもハサマノ村と同じように川の東側とその谷部分のカメノカウ、石橋、宮ノ谷などをまず検地している。川が湾曲し山の裾にあたると、川の向こう側（西側）に位置する徳定寺等の検地に移り、川が山裾から別れると、東側に移動し、流れに沿って奥地への検地を始めている。

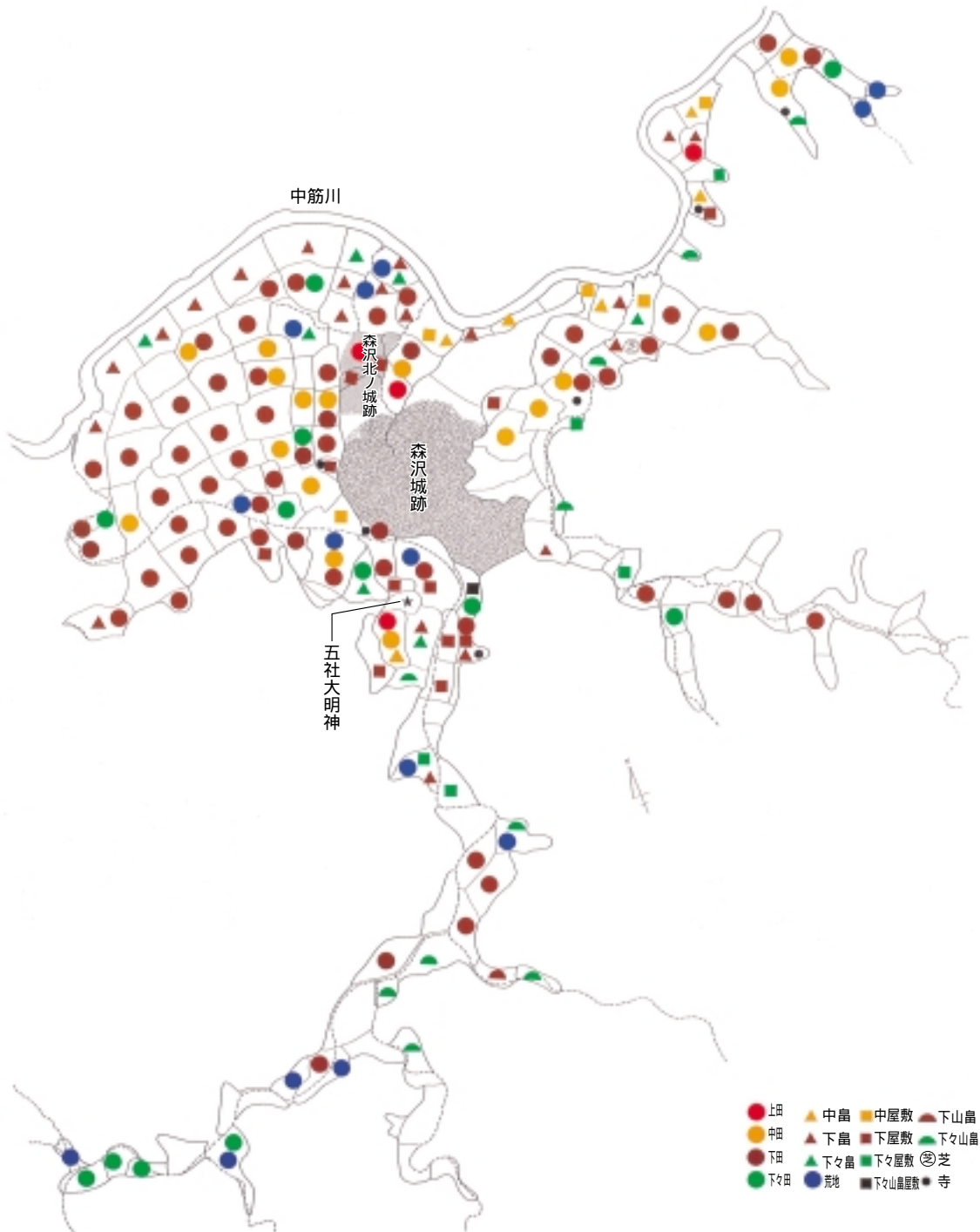


Fig.28 長宗我部地検帳地目内訳図2 (森沢村)

カメノコウに比例できる所では、昭和63年に風指遺跡の調査が行われ、古代の須恵器、土師器、緑釉陶器が多く出土している。⁽¹⁰⁾ その他13世紀後半から15世紀の遺物も出土している。地目でもヤシキ地の記載がみられることから周辺にはヤシキ地が存在したと考えられる。

10月10日

9日と同じく川の東側にあたるタカハタから始まっている。検地は順調に進んでいるが、川が湾曲し、南北方向が東西方向に流れを変えると検地はそれ以上奥地には進まず、西側（岸）にあたる風呂ノ前「フロノ前」が行われている。次にヌノタ、ヤマトノ下「宗ノ下」、タカキ、マツモトヤシキへと進んでいる。その後は山の尾根を通り越して山の北裏に位置する後高木に移動している。そこで、一端検地場所を変え、上高畑の南奥に位置する太カサシカミタ、山神ノ前を行き、北方向に下向してヒチキ谷、ナカタハの検地を行っている。その後、中筋川沿いに戻り、船戸ヤシキ、トウノ谷を検地している。

10月11日

この日はミヤソエから始まっている。西ノサワでトウノ谷村が終了している。西マトバ、東マトバでは中筋川から派生した川が流れ込んでいるが、地籍図と写真とでは川の途中までしか認識できない。その小川を境にして東側はトウノ谷村、西側は森沢村に別れると考えられる。地籍図において東マトバに相当する場所では、平成3年度に船戸遺跡が調査されている。船戸遺跡からは中世の自然流路と掘立柱建物跡、遺物では石製の碇、瓦器椀等が出土しており、立地等からは中世の河津としての位置付けがなされている遺跡⁽¹¹⁾である。地検帳では南隣には門田ヤシキの小字が見られるが地目では畠となっている。地検帳より前時代には、近くには屋敷が存在していた可能性がある場所である。ウチヒラチの一部から森沢村の村域になるが、検地は杉ノ尾「杉ノ下」などの山の裾づたいに南に進み、カノマル、五反タの検地に進んでいる。その後14日までは森沢に関しての検地は行われておらず、14日に再び前住寺寺中から始められている。

10月14日

前住寺寺中は地籍図の前住寺にあたり、現在でも前住寺の名が付く橋が存在している。現在では寺跡はなく、地検帳段階ではヤシキと記載されている。森沢村には同じく中筋川の支流である森沢川がすこし蛇行しながら集落を南北方向に流れている。前住寺の横には森沢川が流れているが、この川を越してブクテンに移動し、竹ノハナなどの周辺の検地を行っている。今度はこの川の西側のカキノキバタに移動し、川に沿うように検地を実施しながら、集落の中心部に移動しているようである。そのままミヤソへ、寺尾ヤシキに移動しており、まず川の東側に沿って集落の奥部分に移動して検地を行っていることがわかる。竹ノハナ、カキノバタ、ダイロク、ミヤソエは地目にヤシキが記載されており、東隣には能仁寺の記載が見られる。この寺の周囲にはヤシキが集中している。

10月15日

船ノ川からククミカイチまで検地が行われている。昨日と同じく川の東側沿いを進み、谷の一番奥に位置するチシヤノ木、ヤケソ川の検地を終わると川の西側沿いに移り、ムクノ木ナ口、サルノツラの検地を行っている。途中のシャウチカ谷は地籍図では「城重」に比定でき、地目ではほとんどが「切畑」となっている。フロノ谷は「狼谷」に、ククミカイチは「宅三ヶ市」に比定できる。川の東側沿いに谷の奥部まで移動し、西側沿いに奥部から集落の入口へと検地を進めているようである。この谷部では畠、水田がほとんどを占めているが、水田のなかでも下田・下々田が多い。

10月16日

キデンから谷ノ前まで検地が行われている。キテンノ前は地籍図では「ギデン」、トリイ畠は「トリバタ」に比定できる。キテンノ前は中ヤシキが存在し、この西側尾根沿いには現在諏訪神社が立地している。この日の検地では仁井田太明神の記載が見られる。位置関係では現在の諏訪神社の場所に比定できる。この周辺ではヤシキの記載が多く、現在でも家屋が密集しており、集落の中心部に位置するのではないかと思われる。大トシンデンは「大戸新田」、東シンテンは「東新田」、西シンテンは「西新田」に比定できる。

10月17日

西丸ダからゼンミツまでの検地を行っている。ヨコタは地籍図では「下横田」、ウチエラは「エラ」、ゼンミツは「善光」に比定できるが、一致しない場所が多い。隣接するナカザワには土器給の記載がみられる。この区域はほとんどが水田域であり、等級では「善光」は中田であるがその他は下田と記載されている。

10月18日

キリイシから馬ノクソまでの検地を行っている。キリイシは地籍図では「中切レ・北中切レ」に比定でき、次にミソダ、ウチノダ、船戸と進んでいく。この区域の北側には中筋川が流れており、川に沿って東から西に移動している。この場所は森沢村の北端となり、地目は畠と記載されている。この畠地は中筋川が形成した自然堤防に沿って形成されていると考えられ、先の船戸遺跡がマトハノ川フチに立地している。これより南側には広い水田域が形成されている。

10月21日

この日から朝村（浅村）の検地が行われている。森沢村のアサノ谷から堺ノ尾までの朝村全域を行っている。朝村は森沢村に隣接しているが、東西を山の尾根と尾根に挟まれた谷地形に形成された小村である。集落の中央を南北方向に小河川が流れており、検地も川を中心にまず東側から行われ、次いで西側へと移動している。ヤシキは川を隔てて東側に2箇所、西側に4箇所の記載がみられるが、下ヤシキ・下々ヤシキがほとんどである。この地域における分布調査において浅村では中世の散布地である浅村遺跡が確認されている。場所としては集落の中ほどに位置するハノヤシキ・

ヒガシ谷にあたる。地目と等級では下ヤシキと下々山畠ヤシキとなっており、地検帳と同じくヤシキが存在していたと推定できる。

各村の様相

森沢村全体では計32箇所のヤシキが確認されたが、ここでは城跡近隣に所在するカサシノ村、トウノ谷村、森沢村の記載を見ていく。ヤシキは東側のカサシノ村では「中ヤシキ」2箇所、「下ヤシキ」3箇所、「下々ヤシキ」10箇所北側のトウノ谷村では「中ヤシキ」1箇所、東側の森沢村では「中ヤシキ」3箇所、「下ヤシキ」18箇所、「下々ヤシキ」7箇所の記載がみられる。森沢村のヤシキは仁井田太明神と能仁寺の周辺に密集しており、江ノ村と同じ様相がみられる。寺の記載をみると、森沢全体では7箇所の記載がみられ、その内、筋野村では正田寺、コカザシ村では徳定寺、森沢村には前住寺、能仁寺、養西寺、朝村ではゼンケアンがみられる。地検帳では正田寺は足摺領とあり、徳定寺、能仁寺は各々寺領をもっているため長宗我部時代にはこれらの寺が残っていたと思われる。前住寺、養西寺、ゼンケアンに関してはホノギとしてはのこっており、一条氏時代の寺の様相が見えてくる。江ノ村と同様に、森沢村でも各寺の周囲にはヤシキが存在している。各村とも一条氏時代においては村ごとに寺が存在しているが、長宗我部段階になると集約され、集落の中心部に立地している。江ノ村では集落の入口付近に五社大明神が鎮座し、その奥にはヤシキが密集している。森沢村の場合は集落の中心地に仁井田大明神が鎮座している。

水田を見ていくと、村全体では約48町の記載がみられる。水田割合では森沢村が全体の64%を占め、次いでカサシノ村、朝村、トウノ村の順になる。森沢村は下田の割合が多く次に中田が占める。カサシノ村は下・下々田が80%を占め、残りは中田が占める。朝村でも同じく下・下々田で84%、中田が9%、トウノ村ではほとんどが上田・中田で占められている。これらを総合すると、森沢の各村の上・中田の配置はヤシキと同じく寺の周囲に点在している。

まとめ

江ノ村と森沢村に関して各様相を述べてきたが江ノ村においては、各村の規模に応じた城跡が立地している。森沢村の場合は村の規模は江ノ村のほぼ半分にあたる。各村ごとには城跡は存在しておらず、森沢城跡・森沢北ノ城跡の2城跡のみである。森沢城跡の東谷地形にはカサシノ村、北側にはトウノ村、西側には森沢村、朝村という様に城跡の周囲に各村が近接している。森沢村での城跡の配置は各村の城跡というより、森沢村全体の本城であるといえる。

江ノ村ではフナト、ワタリノモト、久木ノ村ではヒサギフナトの名称があることから、各集落に係わる河川交通の小河津と考えられている。城跡が機能していた段階では交通手段である河川を見張ることは重要な意味を持っていたとして、江ノ村ではハナノシロ城跡、久木ノ村では久木ノ城跡が河川を監視する城跡ではないかと考えられている。⁽¹²⁾ハサマノ村では河津を示唆する小字は見られないが、城跡の北側の山裾には間川、さらにその北側には中筋川が流れている立地から、間城跡も久木ノ城跡と同様に河川監視の役割を担っていたと考えることができる。同様に森沢城跡・森沢北ノ城跡が所在する森沢では牛ノ谷村に東マトバ、船戸ヤシキの小字があり、平成5年度に調査が行

われいる。掘立柱建物跡と石製の礎が確認されていることから、河津と考えられており、城跡が機能していた当ても存在していたと思われる。森沢北ノ城跡は近年の削平のために大部分が消失しているが、城跡の立地する尾根は地籍図では中筋川まで伸びていたと思われる。森沢城跡と森沢北ノ城跡の規模、位置関係から考えると、森沢北ノ城跡が河津を監視する役割、森沢城跡が村の本城としての機能をもっていたとも考えられる。

Fig29で江ノ村と森沢村の城跡、寺、神社、ヤシキの配置を示した。地検帳段階では退転している寺が多いが、寺であったと考えられる記載が残っている。一条氏時代には各小村にも寺が存在していたようである。江ノ村では村の本城となる城跡の谷地形部には寺が存在し、その周辺にはヤシキが集中している。谷の奥に寺が存在している場合が多い。地検帳には五社大明神の記載がみられ、現在も同じ場所に鎮座している。江ノ村集体落の入口付近にあたる場所である。森沢村では、城跡の立地する両谷地形には同じく寺が存在し、その周囲にはヤシキが多い。森沢村の本集落では江ノ村と同じく谷の奥に寺が立地している。また集落の入口付近には地検帳で仁井田大明神の記載が見られる。現在はその場所には諏訪神社が鎮座している。両村ともに城跡が立地する山の谷奥に寺とヤシキが立地している。まるで寺、ヤシキを守るように、城跡が立地しているようにも見える。水田については中筋川と城跡の間の沖積地に多く見られるが、上田については谷部分、ヤシキ、寺の周囲に多く、江ノ村と同様な配置をしている。

江ノ村と森沢村の様相をみてくると、村における城跡の立地は村の規模や地形環境によって異なっているとはいえ、両村とも屋敷、寺、水田などの立地に関しては同じ様相を示していると思われる。また両村とも小河津に近接した場所に城跡が立地しており、河川の監視を重要視している。このように両村の中世における景観をみてきたが、所々は変化しているものの、ヤシキ、水田、神社の立地はほぼ、現在と変わらないと言える。今回は江ノ村、森沢村の比較検討を行ってきたが、このような小村の立地状況は、両村が立地する中筋川流域の他の小村においても同様なことがいえるのではないかとと思われる。今回は、地検帳と地籍図の検討を中心に村の復元に努めたが、現地での踏査、聞き取り調査を実施すれば、より詳細な村の復元が行えたのではないかとと思われる。今後の課題としていきたい。

文章を執筆するにあたり松田直則氏に御教授をいただいた。記して感謝したい。

註

- 1 松田直則 「中世江ノ村の復元」『中村宿毛道路発掘調査報告書』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1993年
- 2 横川末吉 『長宗我部地検帳の研究』高知市立市民図書館 1961年
- 3 註2と同じ
- 4 松田直則・曾我貴行・竹村三菜「江ノ古城跡・ハナノシロ城跡」『中村宿毛道路発掘調査報告書』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1993年
- 5 註1と同じ
- 6 山本大 解説編 『長宗我部地検帳 幡多郡中』高知県立図書館 1963年
- 7 『中村市史 下巻』中村市教育委員会

- 8 山本大 監修 「高知県の地名」『郷土歴史大辞典 日本歴史地名体系第40巻』1983年
- 9 出原恵三・松田直則 「風指遺跡・アゾノ遺跡」『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書』高知県教育委員会1989年
- 10 註9と同じ
- 11 松田直則・曾我貴行・坂本憲昭他 「船戸遺跡」『中村・宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター1996年

参考文献

- 松田直則 「四万十川流域の中世河津」『中世都市研究3』中世都市研究会編 1996年
- 石井進 編 『中世の村落と現代』吉川弘文館 1992年
- 横山勝栄 「山間地域の小型城郭」『中世の城と考古学』新人物往来社 1991年
- 松田直則 「土佐の中世城郭と村落 四万十川流域の小規模城郭を中心として」『中世城郭研究』第12号 1998年
- 松田直則 「四万十の小さな村の小さな城」『城郭研究最前線』新人物往来社 1996年
- 松本豊寿 『城下町の歴史地理学的研究』1967年
- 『長宗我部地検帳 幡多郡中』高知県立図書館 1963年
- 『角川日本地名大辞典39高知県』角川書店 1986年

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分
24	フタノヲ	フタノ							12	下々山畠	12
"	イヲトカ谷	イヨトケ谷	1 10 5 1/2	下							1 10 5 1/2
"	" 道ノ上	"	40 1/2	下							40 1/2
"	" 西ノソヘ	"						3 13		下々山畠	3 13
"	イヲトカ谷ノ北	"	1 33 1 1/2	下							1 33 1 1/2
"	イヲトカ谷ノ西	"	45 1 1/2	下							45 1 1/2
"	"	"	38 3	下							38 3
"	"	"	1 10 5 1/2	下							1 10 5 1/2
"	イヲトカ谷	"	1 25 1/2	下							1 25 1/2
"	イヲトカ谷ノ西	西イヨトケ谷	36	下					42 1	荒	1 28 1
"	"	"							45 5	下久	45 5
"	"	"							45	久荒	45
"	"	"						2 15 3		下々久	2 15 3
"	イヲトカ谷	"						2 32		下々山畠	2 32
"	イヲトカ谷ノ北山ソヘ	"						41 3		下々久	41 3
"	ニツモリ	フタツモリ						43 2		下々久	43 2
"	ニツモリノ北	"					1 1			下々	1 1
"	ニツモリノ北	"					2 36 1			下々	2 36 1
"	ニツモリ	"					1 30 1			下々久	1 30 1
"	ニツモリノ西	"					1 17 3			下々久	1 17 3
"	ニツモリノ南	"					1			下々久	1
"	"	"					1			下々久荒	1
26	ナウ々木ノ下							26 4		下々久	26 4
"	カキノ木ザコ	柿佐古					1 31 1 1/2			下々久	1 31 1 1/2
"	カキノ木ザコノ南	"					1 2			下々山畠久	1 2
"	ナベカ前	南ナベカマイ					6 36			定沢	6 36
"	ウチコシ						1 7 1/2			下々久	1 7 1/2
"	ウチコシ						23 2			下々久	23 2
"	ウチコシ						1 30 3			下々久	1 30 3
"	イツチイ木ザコ						1 25 4			下々久	1 25 4
"	ナベカ前	ナベカマイ					4 16			定沢	4 16
"	ナベカ前ノ北						1 10			下々	1 10
"	ナベカ前ノ東						1 28			下々	1 28
"	ニツモリ	北フタツモリ					1 30 2			下々久	1 30 2
"	ニツモリノ西	"					1 31 2			下々久	1 31 2
"	"	"					1 30 2			下々久荒	1 30 2
"	"	"					35 1/2			下々久	35 1/2
"	壺町沢東ノハシ	東一丁沢					1 6 5			下々定沢	1 6 5
"	壺町沢シモノハシ	"					3 9 4			下々久	3 9 4
"	壺町沢ノ西	一丁沢					1 40 2			下々久	1 40 2
"	壺町沢ノ西	"					1 15			下々久	1 15
"	"	"					2			下々久	2
"	"	"					1 40			下々久	1 40
"	壺町沢	一丁沢					2 12 3			下々久	2 12 3
"	田ノシリ	中田ノ尻					2 30 4			下々	2 30 4
"	田ノシリノ東	田ノシリ	20	下々			2 10 2			下々	2 30 2
"	シゾキ						1 25 4			下々久	1 25 4
"	仏ザキ	ホトケ谷	1 3	下々							1 3
"	ホトケザキ	"	1 11 3	下々							1 11 3
"	ホトケザキノ東	"	1 35 2	下々			1			下々	2 35 2
"	ホトケザキ東山ソエ	"	10	下々			37			下々	47
"	ヲハサマグチ	ヲハザマコ	2 6 2 1/2	下々			28 2			下々	2 34 4 1/2
"	ヲハサマグチ西	"	2 18 1 1/2	下							2 18 1 1/2
"	口ハサマ						2 20 3			下々山畠久荒	2 20 3
"	ヲハサマノ北				1	下々山					1
"	"						20			下々山畠	20
"	ヲハサマノ東				45 1	下々山					45 1
"	ヲハサマノヲク		40 2 1/2	下々			15			下々	1 5 2 1/2
"	ヲハサマ		1 20 2	中			20				1 40 2
"	ヲハサマノヲク		2 17 3	下			4				2 21 3
"	ヲハサマノ西ノ谷					1 41	下々山畠				1 41
"	ヲハサマノ西山ソヘ				40 2	下々山		16		下々	1 6 2
27	コウタガサコ	コウ田	1 32 1	中							1 32 1
"	"	"	1 8 2	中							1 8 2
"	コウタガサコノ西	"	38	下							38
"	十代夕道ブチ		2 4	下々				12 4 1/2			15 2 1/2
"	宮ノ前	宮ノハナ	2 17 3	下々							2 17 3
"	マトハ	マトバ			40	下々山					40
"	"							1 3		下々山畠	1 3
"	マトハノ南谷						2 45 3			下々山畠	2 45 3
"	谷ヤシキ	谷ヤシキ					30			下々山畠	30
"	アゼチヤシキ	アゼチヤシキ					45 3			下々山畠屋敷	45 3
"	アゼチヤシキ					1 3	下々				1 3
"	次良四良ヤシキ	ジロシロ				1 38 2	下	7			1 45 2
"	カヂヤ	カヂヤカ谷	2 10 1 3/4	中							2 16 1 3/4
"	カヂヤノ西		16 1	中							16 1

Tab.5 長宗我部地検帳ホノギ一覧表1

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	
27	カチヤ谷	カジヤカ谷					27 3	下々山畠			27 3
"	水イテ川コシ		1 14 3	下							1 14 3
"	水イテ	ミツイテ	43	下					10 3	下畠荒	1 3 3
"	水イテ川ヨリ西	"							31 5	下々	31 5
"	コンドウ	コントウ	33 5	下							33 5
"	アサノ谷	アサノ谷							2 21 1	下々荒	2 21 1
"	コンドウ	コントラ					6 4	下々			6 4
"	" 口	"					31 3	下			31 3
"	コンドウノ下	"	1 13 5	中							1 13 5
"	コンドウノ東	"	2 2 3	中							2 2 3
"	"	"	1 1 1/2	中							1 1 1/2
"	チシヤノ木	ケンヤノキ	1 41	中							1 41
"	ヲリツギ	ヲリツギ	1 6 3	下							1 6 3
"	ムクノ木	ムクノ木					1 30	下々山	1 40 3	下々山畠	3 20 3
"	ムクノキノ北谷								1 30	下々山畠	1 30
"	ニシダニ	水グミ谷?							39 2	下々山畠	39 2
"	ニシダニノラクノ谷	"							1 40 5	下々山畠	1 40 5
28	ヒロハタケ	中バタケ			1 19 5	下山					1 19 5
"	ヒロハタケノ東	広バタケ			1 6 5	下			20	下畠	1 26 5
"	"	"			24 2	下					24 2
"	竹ノハナ	タケノハナ					1 11	下			1 11
"	名本ヤシキ	名木ヤシキ?					1 25 3	下			1 25 3
"	"		1 22 3	下							1 22 3
"	ツルイノスソ		1 38 1	中							1 38 1
"	ヤウソウシ	ヨウソウシ					16 3	下々			16 3
"	ナカレタ		1 9 2	中					46 3 1/2		2 5 5 1/2
"	丁ダ	上丁田	15 4	下					25		40 4
"	"	"	1 45 1	中					19 1		2 14 2
"	丁ダノ東	"	2 38 1	中							2 38 1
"	ハスワミソ	ハスワ	1 31 1	下					5		1 36 1
"	養蔵寺ノ下	テラノハナ	1 17 3/4	中							1 17 3/4
"	ホシヤシキ	ホンヤシキ	1 10	中							2 20
"	ホシヤシキ	"	1 10	下							2 20
"	ヨコタ		35 3 1/2	下			2 4	下山畠			2 4
"	ヨコタノ東	下丁田	38 3	下							35 3 1/2
"	丁ダ	"	1 20 1 1/2	下							38 3
"	丁ダノ北	"	4 38 2	下							1 20 1 1/2
"	フカタ	"	2 35 3	下					35		4 38 2
"	ツヨウチ	ツヨウチ	45	下					40		3 20 3
"	ツヨウチノ東	"							2 49 1	下々久	1 35
"	"	"							2 49 1	下々久	2 49 1
"	池ノカシラ	丸池							12	下々久	12
"	"	"							1 20 3	下々久	1 20 3
"	馬ノサワ南ノヨリ	ムマノサワ							8	下々定沢	8
"	馬ノサワノ北								11	下々定沢	11
"	"								41 10	下々定沢	41 10
"	"								9	下々定沢	9
29	永	ナガイチ							33 4	下々	33 4
"	永ノ北								1 38	下々	1 38
"	" 西山ノ子		1 30 2	下々					12 2	下々	13 30 4
"	コウノス	コウノス							1		1
"	コウノスノ西		10	下々					7 30		7 40
"	コウノス								45	下々久	45
"	コウノスノ東								2	久荒	2
"	コウノスノ北								4 30	下々久	4 30
"	エヒサキ	エヒサキ							17 5 2	下々久	17 5 2
"	"	"							6 15	下々久	6 15

Tab.6 長宗我部地検帳ホノギ一覧表2

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計	
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級
8	ヘイクシ具重				3 1	下々山					3 1	
"	大サカイ											
"	サコノ谷							2 5 3 1/2	中			2 5 3 1/2
"	サコノ谷ノ南西				2 33 4 1/2	中						2 33 4 1/2
"	サコノ谷かけて				10	下々山						10
"	サコノ谷ノ南谷								10	下々山畠久		10
"	ノ南両谷		1 18 3	下々					1 5	下々		2 23 3
"	ノ北	北サコノ谷			1 12	下々山						1 12
"	"	"			3	下々山			25 2	下々山畠		28 2
"	サコノ谷		1 30 1/2	下々					20	下々		2 1/2
"	山ソヘサコノ谷		1 22 5	下								1 22 5
"	ノ西		36 4	下								36 4
"	ノ北		1 46 3	中								1 46 3
"	ノ南		2 16	下								2 16
"	ソコエ		43 5 1/2	下								43 5 1/2
"	山ソヘ	下サコ谷	1 31 1 1/2	中								1 31 1 1/2
"	シャウリアン	下サコ谷			20	下々山						20
"	ノ南				1 27 3	下々山						1 27 3
"	"				44	下々山			36	砂入荒		1 30
"	ノ北山ノ子				8	下々山						8
"	ノ村				10	下々山			45	下々山畠		1 5
"	サコノ谷川フチ				7 5	下々山						7 5
"	若宮廿代地ノ内ヤシキ				35	中						35
"	"							18 2	下々			18 2
"	船トヤシキ	東アソノ			48 2	中						48 2
"	ノにし				1 2 5	中						1 2 5
"	"				33 3	中						33 3
"	"							25 4	中			25 4
"	"							1 13	中			1 13
"	西ノクホ川フチ	西アソノ			1 12 2	下						1 12 2
"	ノ南				40	下						40
"	"				26 5	下						26 5
"	"				34 1 1/4	下						34 1 1/4
"	"				20 5	下						20 5
"	中畠				1 6 4 1/2	下						1 6 4 1/2
"	ノ南				33 2	下						33 2
"	ウツシリ				40 2	下						40 2
"	クリノ下	中アソ	3 8 2	上								3 8 2
"	ノ北				40 1 1/2	下						40 1 1/2
"	ノ東				42 2	下						42 2
"	ノ東道ソヘ				23 5 1/2	下						23 5 1/2
"	正田寺北							10	堂床			
"	"							15	寺中			
"	玉泉谷中ノクロ							1 1	下々			1 1
"	イノマチ谷	南アソノ			23 2	中						23 2
"	イノマチヤシキ							1 16 2 1/2	下			1 16 2 1/2
"	ノ北川フチ				36 5	中						36 5
"	ウハカ谷道	バン谷			35 5	下々山						35 5
9	江ノクチ	江ノ口	1 10 2	下								1 10 2
"	コカサシミソかけて		39	下					4 5	砂入荒		43 5
"	"	カサシ	2 48 2	中								2 48 2
"	コカサシヤシキ西東							1 6 5	下々山			1 6 5
"	ノ下		1 25	中								1 25
"	ノ南セイモト	カザシ	2 37 1	中								2 37 1
"	谷川ノ西山ソヘ		1	下々	1 5	下々						2 5
"	コカサシ中		1 30	下								1 30
"	ノ南西		8	下々					1 2 2	下々		1 10 2
"	ノ西道ノ西本		4 24 3	中								4 24 3
"	江ノクチ道ノフチ		1 35 5	中								1 35 5
"	カメノカウ	亀ノ甲						1 11	中			1 11
"	カメノカウ	"			1 45	下々						1 45
"	ノ南田フチ	"			1 3 2	下						1 3 2
"	石ハシ	石橋	34 5	下	13 2	下						1 11 1
"	"				13	芝						1 11 1
"	ハウノ北ヤシキ		21 2	下								21 2
"	坪ヤシキ中							31 2	下々			31 2
"	宮ノ谷	ミヤノ谷			35	下々山			25	下々		1 10
"	ノ下ヤシキ	"	31 5	下								31 5
"	石ハシノモト	石橋	26 1 1/2	下	12	芝						38 1 1/2
"	ノ南		1 19 3	下								1 19 3
"	ノ南		1 8 1	下								1 8 1
"	宮ノ谷ミソノ西		49 2 1/2	下								49 2 1/2
"	ノ南ミソコシ		2 5	下								2 5

Tab.7 長宗我部地検帳ホノギ一覧表3

日	地検帳水ノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計
			反代分	材級	反代分	材級	反代分	材級	反代分	材級	
9	徳定寺ノ前	徳定寺	42	下							42
"	"ノにし	"	1 23 3	下							1 23 3
"	"ノ西中	"	4 21 3	中							4 21 3
"	徳定寺ノ前中	"	25 5	下							25 5
"	"ノ西	"	2 27 1	下							2 27 1
"	"ノ南道	"	1 16 5	下							1 16 5
"	徳定寺寺中	"					1	堂			1
"	南ヤシキ	南徳定寺			20 1	下々山					20 1
"	南ヤシキノ北		46 2	下々							46 2
"	"ノ南				1 10 5	下					1 10 5
"	"ノ東山ソへ								33 2	下々山畠	33 2
"	ヲカサキヤシキ谷川				40	下々山					40
"	ヒロハタケ				1 15	下々					1 15
"	クシロ				10	下々					10
"	"ノ南谷川かけて								31 5	下々山畠	31 5
"	トウチ	トヲチ			31	下々山					31
"	"上谷				16	下々山					16
"	大カサシ						1 42 3	下々			1 42 3
"	ヲクノヤカタ		46 4	下							46 4
"	ヲクタ		1 10 4	下							1 10 4
"	トウ谷口		47 2	下							47 2
"	山クチセイモト		49 3	下							49 3
10	タカハタ	高畑			1 4 4	下			2 33	下畠	3 37 4
"	タナカ				30 3	下々山					30 3
"	田中ヤシキ上ノタン						2 3 3	下々山			2 3 3
"	イナハヤシキ				3 3 3	下々山					3 3 3
"	スハヤシキ				2	下					2
"	"ノ西				1 15	下					1 15
"	イ ヤシキ						1 15	下			1 15
"	弓場ヲヲシ新開				1 11 5	下					1 11 5
"	"ノ東				8	下					8
"	"ノ北		25	下	1 8	下			5		1 38
"	風呂ノ前	フロカ谷	1 20 2 ½	下							1 20 2 ½
"	フロノ前	"	45	下					10		1 5
"	"ノ東	"	1 10 2	下							1 10 2
"	"	"			18	下々					18
"	"ノ西	"	1 10 3	下							1 10 3
"	"ノ北	"	46	下							46
"	風呂ノ前	"	1 7	下							1 7
"	ヒロヲカタ		1 18 2	下							1 18 2
"	ヲカワキノ前ミソコシ		1 15	中							1 15
"	東ヤシキ両谷かけて	橋ヤシキ					35 1	下			35 1
"	ヲカワキ						1 26 2	中村衆 下屋敷			1 26 2
"	ヌノタ川かけて	ヌノタ	3 48 5	中							3 48 5
"	タン四タンかけて						26 3	下々山			26 3
"	ヤマトノ下	宗ノ下?	1 5	下							1 5
"	"川ノ東		1 10 5	下							1 10 5
"	宗ノ下	ム子ノ下	1	下							1
"	"	"	2 20	下							2 20
"	"ノ東		1 45	下							1 45
"	"		48 3	下							48 3
"	"		1 3	下							1 3
"	宮ノ谷		21	下							21
"	池ノクチ		1 1	下							1 1
"	宗ノ下川コシ小畠		29	下々 天神							29
"	"ノ西						12 2	下々			12 2
"	ヲカタニタンかけて						10	下々			10
"	"ノ下ニタンかけて						8 4	下々			8 4
"	タカキ	高木			2 40	下					2 40
"	"ノ東	"			37	中					37
"	"ノ北						30	下			30
"	"ノ東				41 2 ½	下					41 2 ½
"	"ノ西川ノフチ		1 20 2	下							1 20 2
"	マツモトヤシキ	松本ヤシキ					3 28 5	中			3 28 5
"	"ノ北ウラ						10	下			10
"	後高木	シモウシロタカキ			3 7 2	中			20		3 27 2
"	"ノ西	上ウシロタカキ			10 1	下					10 1
"	天王ノ前道ノ上下				40	下			10		1
"	太カサシカミタ	南カミダ					2 26	下々			2 26
"	"ノ南	南カミダ							1 23	下々畠	1 23
"	山神ノ前	山ノ神	1 28 5	下							1 28 5

Tab.8 長宗我部地検帳水ノギ一覧表4

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	
10	ケサヲウ谷		2 5	下々							2 5
"	ヒキチ谷	ヒチギ谷	16 3 1/2								16 3 1/2
"	ヲウキ	大切レ	2 40 3	下					6		2 46 3
"	"ノカミ	山ノ神	3 8	下							3 8
"	ヲカサキタ		38 1	下							38 1
"	ナカタハ	中ダバ	33	下							33
"	"ノ南		43 2	下							43 2
"	天王ノ前	ゴ仙ノ下			1 17 2	中					1 17 2
"	船戸ヤシキ	八坂前?			1 20 4 1/2	中					1 20 4 1/2
"	"ノ北	"					2 36 1	中			2 36 1
"	トウノ谷	トラケ谷	1 5	下							1 5
"	"ノ南	"	1 15	中							1 15
"	トウノ谷	"	1 25 2	中							1 25 2
"	"ノ南道	"	1 3 2	中							1 3 2
"	ウラタヤシキ								3 3	下々山畠	3 3
"	"ノ下北南		47 3	中							47 3
"	トウノ谷		2 3 3	中							2 3 3
"	"	上トウケ谷	1 16 4	中							1 16 4
"	"ノ西	上トラケ	1 35 1	中							1 35 1
"	"	"	1 13 2	中							1 13 2
"	"	"	1 35 2	中							1 35 2
"	"	"	1 17 2	中							1 17 2
"	トウノ谷	トラケ谷	1 20	上							1 20
"	シチリウ								20	下山畠	20
"	"西道かけて		10	下							10
"	"西谷道かけて		20 1	下					5 2		25 3
"	和タヤシキ						15 2	下々			15 2
11	ミヤソエ				25 2	下々山					25 2
"	カウヤヤシキ						45 4	下々			45 4
"	中四旦かけて						18	下			18
"	イセキ土居	イセキ					1 10 3	下			1 10 3
"	カトタ道かけて	カトタ	1 1 2	下							1 1 2
"	カトタ本一反	"	47 1/2	下							47 1/2
"	"ノ東	"			25 1	下					25 1
"	マルタ	丸田	1 1 3	下畠							1 1 3
"	門ヤシキ舟戸	東マトバ					1 4 5	下			1 4 5
"	マト八	東マトバ			20 2	下々			37 1		1 7 3
"	"川フチ	"			35	下					35
"	"ノ西	"							1 1	下畠	1 1
"	"	西マトバ	1 10	下							1 10
"	"	"			40 1	下々			27	下々	1 17 1
"	"	"			16	下々			2 19	下々久	2 45
"	マト八同じ	"			32	下			1 3		1 35
"	西ノサワ	西ノ沢	2 10 5	上							2 10 5
"	"ノニシ	"	3 15	上							3 15
"	"ノ北上	"			39	下			15		1 4
"	ウチヒラチ	内平地			1 8 2	下々					1 8 2
"	"	"			49 1	下々					49 1
"	"	"			35	下々			1 21 4		2 6 4
"	"ノ西	"							2 3 2	下々畠	2 3 2
"	"	"							1 4	下々畠	1 4
"	"ノ西本	"							40	下々畠	40
"	ウチヒラ池"	"							34 4	下々畠	34 4
"	"ノ西	"			20 2	下々			18	下々畠	38 2
"	ヲロノモト		45 5	下							45 5
"	杉ノ尾	板ノ尾					20 2	下			20 2
"	杉ノ下江	板ノ下	1 22 2	下							1 22 2
"	"	"	1 6 5	下							1 6 5
"	"	"	32	下							32
"	"	"	1 29	下							1 29
"	"	"	1 6 3	下							1 6 3
"	ツルイノ下	南坂ノ下	1 19 4	中							1 19 4
"	カノマル	"	42	中							42
"	カノマルノ南	"	1 5	中							1 5
"	カノマル東ノ上山	"							6	下々山畠	6
"	カノマル西ノ下	"	46 4	中							46 4
"	カノマルノ西	西板ノ下?	47 5	中							47 5
"	カナマル	"	1 3 4	中							1 3 4
"	カナマルノ西	"	1 14	中							1 14
"	五反夕	五反夕	2 25 3	中							2 25 3
"	五反夕ノニシ	"	1 2 4	中							1 2 4
"	五反夕ノ西江	五反夕	1 40 3	中							1 40 3

Tab.9 長宗我部地検帳ホノギ一覧表5

日	地検帳水ノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	
11	ナカレタ	ナカレタ	1	川成							1
"	ナカレタノ東		8	下々					42	川成	1
"	"		1	下							1
"	"		1 20 3	下							1 20 3
"	ツルイノスソ		1 18 4 1/2	下							1 18 4 1/2
"	"		1 13 4 1/2	中							1 13 4 1/2
"	ツルイノ東		48	中							48
"	"		40	中							40
"	ナカギレ		44	中							44
"	ノヨリ	ノヨリ	1 20 5	下							1 20 5
14	前住寺寺中	前住寺					46	下			46
"	ヨコテ川コシ		46 3 1/2	下							46 3 1/2
"	ヨコテ川南川コシ		1 43 1	中							1 43 1
"	"		1 38	中					12		2 1
"	大川ダ		24	下	4 2	下			43 5		1 22 1
"	大川タ		1 27 3 1/2	下					20		1 47 3 1/2
"	大川夕川ヨリ東		1 15 3	下							1 15 3
"	大川夕ノ北川		1 10 5	下							1 10 5
"	ブクテン	ブンデン	1 21 3 1/2	中							1 21 3
"	クルス		1	下							1
"	梅木ノダン		20				1		10		31
"	梅木ノダン下道ブチ						1 3	辻堂			1 3
"	竹ノハナ	竹ノハナ					1 25 5	中			1 25 5
"	竹ノハナノ南		30	下			15				45
"	竹ノハナノ西川		33	下々							33
"	サノクチ寅	サノクチ	1 11 2	下							1 11 2
"	サノクチ寅ノ南				16 2	下					16 2
"	紺屋バタケ	コンヤバタ			43 1	下					43 1
"	柿木畠	カキノキバタ			1 20 2	下					1 20 2
"	柿木畠ノ東川		1 6 4 1/2	下	6 4	下					1 13 2 1/2
"	"		48	下	7	下					1 5
"	宮前				1 15	下					1 15
"	養西寺ノ前				1 10 1	下					1 10 1
"	之畠				41 1	下					41 1
"	養西寺ノ前				43 2	下々					43 2
"	養西ノ前		27 2 1/2	下々							27 2 1/2
"	養西ノ前北ヤシキ寺						25 5	下			25 5
"	ヤツヲモテ	ヤツヲモテ					35	下々山畠			35
"	ヤツヲモテ中溝		2 22 3	中							2 22 3
"	クヤシキ										1 16 3
"	ヤツヲモテ	ヤツヲモテ	24 5	下々					36		1 10 5
"	ダイロク	ダイロク			19 2	下			33 2		1 2 2
"	ダイロクノ南	"			21 2	下					21 2
"	"ノ東		1 39	下々					10 5	砂入荒	1 49 5
"	シモウラ						14 2	下々			14 2
"	ミヤソエヤシキ堂ゴシ						1 16 1/2	下々			1 16 1/2
"	"西川詰テ				35 3	下					35 3
"	"ノ東		8 3 1/2	下							8 3 1/2
"	能仁寺	寺尾ヤシキ?	1 9	下畠			1 30 5	下			2 40 5
"	テラヲ	寺尾ヤシキ					1 10 3	下			1 10 3
"	寺尾中	"					2 38 2 1/2	下			2 38 2 1/2
"	ムクノ木ナロ				3 5 3	下々					3 5 3
"	ハイノナロ中	ハイノナロ					3 11 3	下々			3 11 3
"	カメノ谷々川コシ	亀ノ谷			7	下々山			2 43 5	下々山畠久	3 5
"	又タツボ	又タツボ	2 17 3 1/2	下							2 17 3 1/2
"	又タツホ	"	4 42 3	下							4 42 3
"	ジホクヤシキ						15 3	下々山畠			15 3
"	中ヤシキ						25	下々山畠			25
"	又タツホ西ノヨリ	南又タツボ?	3 38 1	下							3 38 1
"	"ノ西		2 16 2	下							2 16 2
"	又タツホカミノヨリ	上又タツボ	1 30 2	下							1 30 2
15	船ノ川	舟ノ川			1 3 1	下山					1 3 1
"	"ノラク	舟ノ川谷			15	下々山			9 3		24 3
"	子ヒキ	子ヒキ			4	下々山			1 3 2		1 7 2
"	"ノ北	"			1 25 2 1/2	下々山			25	下々山畠久荒	2 2 1/2
"	子ヒキノナロ中	"	6 7 3	下							6 7 3
"	コヲウノウナロ	コクトナロ	2 40 1/2	下々					24		3 14 1/2
"	"ノ南山ツハ谷川フチ	上コクトナロ			1 3	下々山					1 3
"	エケノナロ	イケツナロ	2 5	下							2 5
"	山ノ神ノ前	ミサイチ?			23 2	下々山					23 2
"	中ノ				19	下々			19	下々畠	38

Tab.10 長宗我部地検帳水ノギ一覽表6

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計						
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級					
15	山ノ神ノワキ		25	5	下々				25			1	5				
"	エケノナロノ西地								30		下々山畠久		30				
"	ヲリツキノナロ	ヲリツキ	5	46	2	下			1	37		7	33	2			
"	"西ノ南谷					6	3	下々山					6	3			
"	ヲリツキノナロ			29	下				11	5 1/2	下畠荒		40	5 1/2			
"	タチハナ谷		1	16	下								1	16			
"	シャウチカ谷	城重	2	21	5 1/2	下々			1	33	2	下々畠荒	4	5	1 1/2		
"	ヒキミ子東ノヒラ					17	3	切畑					17	3			
"	"ノウエ					33	2	切畑					33	2			
"	"ノ上両ヒラ					36		切畑					36				
"	"ノ北ノヒラ					26	4	切畑					26	4			
"	"ノシタ					4	2	切畑					4	2			
"	"ノ北ノヒラ					13	2	切畑					13	2			
"	"ノ北ノウ子					10	1	切畑					10	1			
"	シャウチウカラ東	城重				27	2	切畑					27	2			
"	"ノウエ					5		切畑					5				
"	"ノ北ノ谷					5		切畑					5				
"	"下谷川フチ					7		切畑					7				
"	"シモ川フチ					3	2	切畑					3	2			
"	シャウチウカ谷	城重	1	2	下々								1	2			
"	"ノ南ノウエ								13		下々山畠		13				
"	チシヤノ木ノナロ	チンヤノ木	1	9	2	下々							1	9	2		
"	ソタイテノシタ			13	下	5		下						18			
"	ヤケソ川セイモト	ヤケソ川							4		下々山畠		4				
"	ヤケソ川谷川	"		23	2	下々								23	2		
"	"	"		37	3 1/2	下々	34	2	下			27	2	下々畠	1	49	1 1/2
"	ミコノモリ							21	下々山畠					21			
"	ヤノナロ			39	5 1/2	下			1	23	下		17	畠荒	2	29	5 1/2
"	タチハナ谷			25	2 1/2	下				31	1/2			1	6	2	
"	"ノシモ北南地					1	3	下々						1	3		
"	ムクノ木ナロノ南川	ムクノ木ナロ	1		下			1	19	1 1/2	下	20	4	下畠荒	2	39	5 1/2
"	ステヒラ					1	10	4	下々山					1	10	4	
"	サルカツラ	サルノツラ	46	4	下	24	2	下		1	15	2	下荒	2	36	2	
"	フロノ谷谷川	狼谷				12		下々山		1	8	下々山畠		1	20		
"	山ノシタ					35	3	下々			25	下々畠		1	10	3	
"	フキノホノナロ							1	36	2	下々	2	22	下々久	4	8	2
"	"ノ北川イエ					7	1	下々						7	1		
"	ククミカイチ	宅三ヶ市						49	2	下々	17	下々		1	16	2	
"	"ノ北	ヲゲヤシキ						2	3	下々	30	下々		2	30	3	
"	ククミカイチ川フチ	"				21		下						21			
16	ギデン	ギデン				8	1	下々山						8	1		
"	"ノ下ヤカシロ	"						1	2	2	下			1	2	2	
"	"ノ西	"	35		下			20	2	下				1	5	2	
"	クマカ谷	クマガ谷						1	7	3	下			1	7	3	
"	岡ヤシキ							44	2	下				44	2		
"	ウラダヤシキ							10	3	1/2	下			10	3	1/2	
"	"ノ下二旦							18	3	下				18	3		
"	"ノ上					20		下々山						20			
"	池ダ	イケダ	2		上												
"	キテンノ前	ギデン	2	8	2	中	21	1 1/2	中					4	29	3 1/2	
"	中ニシ		1	6	中			45	2	中				45	2		
"	トリイ畠	鳥畑	28		下	1	13	下						1	41		
"	"ノ北	"				1	10	下々						1	10		
"	仁井田大明神																
"	ミヤノワキ					1	9	下々		8	2			1	17	2	
"	"ノニシ			23	下									23			
"	メイダ	メイダ	1	3	3	下々	1	下々						2	3	3	
"	"ノ北			1	29	2	下							1	29	2	
"	カイソウノマエ			2	37	2	下							2	37	2	
"	後ダ			1	23	1 1/2	下							1	23	1 1/2	
"	井ノクチ			1	46	3	下							1	46	3	
"	ニタンギレ	二反切レ	3		中												
"	カイソウニ谷			4	27	下				18	下荒			7	45		
"	谷屋シキ	谷ヤシキ		11	下			35	3	下	6			1	2	3	
"	谷ヤシキノ内							1	18	下				1	18		
"	谷ヤシキノ内			2	38	2	下							2	38	2	
"	エビスデン			4	25	2	下							4	25	2	
"	"			40	3	下								40	3		
"	大トシデン	大戸新田		1	45	下々								1	45		
"	三段ダ	三反夕		3	10	3	下							3	10	3	
"	マルタ川フチ			1	14	2	下							1	14	2	

Tab.11 長宗我部地検帳ホノギ一覽表7

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水 田		畠		屋 敷		荒 地 (沢)		計
			反 代 分 材	級	反 代 分 材	級	反 代 分 材	級	反 代 分 材	級	反 代 分 材
16	マルタ川フチノ北マルタ		1 4	中							1 4
"	ナカレタ		43 3	下							43 3
"	東シンテン	東新田	2 20	下							2 20
"	"ノ西	"	43 3	下							43 3
"	"	"	45 1	下							45 1
"	"	"	1 1 5	下							1 1 5
"	"	"	1 8 3	下							1 8 3
"	"	"	1 14 5	下							1 14 5
"	"	"	2 15 1 1/2	下							2 15 1 1/2
"	東シンテン同し	"	1 13 3/4	下							1 13 3/4
"	"ノ西		40 1	下							40 1
"	"ノ西		1 2 3	下							1 2 3
"	西シンテン	西新田	2 2 1/2	下							2 2 1/2
"	"ノニシ	"	3 13	下							3 13
"	西シンテン	"	38	下							38
"	"ノニシ	"	1 8	下							1 8
"	"ノニシ	"	41 2	下							41 2
"	"ノ西	"	45 1	下							45 1
"	"ノ西	"	44 1	下							44 1
"	大タ	大田	3 28	下							3 28
"	"ノ南	"	48 2	下							48 2
"	"ノ南	"	1 17 1 1/2	下							1 17 1 1/2
"	"ノ南	"	1 32	中							1 32
"	谷ノ前	谷ノ前	1	下							1
"	谷ノ前	"	34	下				8			42
"	"ノ西道ゴシ	"	1 11 2 1/2	中				4			1 15 2 1/2
"	"	"	1 4	中							1 4
"	一ツ坑ミソゴシ		1 6 5	下							1 6 5
17	西丸ダ	フルタ	1 21 4 1/2	中							1 21 4 1/2
"	アナタ	"	1 6 1	中							1 6 1
"	西クロゾヘ		2 46 2	下							2 46 2
"	ヨコタ	下横田	48	下							48
"	"西	"	41 1 1/2	下							41 1 1/2
"	"	"	41 2	下							41 2
"	ヨコタ	"	38	下							38
"	"ノ西		1 8 3	下							1 8 3
"	"ノ西道ゴシ		34 3	下							34 3
"	"		1 3 4	下							1 3 4
"	"		43 1 1/4	下							43 1 1/4
"	ヒシヤミヲ江ヨリ		23 5 1/2	下々				13	下々荒		48 5 1/2
"	"ノ北江ヨリ西	ヒキノセ	1 19 5 1/2	下々				35 2	下々久		2 5 1 1/2
"	"	"	30 3	下々				10	下々久		40 3
"	"ノ北江	"	44 1/2	下々				15	下々		1 9 1/2
"	ヒキノセ	"	30	下々				6 2	下々畠久		36 2
"	"	"	31	下々							31
"	"ノ北	"	1 3 1	下々							1 3 1
"	"	"	1 40	下							1 40
"	"	"	2 6 1 3/4	下							2 6 1 3/4
"	"	"	1 4 1/2	下							1 4 1/2
"	ヒキノセ	"	48 1	下							48 1
"	"ノ北	"	1 23 3	下							1 23 3
"	"ノ北	"	1 35 1/2	下							1 35 1/2
"	"ノ北	"	46 3	下							46 3
"	"ノ東	"	31 5	下							31 5
"	ウチエラ	エラ	1 11 3	下				20	下々畠久		1 31 3
"	ヒキノセ		45 1/2	下							45 1/2
"	カミ中ザワ	中沢	1 13 2	下							1 13 2
"	"ノ南	"	1 41 3	下							1 41 3
"	"	"	1 6 1/2	下							1 6 1/2
"	カミ中ザワ	"	40 3 1/2	下							40 3 1/2
"	"ノ南	"	1 15 5	下							1 15 5
"	"	"	1 2 1 1/2	下							1 2 1 1/2
"	"南ミソ		45 5 1/4	下							45 5 1/4
"	西ハリ木	ハリギ	2 4 1	下							2 4 1
"	ハリ木	"	47 1/2	下							47 1/2
"	"ノ北	"	1 5 2 1/2	下							1 5 2 1/2
"	"	"	1 2 2 1/4	下							1 2 2 1/4
"	"	"	37 3 1/4	下							37 3 1/4
"	"	"	1 8 2	下							1 8 2
"	スミタ	スミダ	3 31 4	下							3 31 4
"	中ザワ	中沢	1 12 5 1/4	下							1 12 5 1/4
"	"ノ東	"	1	下							1
"	"	"	49 2 1/2	下							49 2 1/2

Tab.12 長宗我部地検帳ホノギ一覧表8

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計	
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級
17	中ザクノ東	中沢	36	下								36
"	中ザク	"	47 3	下								47 3
"	"ノ東	"	1 1 2	下								1 1 2
"	"	"	2 22	下								2 22
"	"	"	1 1 3 1/2	下								1 1 3 1/2
"	"	"	40 1	下								40 1
"	中ザク	"	45	下								45
"	"ノ東	"	44 2 1/2	下								44 2 1/2
"	"	"	46 1/2	下								46 1/2
"	"	"	43 2 1/2	下								43 2 1/2
"	"	"	35	下								35
"	中ザク	"	45 3 3/4	下								45 3 3/4
"	"ノ東	"	1 3 5	下								1 3 5
"	"	"	1	下								1
"	ゼンミツ西ノハシ	善光	1 28	中								1 28
"	"ノ東	"	3 40 2 1/2	中								3 40 2 1/2
"	ゼンミツ	"	2 12 2	中								2 12 2
"	"ノ東	"	1 5 3 1/2	中								1 5 3 1/2
"	"	"	1 6 2 1/2	中								1 6 2 1/2
"	"	"	2 12 3	中								2 12 3
"	"	"	1 22	下								1 22
"	ゼンミツ	"	1 3	下								1 3
"	"ノ東ハシ	"	40	下								40
18	キリイシ	中切レ・北中切レ	1 44 2 1/2	下								1 44 2 1/2
"	"ノ東	"	1 18 1	下								1 18 1
"	"ノ東	"	2 27 1 1/2	下								2 27 1 1/2
"	キリイシ	"	1 43 2 1/2	下								1 43 2 1/2
"	"ノ東	"	2 20 1	下								2 20 1
"	"ノ東	"	1 9 3	下								1 9 3
"	"ノ東	"	40 4 1/2	中								40 4 1/2
"	"ノ東	"	1 17 4 1/2	中								1 17 4 1/2
"	キリイシ	"	1 27 1	中								1 27 1
"	"ノ東	"	46 3 1/2	下								46 3 1/2
"	"ノ東	"	49	下								49
"	"ノ東	"	2 21 2	下								2 21 2
"	ゼンミツタ	善光	46	中								46
"	ソトノタ	"	45 3	下								45 3
"	"ノ東	"	1 27	下								1 27
"	"	"	1 3 1	下								1 3 1
"	"	"	1 43 2	下								1 43 2
"	ヨコタ	"	43	下								43
"	ゼンミツタ	"	45 1/2	下								45 1/2
"	"ノ南	"	1 12 5 1/2	下								1 12 5 1/2
"	ミソタ	ミソダ	17 4	下								17 4
"	"ノ東	"	41 1	下								41 1
"	"ノ東	"	1 2 1	下								1 2 1
"	ミソタ	"	43 1	下々								43 1
"	マワリ畠	"			10 3	下						10 3
"	"ノ北	"			24 1	下						24 1
"	"	"			44	下						44
"	"ノ東スミ畠	"			38 5	下						38 5
"	ウチノタ	ウチノダ	1 33 1 1/2	下								1 33 1 1/2
"	"ノ北東	"	3 15 4 1/4	下								3 15 4 1/4
"	"ノ北	"	1 9 2 1/4	下々								1 9 2 1/4
"	"ノ東	"	1 27	下								1 27
"	"ノ西	"	1 13 2 3/4	下								1 13 2 3/4
"	ウチノタ	ウチノダ	2 2 4 1/2	下								2 2 4 1/2
"	ソトヒラチ	"			40 5 1/4	下						40 5 1/4
"	"ノ東道ゴシ	"			1	下						1
"	"	"			37 1/2	下			17 1 1/2			1 4 2
"	"ノ東ヤ子フチ	"			26 2 1/2	下						26 2 1/2
"	ハシツメ	"			32 2 1/2	下						32 2 1/2
"	"ノ西	"			32 3	下						32 3
"	"ノ北	"							39 3 1/2	下畠荒		39 3 1/2
"	大竹ノ後	大竹			23 1	下			1 18 1	下畠荒		1 41 2
"	"ノ北道ゴシ	東大竹?			41 1/2	下						41 1/2
"	大竹ノ後	"			45 3 1/2	下々						45 3 1/2
"	"ノ北道ゴシ	"			48	下			13 2	下畠荒		1 11 2
"	船戸	船戸ヤシキ			2 11 2	下々						2 11 2
"	"ノ西	"			29 2	下々						29 2
"	"ノ南	"							34 5 1/4	下々畠荒		34 5 1/4
"	アソウノ畠	下アソウノバタ							1 12 2	下々畠		1 12 2

Tab.13 長宗我部地検帳ホノギ一覧表9

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	
18	ノ西	下アゾウノバタ			9	下々			46	下々畠荒	1 5
"	"	"			1 7 1	下					1 7 1
"	"	"			1 20 4 1/2	下					1 20 4 1/2
"	"	"			1 4 1	下					1 4 1
"	アソウノ畠	"			1 20	下					1 20
"	ノ西	"			1 27 3	下					1 27 3
"	ヨコバタケ	"			46 1 1/2	中					46 1 1/2
"	アソウノ畠	中アゾウノバタ?			35 5 1/4	下		18		下畠荒	1 3 5 1/4
"	ノ西	"			1 28 3	下					1 28 3
"	アソウノ畠	"			36 2	下					36 2
"	ノ西ヨコハタケ	"			28 5 1/2	中					28 5 1/2
"	ノ南	"			1 9 1	下		11 2		下畠荒	1 20 3
"	ノ西	"			39	下					39
"	ノ南西東	"			15 4	下		39		下畠荒	1 4 4
"	アソウノ畠	"			1 2 3	下					1 2 3
"	ウチノタ西ノスミ	ウチノダ	18 4	下							18 4
"	コマシリ	上アゾウノバタ?			4 9 3	下					4 9 3
"	ノ西	"			39	下					39
"	ノ西	"			41 3 1/2	下					41 3 1/2
"	コマシリ	"						1 2 3		下々畠荒	1 2 3
"	ノ西	"			2 9 3	下々					2 9 3
"	タカザキ	高崎			39	下		17		下畠荒	1 6
"	ノ東	"			42 5	下		3		下畠荒	45 5
"	ノ西	"			38	下		12		下畠荒	1
"	高ザキ	"			1 1	下々		11		下々畠荒	1 11 1
"	ノ西	"			1 13 3	下		35		下畠荒	1 48 3
"	"	"			24 2	下々		20		下々畠荒	44 2
"	"	"			1 3 1	下					1 3 1
"	"	"						46 4 1/2		下畠荒	46 4 1/2
"	高ザキ	"			28	下		35 4 1/2		下畠荒	1 13 4 1/2
"	ノ西	"			42 3	下々					42 3
"	"	"			1 2 1 1/2	下					1 2 1 1/2
"	"	"			46 1 1/2	下					46 1 1/2
"	"	"			1	下					1
"	高ザキ	高崎			1 3 1	下					1 3 1
"	ノ西道ゴシ	"			1 24 1 3/4	下		27 5 1/2		下畠荒	2 2 1 1/2
"	ノ西	"			1 1 3	下					1 1 3
"	ヒキノ瀬道ゴシ	"						35		下畠荒	35
"	ノ西	"			13 5	下		41 1		下畠荒	1 5
"	ヒキノ瀬	ヒキノセ			35 2 3/4	下					35 2 3/4
"	ノ南	中ヒキノセ			1 2	下					1 2
"	"	"			1 3	下					1 3
"	"	"			32 5	下		4		下畠荒	36 5
"	"	"			35	下		32		下畠荒	1 17
"	ヒキノ瀬	上ヒキノセ			1 17 4	下					1 17 4
"	ノ南	"			42	下		13		下畠荒	1 5
"	"	"			45 1	下					45 1
"	"	"			1 6 1 1/2	下々					1 6 1 1/2
"	"	"			37	下		5		下畠荒	42
"	ヒキノ瀬小畠	"			47 2	下					47 2
"	フタマタ瀬川ブチ	"						3 3		下畠久荒	3 3
"	ヒキノ瀬	"						42		下々畠久荒	42
"	"	"			31 4	下		5		下畠荒	36 4
"	ノ南	"			8	下々		40		ヤブ	48
"	馬ノクソ	浅ヶ谷口?	21 3/4	下							21 3/4
"	ノ南	"	19 4	下							19 4
"	"	"	3 20 3	下							3 20 3
"	ノ北江ブチ	"	3 5	下							3 5
"	川クチ	川ブチ	3 8	下							3 8
"	ヒトツグロ	ヒトツグロ	35	下							35
"	ノ東	"	1	下							1
"	ノ南	"	1 5 1/2	下							1 5 1/2
"	ノ西	"	1 9 3 1/2	下							1 9 3 1/2
"	谷ノワキ	谷ノワキ	1 4 1/2	下							1 4 1/2
"	"	"	33	下々				10 5 1/2		下々荒	43 5 1/2
"	ノ西	"	1 36 1	下				6 2		下荒	1 42 3
"	馬ノクソ	馬ノクソ	2 44 1	下々				3 5		下々荒	2 48
"	ノ西	"	3 10 3	下				10		荒ミノ	3 20 3
21	アサノ谷	浅ヶ谷	23 2	下							23 2
"	馬ノクソ	馬ノクソ	1 10 3 3/4	下							1 10 3 3/4
"	ノ東	"	9 1	下							9 1
"	ノ西	"	2 1 1 1/2	下							2 1 1 1/2

Tab.14 長宗我部地検帳ホノギ一覧表10

日	地検帳ホノギ	明治年間地籍名	水田		畠		屋敷		荒地(沢)		計	
			反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級	反代分	級
21	馬ノクソノ北		1 45 1 $\frac{3}{4}$	下								1 45 1 $\frac{3}{4}$
"	"ノ北江ソヘ		1 7 5	下								1 7 5
"	馬ノクソ南ノ下	浅ヶ谷口?			32 5 $\frac{3}{4}$	下						32 5 $\frac{3}{4}$
"	"ノ南		1 45 5	下								1 45 5
"	"		38 1	下					10	下荒		48 1
"	カミナルセ南山		16	下					48 1	下畠荒		
"	"								6 4	下田荒		1 20 5
"	松ノハナ	松ノハナ	30	下	37 2	下						1 17 2
"	"ノ木ノ本		20	下々								20
"	堂ノハナ		1 21	下								1 21
"	"ノ東		1 24	下								1 24
"	"ノ東山添		1 2	下								1 2
"	地藏本道ゴシ		11 3	下								11 3
"	ヒロバタ	ヒロ畑		下			1 25 1	下々	13			1 38 1
"	"ノ前	"	1 34 2 $\frac{1}{4}$	下								1 34 2 $\frac{1}{4}$
"	"ノ西	"	49 2 $\frac{3}{4}$	下								49 2 $\frac{3}{4}$
"	"	"	37 3	下								37 3
"	マエザウ	前沢	1 4 1 $\frac{1}{2}$	下								1 4 1 $\frac{1}{2}$
"	"	"	45 3	下					12	下久荒		1 7 3
"	ウナギダ	ウナギ田	3	下々					38 2	川成		39 2
"	アサムラグチ		1 12 2	下	24 5	下			22 2 $\frac{1}{2}$	芝荒		2 9 3 $\frac{1}{2}$
"	トノヤシキ						1 41 5 $\frac{1}{2}$	下山畠				1 41 5 $\frac{1}{2}$
"	ヒガン谷	東谷					1 10	下山畠	1 11 3			2 21 3
"	ラゲヤシキ						37 5 $\frac{1}{2}$	下々				37 5 $\frac{1}{2}$
"	"一反		1 15 2	中								1 15 2
"	水クミダニ	水クミ谷	1 40 4	中								1 40 4
"	"ノラク谷						46 1 $\frac{1}{2}$	下々				46 1 $\frac{1}{2}$
"	ハタヤシキ	ハタヤシキ					1 38	下				1 38
"	コヤシキ				27	下々						27
"	"ノ西々地ノ通り				10	下々						10
"	ハナセ	ハナセ					6 4	下々山畠				6 4
"	"ノ西						33 1	下々山畠				33 1
"	"		1 37 5	下								1 37 5
"	ハナセノタ	ハナセ口	3 5	下々								3 5
"	"ノ西地						5	下々山畠	1 20 5	下々山畠		1 25 5
"	"ノ北						1 11 3	下々山畠	7	下々山畠		1 18 3
"	"ノ北中						42 2	下々山畠	24 4	下々山畠		1 17
"	神ノ谷	神ノ谷	1 24 2	下			24	下々				1 48 2
"	ミノ谷	"	33 4	下々	16 4	下々			5 4	下々畠		1 6
"	コヤシキ南地						14 $\frac{1}{2}$	下々				14 $\frac{1}{2}$
"	ゼンケンアン	ゼンケンアン					1 8 3	下				1 8 3
"	"ノ北				16 5	下						16 5
"	イケダヤシキ	池田屋式					3 9 4	下	5 2			3 15
"	マヘザウ	前沢	23	下々					22 1 $\frac{1}{2}$	川成荒		1 5 1 $\frac{1}{2}$
"	"ノ西		23 2	下					9 4 $\frac{1}{2}$	川成荒		43 $\frac{1}{2}$
"	チクノ木ノ本				15 1 $\frac{1}{2}$	下						15 1 $\frac{1}{2}$
"	マヘザウ	前沢	2 23 3	下					35	川成荒		3 8 3
"	"ノ西	"	43 1	下								43 1
"	マヘザウ	前沢	1 21 5	下								1 21 5
"	"ノ西江ゴシ	"	2 46 2 $\frac{1}{2}$	下								2 46 2 $\frac{1}{2}$
"	タカウラダ溝ゴシ		1 5	下々					20 1	下々久荒		1 21
"	岡サキ	岡崎			6 3	下々山						6 3
"	"ノ北	"	1 31 $\frac{1}{2}$	下					1 3	下荒		1 32 3 $\frac{1}{2}$
"	岡サキダ	"	1 5	下								1 5
"	"ノニシ	"	1 8 2 $\frac{1}{2}$	下								1 8 2 $\frac{1}{2}$
"	"ノ西	"	1 20 2 $\frac{1}{2}$	下								1 20 2 $\frac{1}{2}$
"	タニダ	谷田	2 5 $\frac{3}{4}$	下								2 5 $\frac{3}{4}$
"	タニタ	西谷田	25 1	下								25 1
"	クタシハ		7	下々					23	下々久荒		30
"	堺ノ尾	堺ノ尾	1 18 2	下					7			1 25 2
"	"ノ西道ゴシ	"	1 5	下								1 5
"	"	"	1 26 3	下								1 26 3
"	"ノ西	"	1 19 3 $\frac{3}{4}$	下								1 19 3 $\frac{3}{4}$
"	札ノ尾江ノ大堺	札ノ尾							30	下々山畠久		30
"	詰ノタン								30	城山		30
"	南二ノヘイ								4	城山		4
"	ソイドノタタン								2 3	城山		2 3
"	カメイノダン								3	城山		3
"	カメイノダンノ下								8	城山		8
"	ウラダノチウ								13 2	城山		13 2
"	"ノ下ノダン								6 4	城山		6 4
"	大イノスケダン								3 3	城山		3 3
"	弾正ノダン								6 4	城山		6 4
"	"								8 3	城山		8 3

Tab.15 長宗我部地検帳ホノギ一覽表11

水 田	江ノ村 上田	反 代 分 勺才	33 6 4	久木ノ村 上田	反 代 分 勺才	7 24 3	牛ノ谷村 上田	反 代 分 勺才	16 28 4	ハサマノ村 中田	反 代 分 勺才	22 42 4
	中田		95 41 5	中田		24 48	中田		14 47 4	中田荒		1 35 4
	下田		136 22 2	下田		75 5	下田		19 8	下田		34 4
	下々田		110 4 2	下々田		40 45 5	下々田		1 23 3	下田荒		4 41
										下々田		27 47 3
										下々田荒		104 29 3
	合計		374 73 13 0			146 122 8 0			50 106 11 0			192 198 14 0
畠	下畠		4 8 2 0	下畠		8 3	下畠		1 10 1	下畠		1 31 1
	下々畠		49 10 4	下々畠		6 3	下々畠			下畠荒		30 3
	下々山畠		75 47	下々山畠		30 1	下々山畠		16 5	下山畠		1 19 5
	切畠		27 2							下々山畠		3 25 3
										下々山畠荒		19 2 3
	合計		128 92 6 0			44 4 0			1 26 6			1 107 15 0
屋 敷	中ヤシキ		9 26 2	中ヤシキ		4 27 5	下ヤシキ		3 1 1	下ヤシキ		5 6 2
	下ヤシキ		31 26 4	下ヤシキ		11 4	下々ヤシキ		1 0 1	下ヤシキ荒		7
	下々ヤシキ		9 37 4	下々ヤシキ		39 5				下々ヤシキ		1 23 4
	下々山畠ヤシキ		12 18 3	下々山畠ヤシキ		28 5				下山畠ヤシキ		1 19 5
										下々山畠ヤシキ		3 48 3
										下々山畠ヤシキ荒		2 35
	合計		61 107 13 0			4 105 19 0			4 1 2 0			12 138 14 0
荒	荒地		369 0 2	荒地		2 3 5	荒地		29 25 3	沢・荒地		71 6

Tab.16 江ノ村地目別合計表

写真図版



間城跡発掘前遠景（伐採前）



間城跡発掘前遠景（伐採後）



間城跡雑木伐採状況



間城跡伐採後状況



曲輪 1 からの前景



堀切掘削前と作業状況（西より）



曲輪1 東西ベルト南壁セクション（南より）



同上



曲輪 1 掘削状況



曲輪 1 北斜面セクション (段状遺構)



曲輪1 平坦部南壁セクション(南より)



曲輪1 西斜面南壁セクション(南より)



曲輪1 東斜面北壁セクション（北より）



同上



曲輪1 東斜面南壁セクション(南より)



曲輪1 北斜面と堀切



曲輪1 北西斜面部トレンチ・セクション



同上



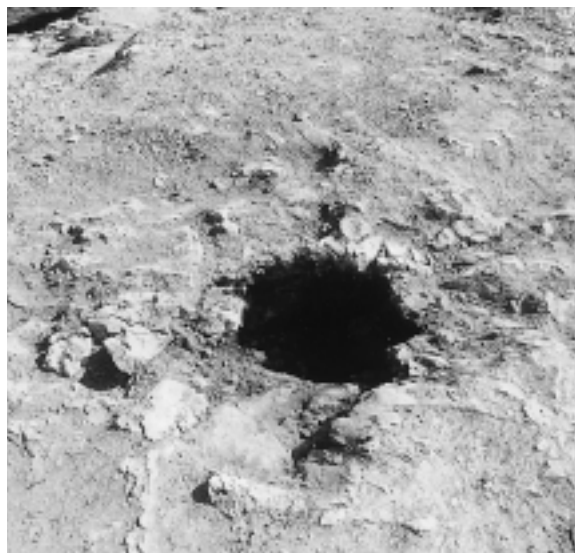
曲輪1 堀切セクション



堀切掘削前景と作業風景



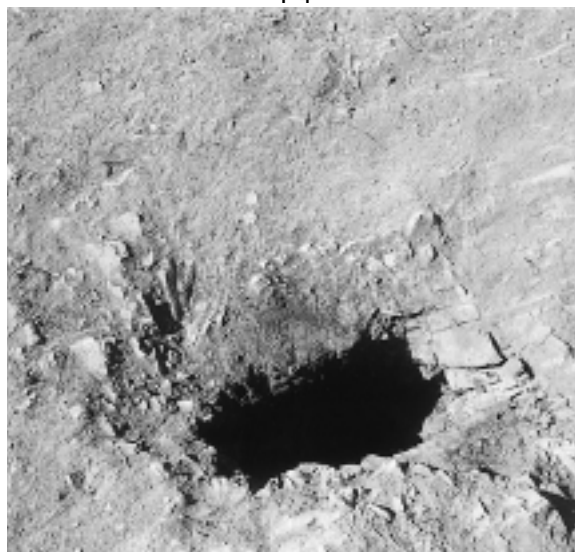
P 1 半截



P 4



P 5 半截



P 5



P 3

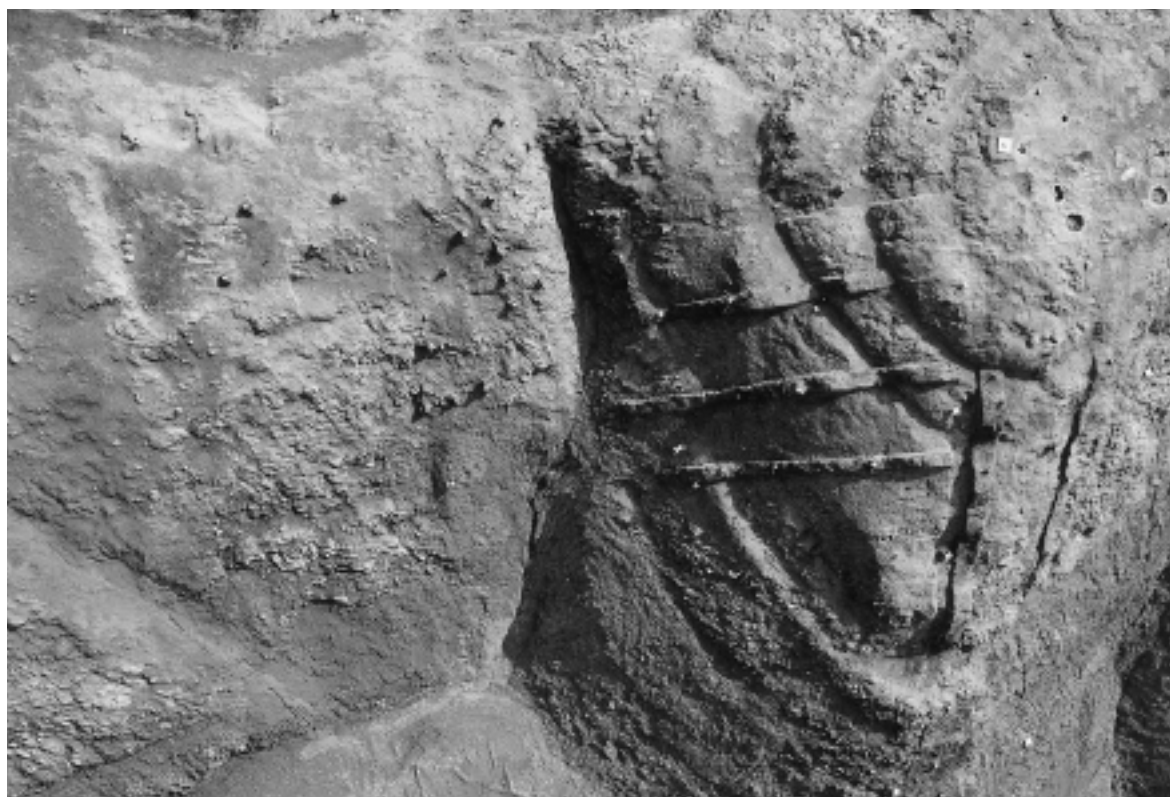


P 6 (左)

曲輪 1 柱穴半截・完掘状況



曲輪 1 完掘状況（上空北より）



堀切完掘状況（上空より）



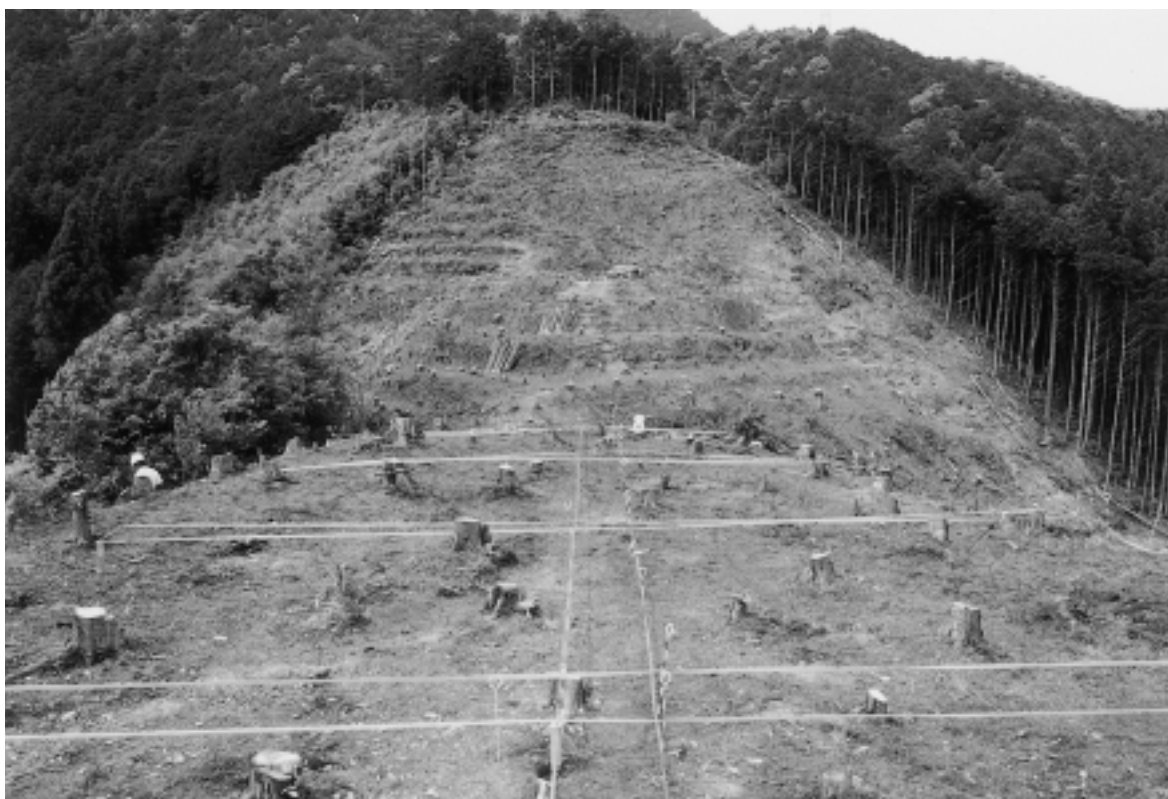
堀切遺構完掘状況（上空西より）



堀切遺構完掘状況（上空東より）



曲輪2 掘削前ベルト設定状況（南より）



同上（北より）



曲輪2・3平坦部(南より)



同上(曲輪1より)



曲輪 2・3 西斜面部掘削状況



曲輪 2 西斜面部トレンチ



曲輪2 南斜面セクション



曲輪3 平坦部南壁セクション(西より)



曲輪3 平坦部南壁セクション（南より）



曲輪3 平坦部西壁セクション（西より）



曲輪3 平坦部掘削状況



曲輪3 東斜面南壁セクション



完掘状況遠景（北より）



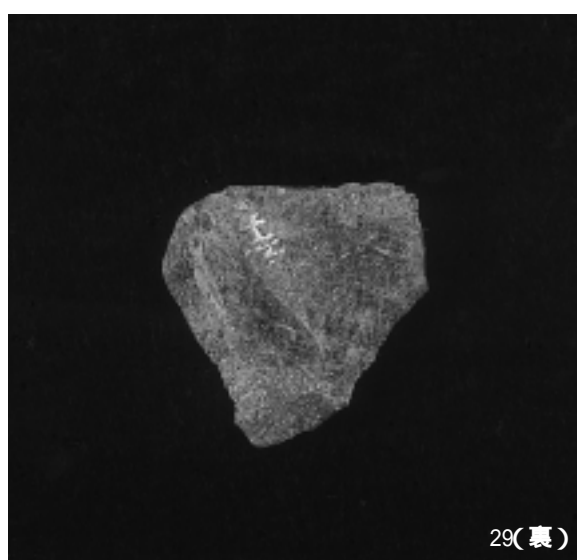
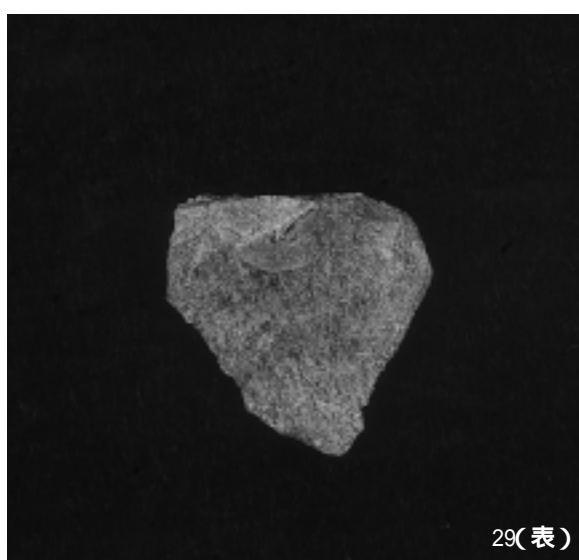
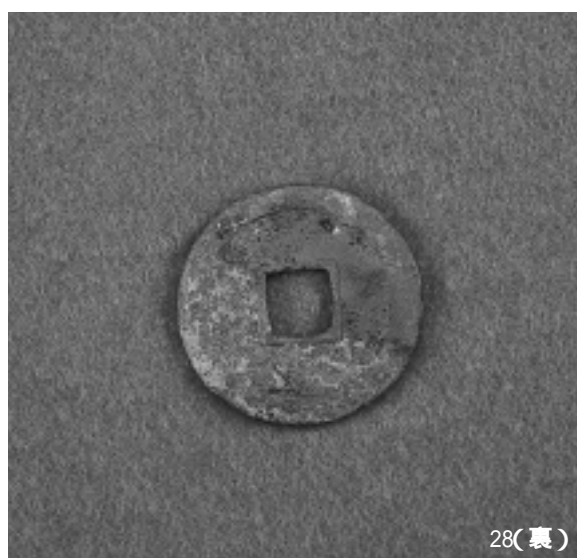
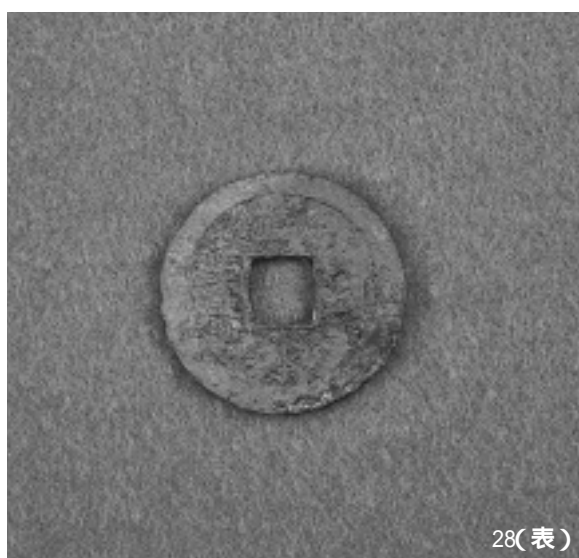
同上

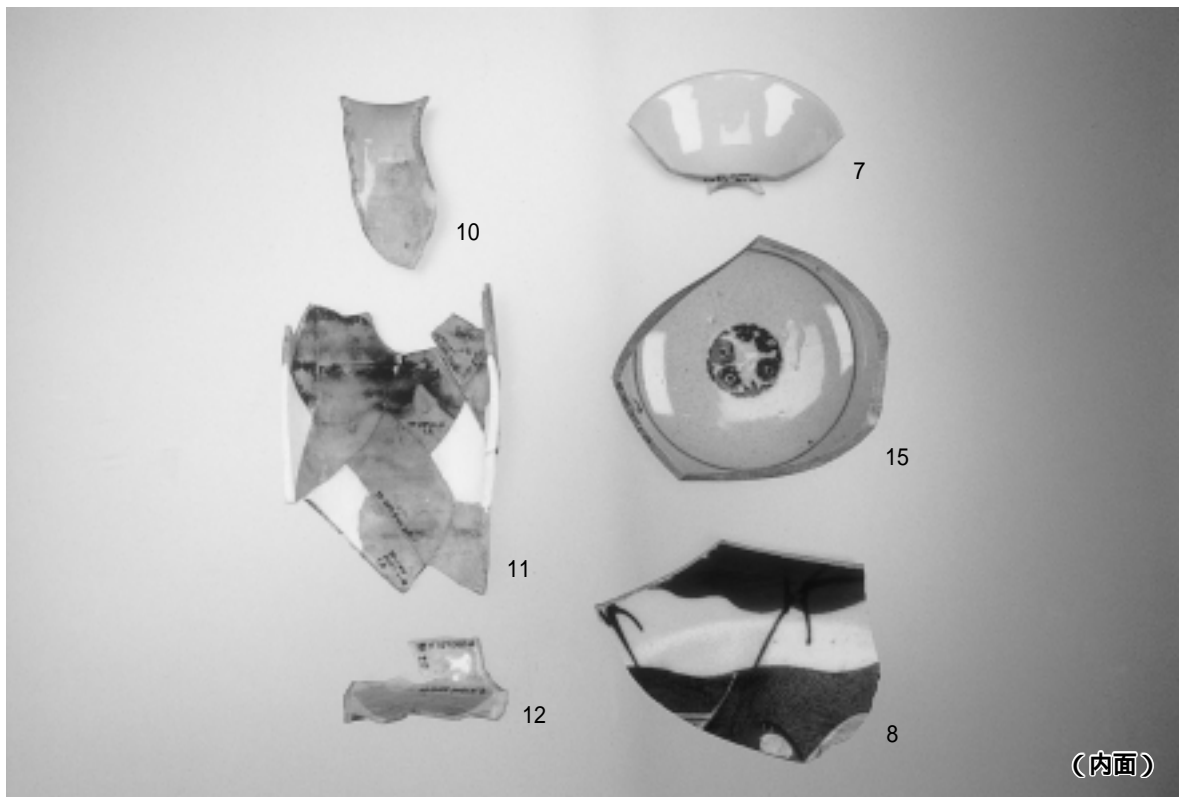
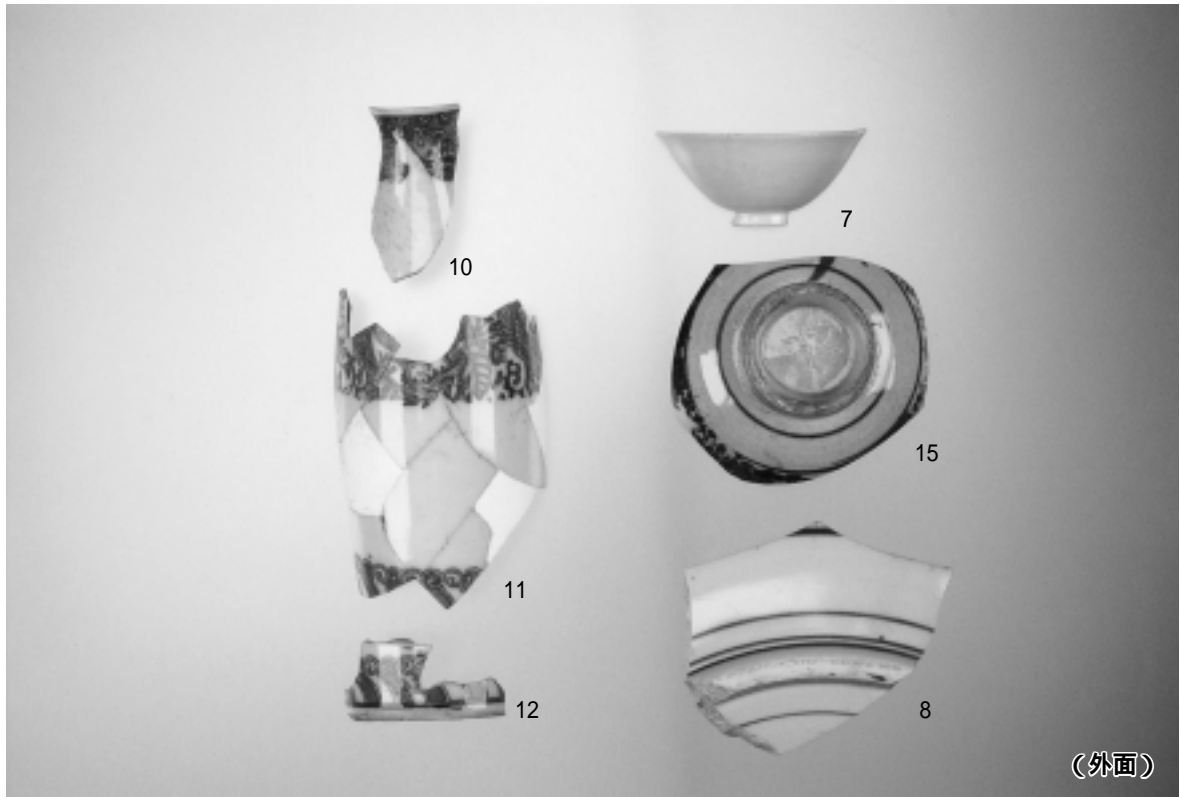


完掘状況（西より）

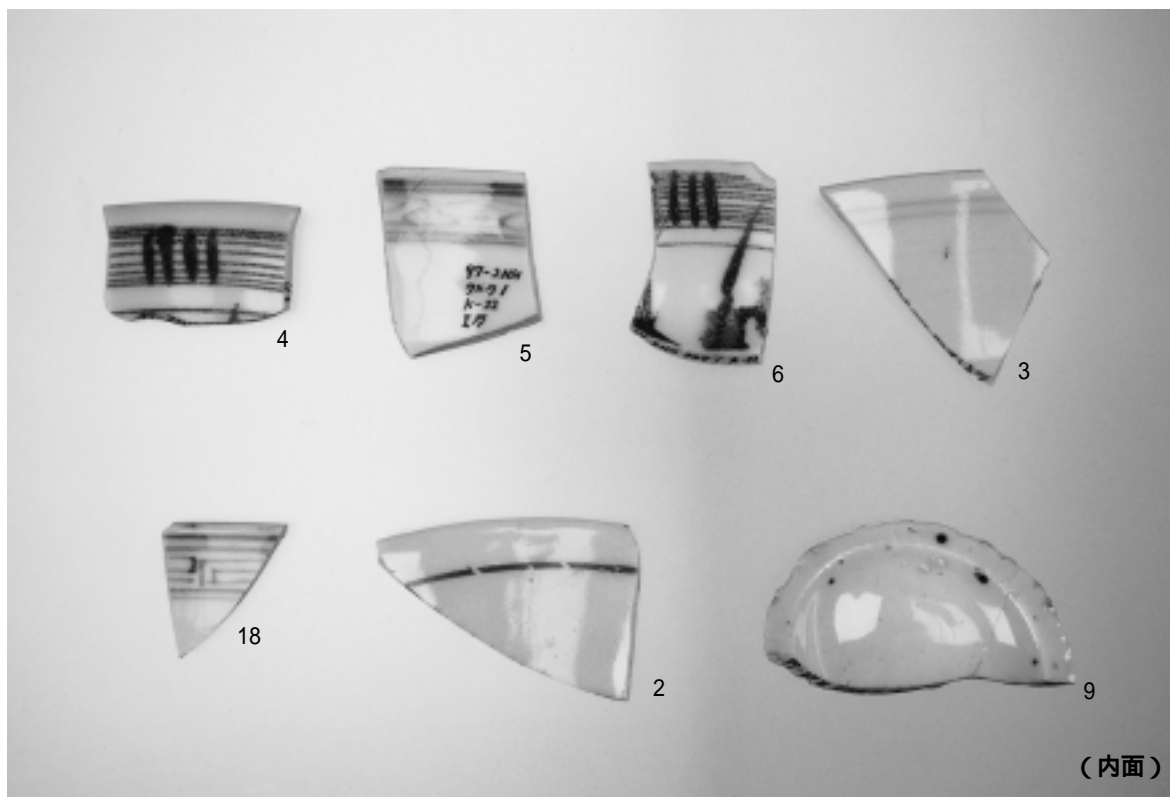
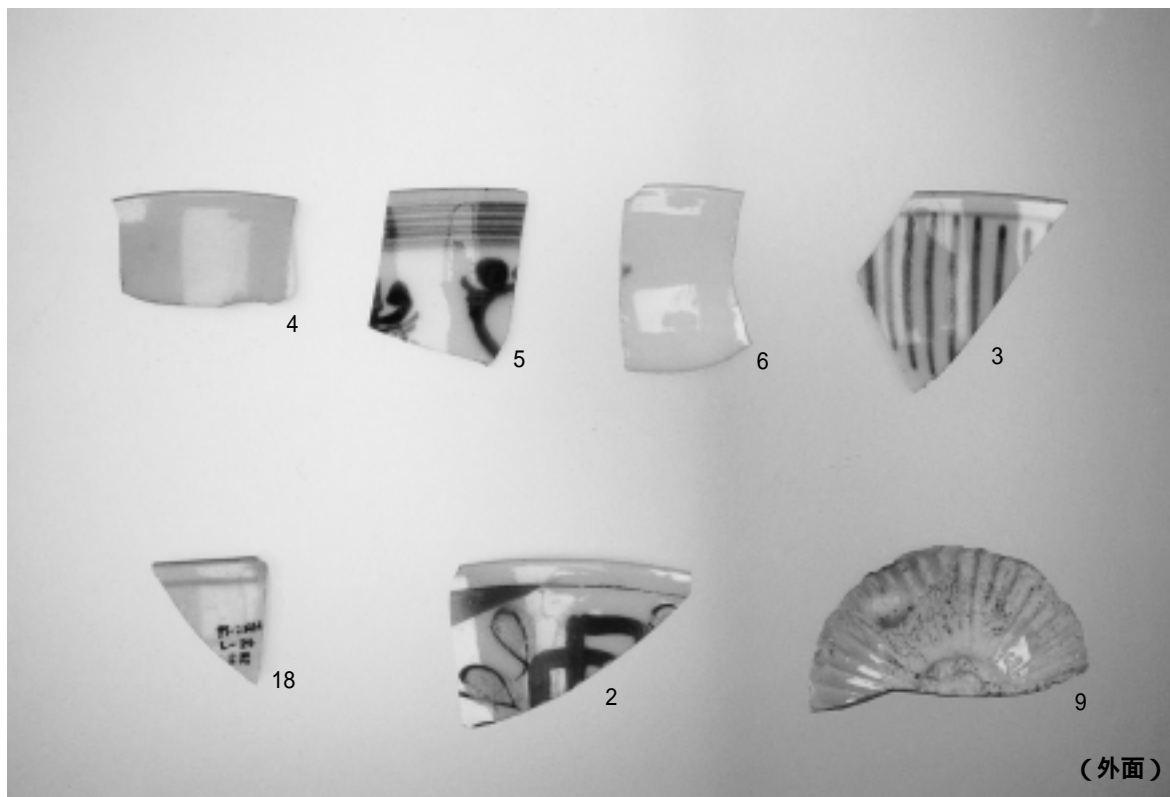


同上（東より）

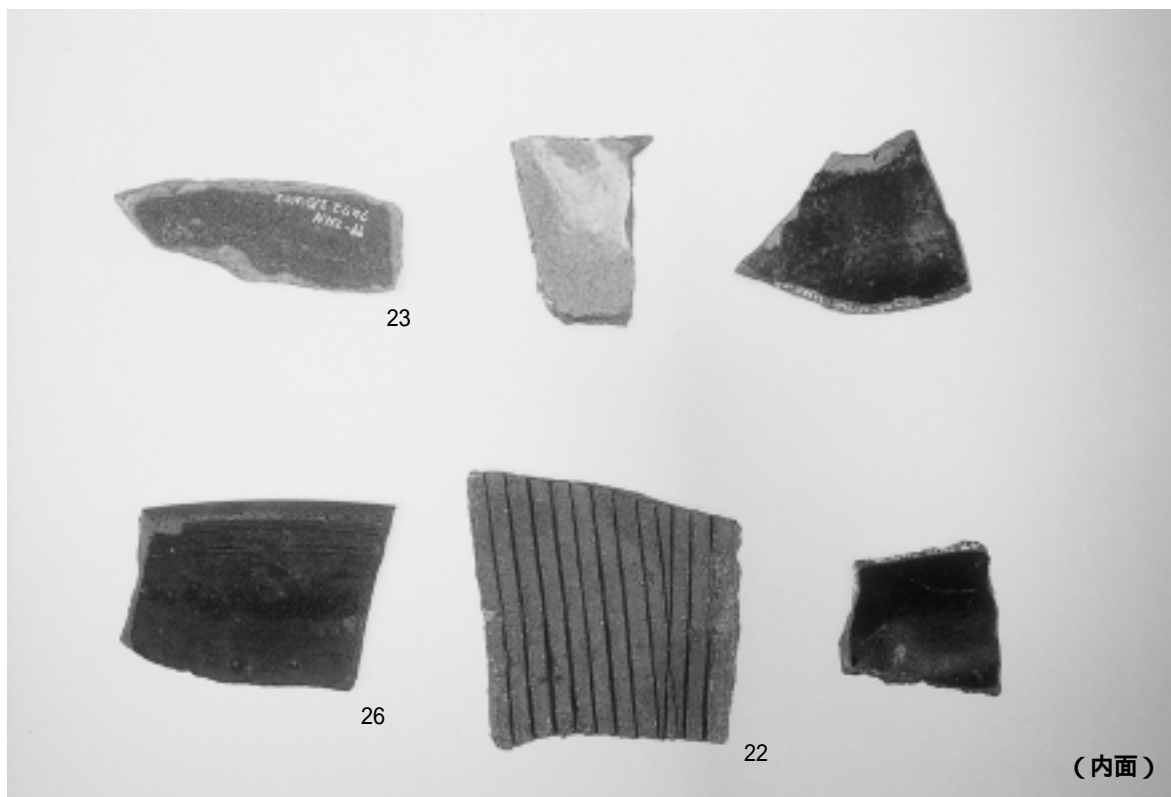
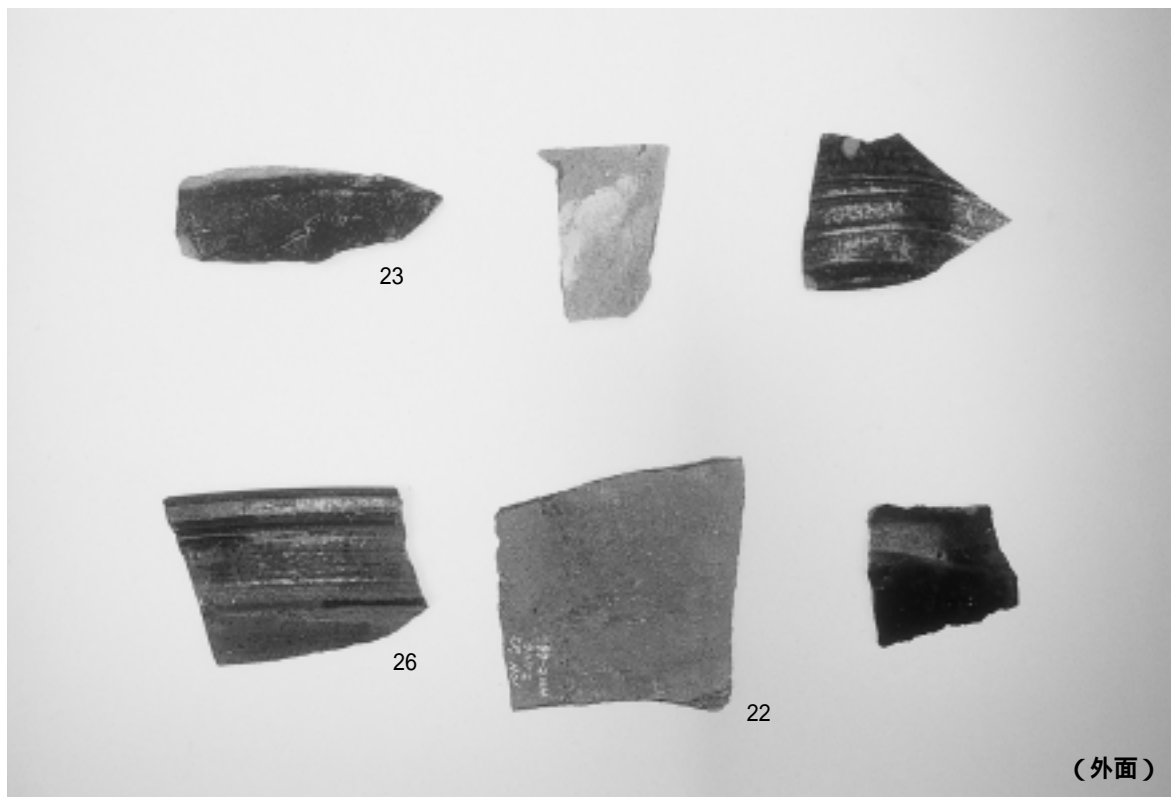




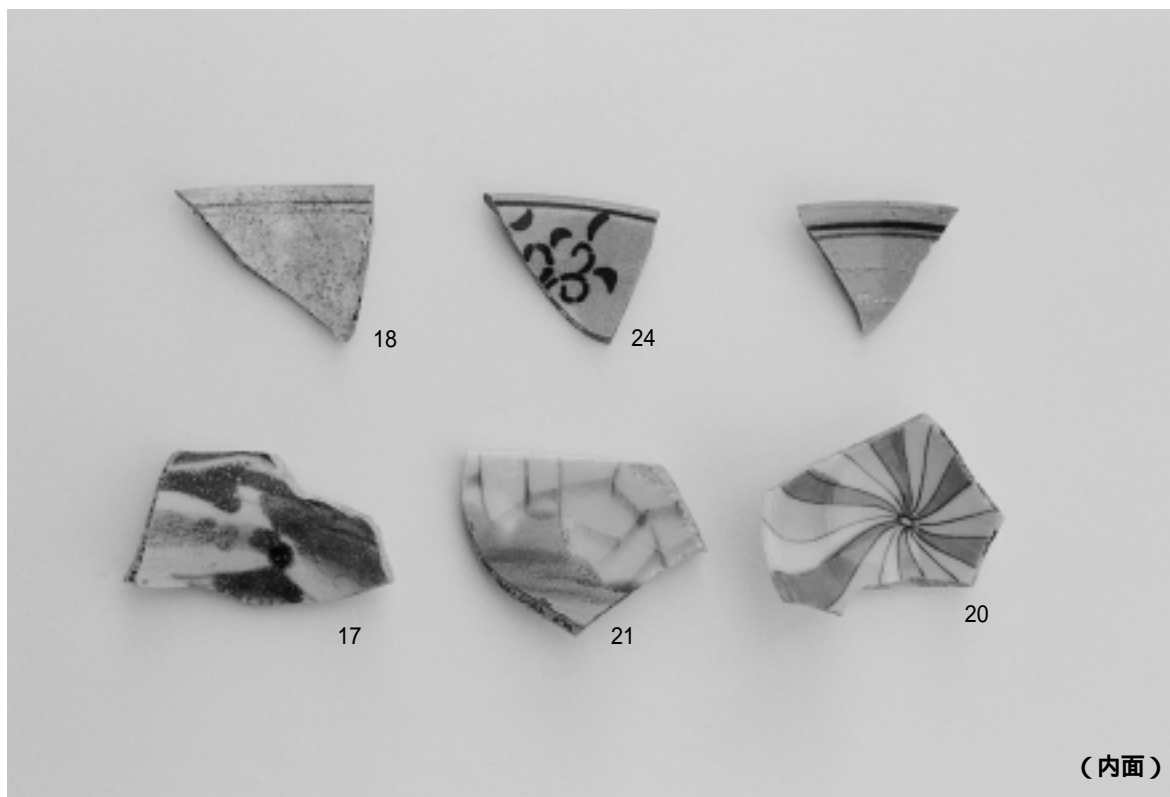
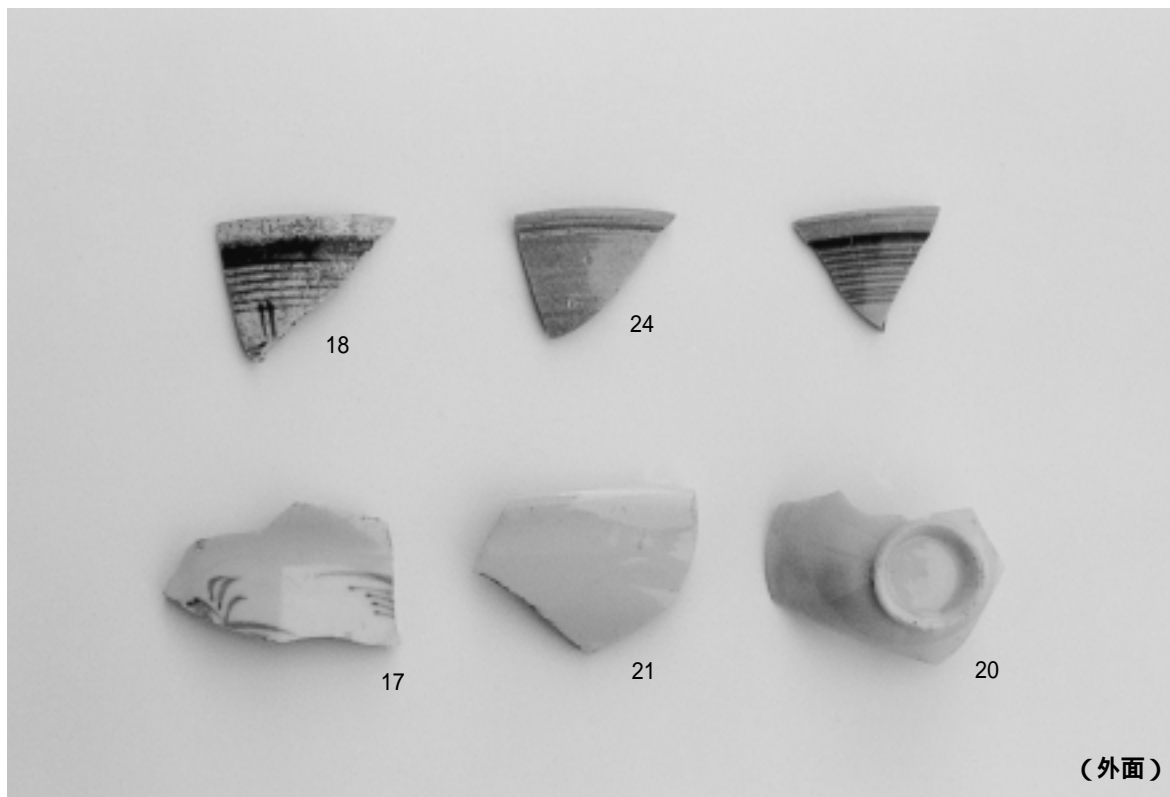
出土遺物 2



出土遺物 3



出土遺物 4



出土遺物 5



森沢城跡と中筋川遠景



森沢城跡遠景

報告書抄録

ふりがな	はざまじょうせき							
書名	間城跡							
副書名	中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書							
巻次	7							
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第49集							
編著者名	筒井三菜							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	高知県南国市篠原南泉1437-1 TEL 088-864-0671							
発行年月日	2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はざまじょうせき 間城跡	こうちけんなか 高知県中 むらしえ 村市江の むら 村	39207	070174	32°57 55	132°53 8	平成9年 5月6日 、 平成9年 10月14日	5,500m ²	中村宿毛 道路高規 格道路建 設工事に 伴う
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
間城跡	山城	中世		堀切・段状遺 構・柱穴		近世陶磁器		

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第49集

間 城 跡

中村宿毛道路関連遺跡発掘調査報告書

2000年3月

編集 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

発行 高知県南国市篠原南泉1437 1
Tel. 088 864 0671

印刷 川北印刷株式会社